

授業科目名： 日本史概説A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川裕子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教科書を含めたあらゆる歴史叙述はあくまでも一つの仮説であり、「歴史をみる眼」によって多様な歴史像を描くことが可能です。歴史学は単なる暗記の学問ではなく、現代社会を理解するための学問であるという認識をもって歴史を捉えるための方法を学びます。また、前近代社会のなかに近代社会が萌芽していることを理解し、特に近代・現代に繋がる前近代の歴史の転換に人びとがどのように関わってきたのか、あるいは自然環境や歴史的な社会状況がいかに影響を与えてきたのかを探りながら、前近代社会の特質を様々な角度から考え、説明できるようになることを目標とします。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>前近代社会には、現代社会とは異なる独自の思考や合理性が存在しています。しかしその一方で、現代社会に繋がる仕組みや体制が作られていきますが、その大きな転換点は14～15世紀にあったといわれています。自然環境の影響や度重なる戦乱によって、現代よりもはるかに生存することが難しかった前近代社会において、人びとが生き残るために作り出した共同体およびその主体的な行動が、権力を動かして原始・古代的な社会を変質させ、伝統的日本社会を形作ってきた過程を、その時代を代表する人物を取り上げながら見通していきます。また、過去の人びとが「生存」するために生み出した様々な文化的な営為に学ぶことで、現代社会が抱える諸問題を解決するための広い視野を獲得することを目指します。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：ガイダンスー日本史の時代区分と歴史をみる眼ー</p> <p>第2回：天武天皇ー朝鮮半島様式から中国方式へー</p> <p>第3回：平将門ー軍事貴族としての「武士」の誕生ー</p> <p>第4回：後白河法皇ー治承・寿永内乱の展開とその実像ー</p> <p>第5回：北条泰時ー武家の法と飢饉への対応ー</p> <p>第6回：北条時宗ーモンゴル戦争と「徳政」と悪党ー</p> <p>第7回：後醍醐天皇ー「異形の王権」としての天皇の姿ー</p> <p>第8回：足利義政ー応仁・文明の乱から群雄割拠の戦国の世へー</p> <p>第9回：北条氏康ー戦国大名の領国支配体制ー</p> <p>第10回：豊臣秀吉ー「惣無事」の実現と三國割构想ー</p>			

第11回：豊臣秀吉―「惣無事」の実現と三國割構想―
第12回：徳川家光―寛永の飢饉の衝撃と初期幕藩政改革―
第13回：徳川綱吉―「いのち」へのまなざしの変化―
第14回：松平定信―人びとの「生存」のための社会政策―
定期試験

テキスト

授業レジュメを配布します。

参考書・参考資料等

授業の中で紹介します。

学生に対する評価

レポート試験（50%）、小テスト（20%）、リアクションペーパー（30%）

授業科目名： 日本史概説B（近代）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井慎一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標 近代日本における歩みを総合的に理解できるようになると共に、基本的な史料を読解する力が身に付く。			
授業の概要 幕末から平成にかけての日本近代を総合的に振り返る。この時代は、現代にも直接つながる時代であり、今を生きる私たちがより良く生きる上でのヒントが多く含まれている。史料読解を中心に、最新の研究成果を取り入れながら、この時代を振り返ることとする。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：オリエンテーション（本講義の目的と概要） 第2回：内憂外患 第3回：開国と幕末の動乱 第4回：明治維新と富国強兵 第5回：自由民権運動と大日本帝国憲法 第6回：日清戦争 第7回：日露戦争 第8回：第一次世界大戦と大正デモクラシー 第9回：満洲事変から日中全面戦争へ 第10回：アジア・太平洋戦争 第11回：戦後の民主改革 第12回：55年体制と高度経済成長 第13回：経済大国から混迷の時代へ 第14回：総括			
テキスト 毎回プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 小風秀雄編『大学の日本史 4 近代』（山川出版社、2016年）、歴史学研究会編『日本史史料 [4] 近代』（岩波書店、1997）、『週刊 新発見！日本の歴史』全50号（朝日新聞出版、2013-2014年）、『全集 日本の歴史』全16巻（小学館、2007-2009年）			

学生に対する評価

レポート試験（70%）、授業参加（30%）

授業科目名： 日本外交史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：伊藤隆太 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
授業のテーマ及び到達目標： 日本外交にかかる基礎的な知識と関連する国際政治学の知識を習得する。			
授業の概要： 明治維新から太平洋戦争にいたる日本外交を学習する。なぜ日中戦争はエスカレーションして泥沼に陥ったのか。なぜ日本は約八倍の国力を持つアメリカに開戦をしたのか。こうした日本外交史における歴史上のパズルを考えていく。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：イントロダクション 第2回：日本外交史をなぜ学ぶのか 第3回：国際政治とは何か 第4回：明治維新 第5回：日清戦争 第6回：日露戦争 第7回：満州事変 第8回：日中戦争 第9回：日独伊三国軍事同盟 第10回：日ソ中立条約 第11回：真珠湾奇襲 第12回：日本外交史への学際的アプローチ 第13回：日本外交史と国際政治理論 第14回：日本外交史と現代国際政治 定期試験：実施しない			
テキスト： 主な教科書：伊藤隆太『進化政治学と国際政治理論——人間の心と戦争をめぐる新たな分析アプローチ』（芙蓉書房出版、2020年）			
参考書・参考資料等： 井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）			
学生に対する評価：			

評価の種類と割合：

- ・定期試験：0%（実施しない）
- ・小論文・レポート：60%（授業内小テストの内容で評価）
- ・授業参加：40%（授業の出席、発言なども成績に反映）

授業科目名： 東洋史概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小川忠 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>講義テーマは「アジアの立場から見た東洋史 ハンムラビ法典からK-POPまで」とする。 到達目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア各地域の社会・宗教・文化がいかに関係形成されてきたか説明できるようになる ・アジア各地域と他地域との関わりがいかに関係形成されてきたか説明できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>グローバルヒストリーの一部として「東洋」を広義で捉え、「東アジア」「東南アジア」「南アジア」「西アジア」地域を対象とする。それぞれの地域の歴史をタテ軸に、地域を越えたヒト・モノ・情報の流れをヨコ軸にして、東洋の歴史を多角的に概観する。</p> <p>各地域の歴史は、「古代から近世の歴史」「近代の開始から第二次世界大戦までの近代史」「第二次世界大戦後から現在までの現代史」の三つに区切る。いかにして現在のアジア世界が形成されているか、を考察する。</p> <p>また、政治、経済のみならず、文明・文化の基盤となる宗教に着目しつつ、アジア各地域の文化の発展、文化交流について学ぶ。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：講義全体の概要、計画、成績評価等のガイダンス</p> <p>第2回：近代前の西アジア史</p> <p>第3回：西アジア近代史</p> <p>第4回：西アジア現代史</p> <p>第5回：近代前の南アジア、東南アジア史</p> <p>第6回：南アジア近代史</p> <p>第7回：南アジア現代史</p> <p>第8回：近代前の東アジア史</p> <p>第9回：東アジア近代史</p> <p>第10回：東アジア現代史</p> <p>第11回：東南アジア近代史</p> <p>第12回：東南アジア現代史</p>			

第13回：文化の視点から近現代アジアを考える：近現代のアジア美術・K-POPの台頭・宗教復興

第14回：講義全体のまとめ、ふりかえり

定期試験は実施しない

テキスト 毎回、講師作成資料をポータルに掲示

参考書・参考資料等

小川忠『自分探しするアジアの国々 揺らぐ国民意識をネット動画から見る』明石書店他、授業中に適宜提示する

学生に対する評価

学期末小論文（30%）、毎回講義後のレスポンスシート記述ぶり・授業内での討議等授業参加（70%）

授業科目名： 西洋史概説A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：早川（長嶋）理 穂
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>歴史学の基礎および古代から近代(古代ギリシアからフランス革命)までの西洋史の基礎的知識を身につけ、正確に説明できるようになる。西洋世界の成り立ちを知ること、西洋の文化や社会についての理解を深められるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>古代ギリシアからフランス革命に至るまでの西洋史の基本的な知識を身につけ、西洋の歴史のおおまかな流れを理解できるようにする。また、歴史学の方法論について学び、歴史学とは何か、という問題意識を養う。様々な歴史的事象の因果関係を意識し、現在の出来事も歴史の因果関係の上に起こっているということを理解できるようにする。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：イントロダクション 歴史学とは何か</p> <p>第2回：古代ギリシアの民主政と古典文化</p> <p>第3回：古代ローマ帝国の繁栄</p> <p>第4回：古代ローマの衰退</p> <p>第5回：古代から中世へ 西ヨーロッパ世界の成立</p> <p>第6回：中世ヨーロッパとキリスト教</p> <p>第7回：中世都市の成立</p> <p>第8回：ルネサンス</p> <p>第9回：宗教改革</p> <p>第10回：近世ヨーロッパの形成 主権国家体制の成立</p> <p>第11回：近世国家の統治—イギリス</p> <p>第12回：近世国家の統治—フランス</p> <p>第13回：市民革命の時代—イギリスの革命、アメリカの革命</p> <p>第14回：市民革命の時代—フランスの革命</p>			
<p>テキスト</p> <p>使用しない。随時プリントを配布する。</p>			

参考書・参考資料等

『世界の歴史』編集委員会編『新 もう一度読む山川世界史』山川出版社、2017年、金澤周作
監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年、中井義明他 『教養のための西洋史入門』
ミネルヴァ書房、2016年、ジャック・ル・ゴフ（前田耕作監訳、川崎万里訳）『子どもたちに
語るヨーロッパ史』ちくま学芸文庫、2009年。

学生に対する評価

定期試験	0%	実施しない
小論文・レポート	60%	期末レポート
授業参加	30%	課題提出
その他	10%	授業への積極的取り組み

授業科目名： 西洋史概説B（近代）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石田信一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 ヨーロッパ史に関する基礎的な知識を獲得し、歴史的に重要な出来事の説明ができるようになること。また、歴史学の研究手法や日本とヨーロッパの比較史への視点を身につけること。			
授業の概要 フランス革命以降のヨーロッパ史に関する主要なトピックを取り上げつつ、全体の流れが把握できるよう時代順に概観する。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：導入 第2回：フランス革命とナポレオン（1）フランス革命 第3回：フランス革命とナポレオン（2）ナポレオン時代 第4回：ウィーン体制 第5回：自由主義と国民主義（1）1848年革命 第6回：自由主義と国民主義（2）イタリアとドイツの統一運動 第7回：帝国主義の時代（1）東方問題と列強のアジア進出 第8回：帝国主義の時代（2）列強のアフリカ・太平洋分割 第9回：第一次世界大戦 第10回：ロシア革命 第11回：両大戦間期のヨーロッパ（1）ヴェルサイユ体制 第12回：両大戦間期のヨーロッパ（2）世界恐慌とファシズムの台頭 第13回：第二次世界大戦 第14回：ヨーロッパの現在 定期試験			
テキスト 大学で学ぶ西洋史[近現代]（小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編、ミネルヴァ書房）			
参考書・参考資料等 事前に基本資料をWeb等を通じて配信する他、授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 定期試験50%、小論文・レポート30%、授業参加の程度等20%			

授業科目名： アメリカ史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：一政史織 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>アメリカ合衆国の地誌と植民地時代から現代に至るまでの歴史を学ぶ。アメリカ合衆国という国家がどのように形成されてきたのか、また、アメリカ社会がどのような問題や課題を抱えてきたのかを理解できるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>アメリカ合衆国の通史と地誌を学ぶことで、その政治・社会・経済・文化のなりたちを多様な視点から捉え直す。授業は講義形式だが、授業内で受講生が積極的に学習や討論に参加する時間も設ける。例えば、トピックについてペアやグループで議論したり、グループワークの時間を持ったりする。講義と、受講者の積極的な協働学習によって、アメリカ合衆国の歴史と地理について各自がより理解と興味を深められるようにする。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：ガイダンス： アメリカの地域と州</p> <p>第2回：アメリカ先住民社会とヨーロッパからの植民者たち</p> <p>第3回：植民地時代</p> <p>第4回：アメリカ革命：アメリカ独立戦争、連合規約、アメリカ合衆国憲法</p> <p>第5回：連邦共和国の成長：ルイジアナ購入・一八一二年戦争・南部の発展と奴隷制</p> <p>第6回：領土膨張：西漸運動と交通革命・テキサス併合・米墨戦争・北部の経済発展と西部</p> <p>第7回：南北戦争と再建期</p> <p>第8回：工業化・都市化と移民をめぐる世論</p> <p>第9回：革新主義と国際協調：第一次世界大戦と戦間期のアメリカ</p> <p>第10回：第二次世界大戦</p> <p>第11回：冷戦と社会運動：反戦運動・フェミニズム運動・市民権を求める運動の展開</p> <p>第12回：公民権運動と人種主義の問題</p> <p>第13回：現代のアメリカ</p> <p>第14回：授業のまとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
テキスト			

遠藤泰生、小田悠生編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』、ミネルヴァ書房、2023年。

参考書・参考資料等

紀平英作『アメリカ史』（上下巻）、山川出版社、2019年。（Kindle版もあり）

その他の参考書、参考資料等は授業内で適宜案内する。

学生に対する評価：授業への参加、授業時の小課題・発表・ペア・グループワークへの貢献 40%、
期末課題のレポート 60%

授業科目名：イスラム史	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：木村風雅 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：「イスラームの歴史：比較宗教学と宗派比較の視点から」</p> <p>授業の到達目標：イスラームの教義や宗派、政治体制を説明できるようになる。</p> <p>特にイスラームの特徴を先行する一神教（ユダヤ教とキリスト教）と比較する視点から説明することができるようになる。</p> <p>イスラームを多数派のスナナ派の視点からだけでなく、シーア派など少数派や他宗派と比較して説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義ではイスラームの教えを説いた預言者ムハンマドの時代から近現代までのイスラームの歴史を概観する。本講義の特徴は、イスラームの誕生を当時のアラビア半島（現在中東と呼ばれる地域）における多神教やユダヤ教、キリスト教など他宗教の関係から読み解く点にある。また、ムハンマド没後のイスラーム王朝や国家の歴史を語る際も、現在の多数派のスナナ派だけでなく、少数派とされるシーア派や他宗派との関係から総体的にイスラームの歴史を捉える点を第二の特徴とする。</p> <p>上記の講義を進めるにあたり、時系列による政治勢力の歴史の変遷を単に追うだけでなく、イスラームの教義の内容、政治思想や神秘主義思想や文化の影響力の推移を前近代から近現代まで概説する。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：世界史年表から見るイスラーム史1400年の概観</p> <p>第2回：イスラームの誕生（とその歴史的背景）：預言者ムハンマドについて</p> <p>第3回：初期イスラーム共同体と他宗教との関わり：多神教徒・ユダヤ教徒・キリスト教徒</p> <p>第4回：イスラームの教義：先行する一神教との比較の視点から</p> <p>第5回：預言者ムハンマドの教友である「正統」カリフの時代：632—661年</p> <p>第6回：政治的・宗教的後継者争いと分派の発生</p> <p>第7回：イスラームの「古典期」：ウマイヤ朝（661-750）とアッバース朝（750-1258）を経て</p> <p>第8回：中世イスラーム国家の林立：「シーア派の世紀」とスナナ派の復興</p> <p>第9回：シーア派とスナナ派の教義と政治論の違い</p> <p>第10回：イスラームの「ポスト古典期」：マムルーク朝（1250-1517）における学問の成熟</p>			

第11回：イスラームの「近世」：オスマン帝国（1299-1922）の歴史と近代の前夜

第12回：イスラームと近代：イスラーム圏の植民地化とオスマン帝国の終焉

第13回：イスラームの政治思想の歴史：前近代から近現代まで

第14回：イスラーム神秘主義の歴史と文化

定期試験は期末レポートに代える

テキスト

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年7月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年7月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領解説 地理歴史編（平成30年7月告示 文部科学省）

参考書・参考資料等

概説書

菊地達也編著『図説 イスラム教の歴史』河出書房新社、2017年

小杉泰『イスラームとは何か～その宗教・社会・文化』講談社現代新書、1994年

余部福三『イスラーム全史』勁草書房、1991年

カレン・アームストロング（小杉朋則訳）『イスラームの歴史：1400年の軌跡』中公新書、2017年

タミム・アンサーリー（小沢千重子訳）『イスラームから見た「世界史」』紀伊国屋書店、2011年

用語辞典

大塚和夫・小杉泰ほか（編）『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002年

日本イスラム協会（監修）『新イスラム事典』平凡社、2002年

学生に対する評価

授業内でのコメントペーパー40%、授業内での小テスト20%、期末レポート40%

授業科目名： 日本文化史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川裕子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>いまにつながる「日本文化」とはどのように作り出されてきたのでしょうか。日本列島に生きた人びとがどのように「日本」という枠組みや「日本的」文化・思考を生み出してきたのでしょうか。本授業では、日本列島の歴史研究のなかで積み上げられてきた「日本文化」像を、研究文献を読み解きながらさまざまな角度から考察していきます。また、その過程で「日本」という枠組みを相対化しながら、「日本文化」をめぐる基本的な問題を理解し、現代社会に潜む諸課題や将来的展望をみいだす能力を獲得することをめざします。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本列島に生きた人びとは、地域によってそれぞれの文化的起源を有していましたが、日本列島に出現した王権を中核に「日本」という国が形成され、それにともなって各地域の文化の変容・融合が進められていきます。一方で、それでもなおも「日本的」な文化とは異なる「非日本的」な文化も列島各地に存在していました。本授業では、日本の民衆文化を理解するために必要となる事項に関する文献を読み解きながら、「日本的」な文化の源泉や「非日本的」な文化の様相「日本文化」について検討していきます。また、身分制社会であった前近代の人びとがそれぞれどのような考え方に支えられて独自の文化を生み出してきたのかについても考察していきます。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：ガイダンス―「日本文化」とはなにか― 第2回：「日本」とは（1）―「日本」の誕生― 第3回：「日本」とは（2）―「天皇」をめぐる諸相― 第4回：「日本」とは（3）―「日本人」とはなにか― 第5回：「日本」とは（4）―描かれた「日本人」― 第6回：身分と文化（1）―制度的身分と社会的身分― 第7回：身分と文化（2）―支配する人びと― 第8回：身分と文化（3）―支配される人びと― 第9回：身分と文化（4）―排除される人びと― 第10回：周縁に生きる人びと（1）―アイヌの人びと―</p>			

第11回：周縁に生きる人びと（2）—琉球の人びと—
第12回：周縁に生きる人びと（3）—越境する人びと—
第13回：周縁に生きる人びと（4）—歴史のなかの女性—
第14回：まとめ—「日本」をめぐる諸問題について—

定期試験

テキスト

授業レジュメを配布します。

参考書・参考資料等

授業の中で紹介します。

学生に対する評価

レポート試験（50%）、小テスト（20%）、リアクションペーパー（30%）

授業科目名： 中国文化史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：原正人 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 中華圏（中国、台湾、香港など）における女性の位置の変遷を、メディアなども用いながら講義する。中華圏の大まかな歴史の概要を説明できるとともに、中華圏とは切り離せない日本という位置からながめることで、より身近かつ複雑な観点から中華圏を理解することを目標とする。			
授業の概要 中国大陸・香港・台湾などいわゆる中華圏の文化や人々について、歴史の知識を取り入れつつ、今日の状況も視野に入れながら理解を深める。今年度はとりわけ「女性」をめぐる言説に焦点を当て、その時代背景と生き方、そしてその地位の変遷を知ること重点を置く。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：ガイダンス・導入 第2回：歴史と神話：花木蘭とムーラン 第3回：古代における女性の地位：孟姜女と祝英台 第4回：政治と女性：則天武后と西太后 第5回：清末における改革・革命 第6回：五四新文化運動と女性解放論：成果とその限界 第7回：宋家の三姉妹 第8回：メディアと女性：李香蘭 第9回：抗日戦争と大衆、そして女性：婉容と丁玲 第10回：中国国民党統治下の女性：新生活運動と婦女指導委員会 第11回：中国共産党と女性：毛沢東と江青 第12回：香港の歴史と女性：映画と「香港アイデンティティ」 第13回：台湾の歴史と女性：『サヨンの鐘』から蔡英文まで 第14回：総括：中華圏にとっての「女性」とは？ 定期試験			
テキスト 特に定めない。			

参考書・参考資料等

講義ごとに参考文献一覧を授業資料に明記する。

学生に対する評価

学期末の試験、リアクションペーパー、出欠状況などをもとに総合的に評価する。

授業科目名： 西洋文化史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：石田信一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 ヨーロッパ文化史に関する基礎的な知識を得るとともに、さまざまな視点から「文化」それ自体に関する理解を深めること。文化史の諸概念について説明できるようになること。			
授業の概要 近世・近代におけるヨーロッパ文化の諸相について、人・物・思想などの移動・交流に焦点をあてて考察する。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：導入 第2回：旅の文化史（1）旅人の誕生 第3回：旅の文化史（2）グランドツアーからハネムーンへ 第4回：旅の文化史（3）ガイドブックの時代 第5回：旅の文化史（4）ハプスブルク帝国を旅する（1）総説 第6回：旅の文化史（5）ハプスブルク帝国を旅する（2）都市とリゾート 第7回：印刷文化と旅（1）近代の印刷文化 第8回：印刷文化と旅（2）国境を越える書物 第9回：印刷文化と旅（3）近代読者の成立と読書室 第10回：博物学の時代（1）啓蒙主義と博物館の思想 第11回：博物学の時代（2）コレクターの誕生と美術館の起源 第12回：東西交流の文化史（1）ヨーロッパから日本への旅 第13回：東西交流の文化史（2）西欧と日本の交流史 第14回：東西交流の文化史（3）東欧・ロシアと日本の交流史 定期試験			
テキスト 地域文化研究3 ヨーロッパの歴史と文化（草光俊雄・宮下志朗、放送大学教育振興会）			
参考書・参考資料等 事前に基本資料をWeb等を通じて配信する他、授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 定期試験50%、小論文・レポート30%、授業参加の程度等20%			

授業科目名： 日本の歴史と社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：長谷川裕子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>有史以来、歴史を動かしてきたのは時の権力者や政治家だけではありません。確かに、政権を担当し、政治や法を主導してきたのは権力者や政治家です。しかし一方で、彼らを動かす主体がいたからこそ、長い歴史のなかで繰り返し政権交代が実現してきたわけです。そして、その主体の一翼となったのは民衆でした。本授業では、時代を動かしてきた民衆の視角から捉えた日本中世社会の特質について学びながら、歴史をみる視角や分析方法によってそれぞれ異なる歴史像の提示が可能であることを理解し、それを歴史研究の意義として伝達できるようになることをめざします。また歴史学が、現代社会を知るための学問であるという意識をもち、前近代社会のなかに近代社会が萌芽してくることを、講義を通じて理解していきます。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中世社会に生きた人びとは、どのような思考や合理性のもとに生活し、活動していたのでしょうか。また、中世の権力は、民衆を一方向的に支配していたのでしょうか。飢饉と戦争が頻発する中世社会では、人びとの「生存」は非常に困難で、人びとは生き残るためにさまざまな仕組みや組織、社会関係を取り結んできました。なかでも、14世紀以降につくり出された生命維持組織としての「村」共同体は、中世社会を大きく転換させる原動力となっていきます。本授業では、民衆の「生存」を可能にした「村」共同体の動向と権力との関係に注視しながら、民衆の歴史を紐解いてゆきます。また、過去の人々の営為に学ぶことで、現代社会の諸問題を考える広い視野を獲得することを目的とします。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：ガイダンスー「民衆」の視角からみる歴史ー</p> <p>第2回：中世という時代（1）ー災害・飢饉・戦争ー</p> <p>第3回：中世という時代（2）ー生命維持装置としての村ー</p> <p>第4回：村の紛争解決の作法（1）ー際限なき報復合戦ー</p> <p>第5回：村の紛争解決の作法（2）ー室町期の紛争解決ー</p> <p>第6回：内乱の展開ー土一揆と足輕の躍動ー</p> <p>第7回：「家」権力の構造と機能（1）ー戦国大名権力の形成過程ー</p> <p>第8回：「家」権力の構造と機能（2）ー戦国大名領国の構造と裁判ー</p>			

第9回：「家」権力の構造と機能（3）―戦国大名「国家」の本質― 第10回：「惣国一揆」権力の形成過程とその構造（1）―「惣国一揆」権力の構造― 第11回：「惣国一揆」権力の形成過程とその構造（2）―「惣国一揆」権力への拡大過程― 第12回：「家」権力と「惣国一揆」権力（1）―所領構造と非常時の動向― 第13回：「家」権力と「惣国一揆」権力（2）―同盟と領域保全― 第14回：中世から近世へ―列島「平和」の形成過程― 定期試験
テキスト 授業レジュメを配布します。
参考書・参考資料等 授業の中で紹介します。
学生に対する評価 レポート試験（50%）、小テスト（20%）、リアクションペーパー（30%）

授業科目名： ヨーロッパの歴史と社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：平正人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・外国史		
授業のテーマ及び到達目標 西洋における出版メディア史を様々な角度から考察することによって、西洋文化に対する幅広い知識を身につけると同時に、日本と西洋の相違点や類似点を説明できるようになること。			
授業の概要 「出版革命」といわれる電子メディアの登場は、私たちの生活を大きく変化させたのであろうか。この授業では出版と人間の関わり合いを歴史的に考察することによって、現代社会が直面している問題を正確に理解し、いまを生きる私たちに求められているのは何かについて考えていきたい。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：導入 出版メディアからみる社会 第2回：中世キリスト教社会と書物 知の体系化 第3回：ルネサンスと書物 印刷革命とはなにか？ 第4回：グーテンベルクの後継者たち（1） キャクストン 第5回：グーテンベルクの後継者たち（2） プランタン 第6回：出版検閲の成立とパンフレットの誕生 第7回：宗教改革とパンフレット 笑いと恐怖 第8回：啓蒙思想とパンフレット ポルノグラフィと哲学書 第9回：フランス革命とパンフレット 政治論争から生まれた消費文化 第10回：新聞の誕生 Gazette とルノド 第11回：絶対王政と新聞 Gazette をめぐる争い 第12回：フランス革命前夜と新聞 新聞の多様化 第13回：フランス革命と新聞 世論が導く革命 第14回：国民国家と新聞 商品としての新聞 定期試験			
テキスト 坂井榮八郎『ドイツ史10講』岩波新書、2003年。 柴田三千雄『フランス史10講』岩波新書、2006年。			

近藤和彦『イギリス史10講』岩波新書、2013年。

参考書・参考資料等

授業時に指示する。

学生に対する評価

授業参加：課題の提出および積極的な授業参加態度によって評価する（40%）

定期試験：授業目標を達成(C)、十分に達成(B)、十分に達成し優れた論述(A)、十分に達成しかつ特に優れた論述(S)（60%）

授業科目名： 考古学概説	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：水本（樋口）和 美 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史 ・日本史		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考古学とは、層位学と型式学にもとづく発掘調査により、地中から掘り出された資料（遺跡・遺構・遺物）を、周辺諸科学などのあらゆる情報をも用いて、正しく理解し、歴史と文化を再発見できる学問である。この答えの導き方、すなわち考古学的な思考方法は、現在、インターネットを用いた検索によって多様な答えが即座に得られる環境に生きる上では、かえって重要な意義を持つものと考えている。 ・そこで、考古学が経験した過去の諸課題や、現在おこっている考古学をとりまく諸課題・諸問題を考えることで、考古学の持つ面白さを理解できるようにする。 ・方法も重要であるが、実物資料をから考えることに意味を持つと思うので、実物にふれる機会を多く設けたい。考古学への入門の一步として、また、社会人となった際に考古学を「楽しむ」ことができる教養として、さまざまな観点から伝えることを大切にしたい。 <p>学生は、考古学の学問の成果やその方法についての各回を講義を聴き、また講義の前後の予習・復習では講義で紹介された文献などを読むなどすることで、考古学の学問の成果やその方法に関する知識を得てそれを深めることができる。各回のリアクションペーパーによって、学生はその得られた知識等の学びを教員に対して示すことができる。そして、学期末のレポート提出によって、得られた知識と深めた考えについてをまとめ、どの程度の到達点に至ったかを客観的に理解することになる。併せて、学生は、実物資料から情報・知識につなげることについて考えるも考えを深めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義では主として日本考古学の方法や成果について、おおむね時代別、時代の順番に沿って概説していく。 ・考古学の成果とその成果が得られた方法について説明していくので、その方法と成果について区別しながら学んで欲しい。 			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：考古学とは何か（本講義のガイダンス）</p> <p>第2回：人類の歴史と日本の旧石器時代</p>			

第3回：考古学の方法「層位学と型式学」～変わるもの、変わらぬもの～
 第4回：文化財保護法と考古学の歩み～考古資料は誰のもの!?～
 第5回：縄文時代の遺跡と文化～縄文は“異文化”か?～
 第6回：縄文文化の華、縄文土器の世界
 第7回：縄文のはじまりはいつなのか?～考古学と自然科学～
 第8回：西の弥生、東の縄文～文字のある時代の考古学Ⅰ 弥生時代～
 第9回：文字のある時代の考古学Ⅰ 弥生時代（金属器の利用）
 第10回：文字のある時代の考古学Ⅱ 古墳時代
 第11回：文字のある時代の考古学Ⅲ 奈良・平安時代
 第12回：文字のある時代の考古学Ⅳ 中世の考古学（トピックス琉球～中央史観からの脱却）
 第13回：文字のある時代の考古学Ⅴ 近世の考古学
 第14回：文字のある時代の考古学Ⅵ 近現代の考古学
 定期試験 課題レポートの提出

テキスト

- ・指定テキストはない。ただし、各回の講義で文献を紹介する。
- ・高校時代の教科書も、あれば確認のこと。

参考書・参考資料等

<概説書>

- ・濱田耕作1996『通論考古学』雄山閣出版（原書は大正11年）
- ・大塚初重他1978『日本考古学を学ぶ』1・2・3有斐閣選書
- ・鈴木公雄1996『考古学入門』東京大学出版会 *読みやすく、初学者にとっての良書。
- ・大塚初重他1978『日本考古学を学ぶ』1・2・3有斐閣選書
- ・山本孝文・青木敬・城倉正祥・寺前直人・浜田晋介著2022『考古学概説』

<海外の概説書※翻訳版>

- ・コリン・レンフルー ポール・ボーン2007『考古学-理論・方法・実践-』東洋書林

各回の講義では、それぞれのテーマに即した文献を随時紹介していきます。

関連ページ

学生に対する評価

その他：50% 学期末に課題レポートを課す（必須・未提出は落単）。講義の理解度で評価。
 小論文・レポート（平常時）：10% 講義の進捗に応じ、小課題を課すことがある。※多くても2課題程度。
 授業参加（平常時）：40% 各回リアクションペーパーの提出を持って講義の出席とみなす。

授業科目名： 地理学概説	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高皇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 人間生活と自然環境の相互関係について地理学的視点に立って分析・判断・洞察することができるとともに、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を身につけることができる。また、社会科・地理歴史科の教育内容に関する専門的知識（特に地理学に関する知識）を身につけることができる。			
授業の概要 人間生活と自然環境・社会環境の相互関係について多角的に捉えようとする地理学の視点を身につけるために、地理学の各分野を概観した上で、「地域」という概念を基に、地域の自然、産業、交通、私たちが毎日生活している地域との関わり合いなど、様々な地域における地理的事象の検討を行いながら、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を習得していく。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：オリエンテーション 地理学の構造 第2回：緯度・経度と世界地図 第3回：時差 第4回：地図の分類と地図の歴史 第5回：統計と統計地図 第6回：デジタルマップとGIS 第7回：ハザードマップと防災 第8回：メンタルマップと子どもの発達 第9回：世界の地形 第10回：世界の気候・植生 第11回：世界の農業・産業 第12回：世界と日本の交通 第13回：日本の人口と文化 第14回：日本の産業 定期試験			
テキスト 帝国書院編集部（編）『新詳高等地図』（帝国書院、2024年）			

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』、文部科学省『高等学校学習指導要領』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』

学生に対する評価

受講態度20%、提出物20%、試験60%の割合で評価する。授業態度は回収したファイルの他、私語・姿勢・発言などでも評価を行う。

授業科目名： 自然地理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高皇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 自然地理学の基本的な考え方と基礎的知識を習得し、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を身につける。また、自然地理学の方法を用いて、自然環境の構造と変動を把握することができ、社会科・地理歴史科の教育内容に関する専門的知識（特に自然地理学に関する知識）を身につけることができる。			
授業の概要 自然地理学は人間生活と自然現象との繋がりを明らかにする学問である。大学レベルの自然地理学初学者のための入門として、自然地理学の各領域を概観しながら、自然地理学の基礎的な概念を学習するとともに、大学周辺をフィールドとし、地理学特有の概念や、分析・判断・洞察の技能、即ち「社会的事象の地理的な見方・考え方」を習得していく。また、大学周辺のフィールドワークを通し、実際の地域を観察することの重要性も学ぶ。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：オリエンテーション 地理学の構造 第2回：大地形 第3回：地形図 第4回：小地形① 扇状地・三角州 第5回：小地形② 沖積平野・自然堤防 第6回：小地形③ 河岸段丘・海岸段丘 第7回：小地形④ 沈水海岸・離水海岸 第8回：小地形⑤ カルスト地形・氷食地形 第9回：フィールドワーク 第10回：気候学 世界の気候区分 第11回：植生地理学 気候と植生 第12回：土壌地理学 気候と土壌 第13回：水文学 水資源の今後 第14回：環境問題と教育 定期試験			

テキスト

帝国書院編集部（編）『新編コンターワーク地形図学習の基礎最新版』（帝国書院、2020年）

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』、文部科学省『高等学校学習指導要領』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』

学生に対する評価

受講態度20%、提出物およびポスターセッション20%、試験60%の割合で評価する。授業態度は回収したファイルの他、私語・姿勢・発言などでも評価を行う。

授業科目名： 地誌学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高皇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然地理学的・人文地理学的な観点から理解・比較することができ、地域を捉えるための、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を身につけることができる。また、地図や統計を使って地域を分析することができ、社会科・地理歴史科の教育内容に関する専門的知識（特に地誌学に関する知識）を身につけることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グローバル化が進む現代社会を理解するためには、世界の事情に通じることはますます重要になってきているが、世界の諸地域を理解するためには、私たちの住む地域にはどのような特徴があるのか、他の地域とどのような違いがあるのかといった身近な地域の理解が必要である。そこで本科目では世界・日本の諸地域を取り上げ、「社会的事象の地理的な見方・考え方」の基礎となる、地域の捉え方を学んでいく。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：オリエンテーション 地誌と系統地理</p> <p>第2回：ヨーロッパの地誌</p> <p>第3回：北アメリカの地誌</p> <p>第4回：南アメリカの地誌</p> <p>第5回：東アジア・ロシア周辺の地誌</p> <p>第6回：東南アジア・南アジアの地誌</p> <p>第7回：西アジア・アフリカ・オセアニアの地誌</p> <p>第8回：九州・沖縄地方の地誌</p> <p>第9回：中国・四国地方の地誌</p> <p>第10回：近畿地方の地誌</p> <p>第11回：中部地方の地誌</p> <p>第12回：関東地方の地誌</p> <p>第13回：東北地方の地誌</p> <p>第14回：北海道地方の地誌</p>			

定期試験
テキスト
帝国書院編集部（編）『新詳高等地図』（帝国書院、2024年）
参考書・参考資料等
文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』、文部科学省『高等学校学習指導要領』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』
学生に対する評価
受講態度20%、提出物20%、試験60%の割合で評価する。授業態度は回収したファイルの他、私語・姿勢・発言などでも評価を行う。

授業科目名： 人文地理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高皇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・人文地理学・自然地理学		
授業のテーマ及び到達目標 人文地理学の基本的な考え方と基礎的知識を習得し、「社会的事象の地理的な見方・考え方」を身につける。また、人文地理学の方法を用いて、地域社会の構造と変動を把握することができ、社会科・地理歴史科の教育内容に関する専門的知識（特に人文地理学に関する知識）を身につけることができる。			
授業の概要 人文地理学は、人間と地域との繋がりを明らかにする学問である。大学レベルの人文地理学初学者のための入門として、人文地理学の各領域を概観しながら、人文地理学の基礎的な概念を学習するとともに、大学周辺をフィールドとし、地理学特有の概念や、分析・判断・洞察の技能、即ち「社会的事象の地理的な見方・考え方」を習得していく。また、大学周辺のフィールドワークを通し、実際の地域を観察することの重要性も学ぶ。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：オリエンテーション 地理学の構造 第2回：緯度・経度と世界地図 第3回：地図と親しむ 読図・作図の基本 第4回：統計・文献を集める 収集・表現の基本 第5回：聞き取り調査の手法・作法 第6回：フィールドワーク 第7回：経済地理学 経済立地論 第8回：社会地理学 過疎化とコミュニティ 第9回：歴史地理学 古地図を読む 第10回：都市地理学 防犯ハザードマップ 第11回：農業地理学 環境決定論と環境可能論 第12回：文化地理学 寺社と祭り 第13回：交通地理学 バスマップを読む 第14回：ポスターセッション 定期試験			

テキスト

帝国書院編集部（編）『新編コンターワーク地形図学習の基礎最新版』（帝国書院、2020年）

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』、文部科学省『高等学校学習指導要領』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』

学生に対する評価

受講態度20%、提出物およびポスターセッション20%、試験60%の割合で評価する。授業態度は回収したファイルの他、私語・姿勢・発言などでも評価を行う。

授業科目名： 民俗学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木明子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：民俗学入門</p> <p>到達目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民俗学の研究対象と方法について、基礎知識を学び、その対象と方法について説明出来る。 ・生活の中に息づいた伝承に目を向け、身の回りにある伝承に関心を持つようにする。 ・伝承に関して自らの見解を述べる事が出来る。 			
<p>授業の概要</p> <p>民俗学は、伝承すなわち文字として記録されることなく語り伝えられてきた日常の慣習や信仰、言葉などを記録し、またその分析を通して、生活様式や地域性などを読み解いていこうとする学問である。民俗学初心者のために、基礎知識を取り上げていく。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：ガイダンス：民俗学入門</p> <p>第2回：民俗学概説（1）民俗学の研究対象</p> <p>第3回：民俗学概説（2）民俗学史</p> <p>第4回：民俗学の調査・研究方法：フィールドワークのすすめ</p> <p>第5回：衣食住</p> <p>第6回：生業</p> <p>第7回：中間のまとめ</p> <p>第8回：地域社会と家</p> <p>第9回：人生儀礼</p> <p>第10回：民俗宗教</p> <p>第11回：口承文芸</p> <p>第12回：暦と年中行事</p> <p>第13回：民俗芸能と地域</p> <p>第14回：まとめ</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>テキストはとくに指定しない。授業中に適宜資料やレジュメを配付する。</p>			

参考書・参考資料等

上野和男ほか編『新版民俗調査ハンドブック』吉川弘文館

市川秀之ほか編『はじめて学ぶ民俗学』ミネルヴァ書房

その他、授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

授業内課題（30%）

基礎知識についてのテスト（70%）

授業科目名： 文化人類学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：森谷裕美子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 社会 ・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。） ・地誌		
<p>授業のテーマ：人の一生と文化</p> <p>到達目標</p> <p>1 「我々の文化もまた、ある時代の特定の文化が生み出した知識と技術の体系の一つであり、絶対的、普遍的なものではない」という考え方が理解できる。</p> <p>2 「異文化に生きる他者」との共生のあり方について、自ら考えることができる。</p> <p>3 現代社会が抱えるさまざまな問題を解決するためのヒントを見つけ出すことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>人類学とは人間を研究する学問であり、その研究分野はきわめて広範である。人類学の一分野である文化人類学では「社会的・文化的存在」としての人間を研究するが、ここでは特に「社会的・文化的存在として生きるとはどういうことか」を中心的なテーマに据え、個々の社会の事例をもとに「人間とは何か」を考える。具体的には、人間が一生の間に社会の成員としてどのように親子や家族、親族などの社会関係を築き、そこでそれぞれに与えられた役割をどのように行き、死んでいくかを「生、家族・親族、病、死」といった項目にそって学んでいく。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：授業のねらい：文化とは何か、文化人類学とはどんな学問か</p> <p>第2回：1 宗教と関わること (1) 信仰の対象と儀礼</p> <p>第3回：1 宗教と関わること (2) 人間の一生と儀礼の関わり</p> <p>第4回：2 この世に生まれること (1) 人間の誕生 (2) 親子関係を規定するもの</p> <p>第5回：3 大人になること (1) 大人になるための成人儀礼</p> <p>第6回：3 大人になること (2) 婚姻制度と新たな家族の形成-1：婚姻制度</p> <p>第7回：3 大人になること (2) 婚姻制度と新たな家族の形成-2：新たな家族の形成</p> <p>第8回：4 病むこと (1) 病とその対処法 (2) 病因としての超自然的存在</p> <p>第9回：4 病むこと (3) 病気治療と霊的職能者-1：病気治療</p> <p>第10回：4 病むこと (3) 病気治療と霊的職能者-2：霊的職能者</p> <p>第11回：5 死ぬこと (1) 死の意味と死者儀礼</p> <p>第12回：5 死ぬこと (2) 死体処理の方法と意味</p> <p>第13回：5 死ぬこと (3) 祖先とのかかわり方</p> <p>第14回：まとめ：これまでの講義の総括</p>			

定期試験
テキスト 独自に作成した資料を授業時間内に配布する。
参考書・参考資料等 ・マリノウスキー『バロマ：トロブリアンド諸島の呪術と死霊信仰』未来社、1981年 ・エヴァンズ＝プリチャード『ヌアー族』平凡社、1997年
学生に対する評価 定期試験（60%）、小論文・レポート（20%）、授業中の課題の提出（20%）

授業科目名： 法学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋聖子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
授業のテーマ及び到達目標 社会のどのような問題に対し、法はどのような解決法を提示しているのか、法律を適用するうえで問題となることは何かについて、説明できる。			
授業の概要 初めて法に触れる学生を対象に、主に民法を中心に授業を行う。立法趣旨や判例等に触れながら、法を学び、リーガルセンスを身に着けることを目標とする。教員による講義と学生同士のディスカッションを通じて、より深い理解を促す。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：ガイダンス 法とは 第2回：刑法の考え方 第3回：契約 第4回：表現の自由 第5回：契約についてのグループディスカッションと発表 第6回：表現の自由についてのグループディスカッションと発表 第7回：所有権 第8回：選挙 第9回：所有権についてのディスカッションと発表 第10回：選挙についてのディスカッションと発表 第11回：株式会社 第12回：雇用 第13回：株式会社に関するディスカッションと発表 第14回：雇用に関するディスカッションと発表 定期試験			
テキスト法学六法 高校生からの法学入門			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 授業内で行う小テスト・レポートなど60% ディスカッションと発表40%			

授業科目名： 国際法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：兼頭ゆみ子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際社会と国際法の関係、国際法の法源、適用解釈、国内法との関係等について理解し、説明できる。 ・ 武力行使の規制、国際平和の維持についての国際法を理解し、説明できる。 ・ 領域や海洋についての国際法の基本を理解し、説明できる。 ・ 個人に関わる国際法(国際刑事法、国際人権法)について理解し、国際法における個人の位置づけを説明できる。 ・ 国際紛争についての基本的な国際法を理解し、説明できる。 ・ 国際社会における環境保護や経済活動に関する基本的な法のあり方を理解し、説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>様々な面でグローバル化が進み、私たちに身近な問題や国内の出来事はますます国際社会から影響を受けています。また逆に、ある国に生じた事象が世界的な影響力を及ぼす場合もあります。弱肉強食のように思われる国際社会にも共通規範となる国際法があり、国際社会の緊密化により、国際法の重要性はますます高まっています。この授業では、まず、国際法とは何か、国際法の主体等、国際法の基本構造について解説し、次に、様々な分野の国際法を順次、扱います。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：ガイダンス、国際社会と法</p> <p>第2回：国際法とは何か</p> <p>第3回：条約法</p> <p>第4回：国際法の主体</p> <p>第5回：国際法と国内法の関係</p> <p>第6回：武力行使の規制</p> <p>第7回：平和と安全の維持</p> <p>第8回：国際紛争の処理</p> <p>第9回：領域と空間</p> <p>第10回：海洋法</p> <p>第11回：地球環境の保護</p> <p>第12回：国際経済法</p> <p>第13回：国際刑事法</p>			

第14回：人権の保障

定期試験

テキスト

位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集〔第2版〕』三省堂、2015年（1500円、ISBN 978-4-385-32325-1）を必携のこと。その他、資料をポータルで配付します。

参考書・参考資料等

中谷和弘・他『国際法〔第5版〕』有斐閣、2023年

加藤信行・他『ビジュアルテキスト国際法〔第3版〕』有斐閣

浅田正彦『国際法〔第5版〕』東信堂、2022年

学生に対する評価

定期試験60%、毎回授業時に提出するリアクションペーパー40%

授業科目名： 政治学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高橋善隆 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
授業のテーマ及び到達目標 現代政治理論とアメリカ政治の社会的内実			
授業の概要 大統領制と議院内閣制の違いについて理解し、米国社会の分断とリベラル・デモクラシーの危機について検討する。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：ガイダンス・政治学の対象 第2回：統治レジームとしての大統領制と議院内閣制の違い 第3回：デモクラシーとは何か 第4回：グローバリゼーションと現代デモクラシー 第5回：アメリカ政治学のパラダイム 第6回：公民権運動とアメリカ社会の内実 第7回：アメリカ労働運動の展開 第8回：政党と官僚制 第9回：共有地の悲劇としての地球環境問題 第10回：福祉レジーム研究の諸類型 第11回：ヒスパニック系移民と現代アメリカ政治の変容 第12回：権威主義的ポピュリズムとリベラル・デモクラシーの危機 第13回：補論：現代日本政治を分析する視角 第14回：全体の総括 定期試験			
テキスト 『政治学の第一歩』砂原庸介、稗田健志ほか、有斐閣（2020）			
参考書・参考資料等 『アメリカ政治講義』西山隆行、ちくま新書（2018）			
学生に対する評価 定期試験および出席			

授業科目名： 国際関係学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：笹島雅彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：岐路に立つ世界 世界政治は激変しつつある。複雑で混乱に満ちたこの世界をどのように考察したらいいのか、考えるきっかけとする。分析の道具である国際政治の理論を学ぶ入門編である。各理論の特徴を説明できるようにするとともに、17世紀以降の主権国家体制の流れをつかむ。同時に、国際報道について批判的に読み解く「メディア・リテラシー」を身につける。			
授業の概要 ルールに基づく自由主義的な世界秩序が崩壊過程に向かっている現状を概観し、「自由主義」対「権威主義」が対立する世界の分断について考える。現代国家の成り立ちについて、17世紀以降の国際政治史の流れを追いながら、伝統的な現実主義のアプローチとリベラリズム理論を比較し、有用性を検討する。現在、国際的な論争となっている国際システムの「極」について討論していく。冷戦後、盛んになっているコンストラクティビズム（構成主義）、相互依存論、民主的平和論、グローバリズムの高揚と反作用などについて、足を踏み入れる。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：授業の概要説明と発表担当者振り分け：国際政治とは何か 第2回：私たちの現在：コロナ禍の世界と世界秩序の崩壊 第3回：戦争はなぜ起こるのか、平和とはどのような状態か。ウクライナ情勢分析と中東地域 第4回：現実主義とリベラリズムの原点を探る：ペロポネソス戦争をめぐる原因と理論 第5回：国家とは何か：主要な概念＝国民国家・国際的主体・パワー・国際システム 第6回：現実主義におけるパワーと影響力、国益の関係性、勢力均衡論と同盟 第7回：ウエストファリア体制と国家中枢体系 第8回：ウィーン体制と19世紀の勢力均衡システム 第9回：第一次世界大戦の起源 第10回：「危機の20年」と第二次世界大戦の起源：戦争の違法化をめぐる国際法の確立 第11回：冷戦：抑止と封じ込め戦略：米ソ対立と「長い平和」 第12回：冷戦後の紛争：介入と主権の関係、増大する内戦、国際テロ、移民・難民問題 第13回：グローバリゼーションと相互依存の概念、コンストラクティビズム（構成主義）の視点 第14回：リベラルな国際秩序とグローバルな課題：核拡散、気候変動、サイバー防衛、感染症 定期試験 実施しない			
テキスト			

ジョセフ・ナイ著「国際紛争—理論と歴史（原書第10版）」（有斐閣）2500円。ISBN978-4-641-14917-5

リチャード・ハース著「The World 世界のしくみ」（日本経済新聞出版、2021年）2420円、ISBN978-4-532-1771-6

参考書・参考資料等

ジャレド・ダイヤモンド「銃・病原菌・鉄 1万3000年にわたる人類史の謎」上・下（草思社文庫）

川上高司・石澤靖治編「トランプ後の世界秩序」（東洋経済新報社、2017年）のうち、笹島雅彦著「第2章日中関係【政治】」

田中明彦著「ポストモダンの『近代』」（中央公論新社）

多湖淳著「戦争とは何か」（中公新書、2020年）

田中明彦・中西寛編著「新・国際政治経済の基礎知識」（有斐閣ブックス）

佐橋亮著「米中対立」（中公新書、2021年）

細谷雄一著「国際秩序」（中公新書、2012年）

小泉悠著「ウクライナ戦争」（ちくま新書、2022年）

赤木完爾編「国際安全保障がわかるガイドブック」（慶應義塾大学出版会、2024）

学生に対する評価

中間、期末レポート（60%）、積極的な授業参加態度（国際ニュース報告と質問、意見表明、毎回の授業後のリアクション・ペーパー記載など）（40%）

授業科目名： 社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：土居洋平 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>社会学の基本的な概念を説明できるようになる。</p> <p>社会学誕生の背景について説明できるようになる。</p> <p>社会学の展開の概要について説明できるようになる。</p> <p>社会学の主要なテーマにかかわる議論を説明できるようになり、そのテーマについて、社会学の視点で自分の考えを論述できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、社会学という学問の視点・考え方を様々な現象を通じて紹介する。具体的には、社会学についてのごく基本的な考え方について紹介した後に、様々なトピックをもとに社会学の考え方（視点）を紹介する。これらを通じて、社会学の概要や全体像についてイメージできるようにすることを目指す。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：講義イントロダクション：社会学の外形的な位置づけを考える</p> <p>第2回：社会学の立場：「社会学とは何か？」基本的な考え方を知る</p> <p>第3回：社会学の歩み1：社会学の誕生</p> <p>第4回：社会学の歩み2：社会学の主な系譜</p> <p>第5回：社会学の視点①：「私」とは何か？</p> <p>第6回：社会学の視点②：家族</p> <p>第7回：社会学の視点③：会社・仕事</p> <p>第8回：社会学の視点④：地域社会（1）国民国家</p> <p>第9回：社会学の視点⑤：地域社会（2）都市</p> <p>第10回：社会学の視点⑥：地域社会（3）農村</p> <p>第11回：社会学の視点⑦：社会運動（1）環境</p> <p>第12回：社会学の視点⑧：社会運動（2）福祉</p> <p>第13回：社会学の視点⑧：社会運動（3）まちづくり</p> <p>第14回：講義のまとめ：再度、「社会学とは何か？」を考える</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>西村純子・池田心豪編著、2023、『社会学で考えるライフ&キャリア』中央経済社（ISBN：978-4-502-46401-0）</p>			

参考書・参考資料等

富永建一、1995、『社会学講義一人と社会の学』中公新書（ISBN：9784121012425）

橋爪・佐藤ほか著、2016、『社会学講義』ちくま新書（ISBN：9784480068989）

大澤真幸、2019、『社会学史』講談社現代新書（ISBN：9784062884495）

小熊英二、2019、『日本社会のしくみー雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社現代新書（ISBN：9784065154298）

吉原直樹、2018、『都市社会学ー歴史・思想・コミュニティ』東京大学出版会（ISBN：9784130520287）

学生に対する評価

毎回授業後の小レポート（60%）・学期末レポート（40%）

授業科目名： 国際社会論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：島田顕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標 国際社会の基本構造と、グローバリゼーション、難民問題など、国民国家を超えた社会過程に対する基礎的な知識を身につけ、国際社会の諸問題を考察し分析する力を養う。			
授業の概要 代表的な事例として、グローバリゼーション、戦争、難民問題、その他の現象を、国際関係論、外交史、社会学、政治学の立場から概説し、またその原因と現在の状況などをふくめ多様な分析を試みる。さらに将来の日本と世界との関係、国際関係・国際社会がいかにあるべきかを考える。タイムリーな話題、ホットな話題も随時取り入れる。またビデオ教材（『映像でつづる20世紀世界の記録』その他）、スライド等を多数併用し、ビジュアルな面からも国際社会への理解を深める。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：ガイダンス、国際社会論とはどんな学問かー国際関係論、社会学から見た意義 本講義のテーマ、目的、概要、講義方針を示し、シラバスに基づく具体的な講義内容を説明する。 私たちの生活にとって国際社会がいかに必要なものであるのかを理解する。 国際社会論とはどのような学問なのかを理解する。理解を深めるために関係の深い学問である国際関係論、社会学その他と比較し、アプローチ方法、分析対象、その他の国際社会論の特徴をとらえる。 第2回：国民国家と国際社会 国際社会論という学問の主なる分析対象である国際社会を理解する。国際社会を理解するために、国内社会と比較しながら特徴をとらえる。 第3回：国益（ナショナル・インタレスト）と国力（パワー） 国家の目標である国益とその種類、また国家の目標の手段である国力について理解し、国家が持てる様々な手段を把握する。 第4回：戦争と軍縮 国際社会の最大にして最も困難な問題の一つである戦争について理解を深める。その原因を突き止め、防止すること、さらに一旦戦争が始まってしまった場合、早急に終結させることが国際社会の最大の課題であることを理解する。これまでの戦争の原因、方法、規模、効果、戦時国際法、戦後処理、戦争責任、軍縮、軍備管理を把握する。 第5回：安全保障、軍事力、軍縮と軍備管理 戦争を防ぐ手立てである安全保障（3つの型がある）を押さえ、その具体例を歴史的事実から把握す			

る。武力行使の全面的禁止下の状況における自衛権の行使、自衛権の種類、安全保障との対応、現在の軍事力の在り方、軍縮と軍備管理に対する理解を深める。

第6回：国際機構とその役割（国際連盟と国際連合、国連の平和維持活動、地域的集団安全保障、地域統合機構）

国際機構の種類、歴史的な変遷を把握し、現在の国際機構の機能と役割を理解する。

第7回：グローバリゼーション

国際社会で起こっている主な事象の一つであるグローバリゼーションについての理解を深める。これまでの国家や地域などの境界を越えて地球規模で複数の社会とその構成要素の間での結びつきが強くなることに伴う社会における変化やその過程がグローバリゼーションが、原始古代から続いており、その積み重ねが現代のグローバリゼーションであることを理解する。また多くの分野にわたるグローバリゼーションを取り巻く国家、社会、企業の状況を把握する。

第8回：難民問題

国際社会を揺るがしている難民問題について理解を深める。難民と亡命の相違、難民の歴史など、基礎的な知識を身に着けたうえで、現在起こっているシリア難民問題の背景、経緯と国際社会と日本の対応について把握する。

第9回：ナショナリズムとイデオロギー

国際社会の政治意識、政治行動に影響を与えるナショナリズム、イデオロギーについて理解する。特に国家の目的である国益に取り入れられた際のイデオロギーが個人の行動、さらには国際社会全体に変化をもたらしている状況を把握する。主なイデオロギーとしてファシズム、社会主義を取り上げそれらの特徴を理解する。

第10回：国際社会の歴史—成立から18世紀まで

国際社会の始まりであるウェストファリア条約、30年戦争に対する理解を深める。国際社会の始まりが宗教戦争であったことを理解し、また戦争前後の国際社会の状況の変化を把握する。

第11回：国際社会の歴史—18世紀

相対的に安定した状況であった18世紀的安定の国際社会と、相対的安定を可能ならしめた諸条件を把握する。

第12回：国際社会の歴史—19世紀以降

19世紀以降の国際社会における本質的な変化、それをもたらした諸条件、さらにはヨーロッパを中心とした帝国主義列強の植民地分割、戦争の激化という国際社会の変化を理解する。

第13回：国際社会の歴史—第一次世界大戦と第二次世界大戦

総力戦としてのWW I、ロシア革命、ファシズム体制出現後の戦間期、WW I Iの戦いの特徴を把握する。

第14回：冷戦とポスト冷戦（ソ連崩壊、東欧民主主義革命、ユーゴ内戦）

WW I I後の米ソ超大国、新興独立諸国の出現などの冷戦の状況、冷戦下の熱戦であったアジアの状況、ソ連崩壊、東欧民主主義革命後の国際社会を理解する。

定期試験
テキスト 中嶋嶺雄『国際関係論 同代への羅針盤』（中公新書、1992 年）
参考書・参考資料等 花井等『新国際関係論』（東洋経済新報社、1996 年） 『講座国際政治 2 外交政策』（東大出版会、1989 年） 高田和夫編『国際関係論とは何か―多様化する「場」と「主体」』（法律文化社、1998 年）
学生に対する評価 レスポンスシート、レポート課題、宿題、小テスト、最終レポートを含む（60%）。 学期末試験（40%）。

授業科目名： 経済学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中秀実 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標 この講義では、経済学の基礎を解説する。景気や個人の消費、貯蓄、企業活動、金融、社会保障問題、貿易など、さまざまな問題について取り上げ、その背後にある経済学の基礎的な考え方を身に付けていく。各自が経済学の立場から、経済理論やデータを示しながら答えることができるようになることが、講義の目標である。			
授業の概要 一般教養としての経済学			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：経済学とはどのようなものか 第2回：完全競争と市場の失敗 第3回：経済全体をとらえる 第4回：国際取引 第5回：通貨と経済 第6回：政府の役割（1）所得の再分配 第7回：政府の役割（2）市場の失敗への対応 第8回：企業と供給 第9回：投資とリスク 第10回：国内総生産の決定 第11回：消費者と需要 第12回：労働市場 第13回：財政のしくみ 第14回：投票と社会的決定 定期試験は行わない			
テキスト 指定しない			
参考書・参考資料等 井原哲夫『入門経済学』東洋経済新報社 2013 井堀利宏監修『経済学 サクッとわかるビジネス教養』新星出版社 2022 大橋弘『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる 実戦編』KADOKAWA 2023			

八田達夫『ミクロ経済学expressway』東洋経済新報社 2013

学生に対する評価

レポート試験（100%）

授業科目名： 国際経済	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：牛山隆一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本講義では、国境を越えた経済活動について、貿易、金融、投資の各側面から理解を深める。基礎的な理論を学ぶとともに、各種メディアが伝える様々な問題の実態を知り、国際経済に関する広範な知識を吸収したうえで、自らの考えをしっかりと持てるようにする。また、国際経済における自らの関心領域を見つけ、一層の学習を進める契機とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際経済の基礎的理論を平易に説明し、貿易や金融、投資の各分野で起きている現実の動きをどのように理解すべきか解説する。また、グローバル化の諸問題として、貧困・格差、環境等の問題についても学ぶ。授業ではメディア等で報じられる国際経済関連の最新ニュースを頻繁に取り上げる。 ・パワーポイントのスライドを用いて講義を行う。スライドは図表や写真を多用し、テーマに合わせてビデオ教材も活用する。理解度を確認するため、小テスト形式の課題を実施する。受講者は授業前に配信する資料に目を通し、授業に臨む。メディアが日々伝える国際経済ニュースに関心を持ってもらいたい。受講者の関心や理解度、授業の進捗状況等により、シラバスの内容を変更することがある。 			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：世界経済を取り巻く諸問題</p> <p>第2回：国際貿易の基本①：代表的な貿易理論</p> <p>第3回：国際貿易の基本②：自由主義と保護主義</p> <p>第4回：国際貿易の現状①：世界通商体制の変遷，WTOの課題</p> <p>第5回：国際貿易の現状②：FTA/EPAの広がり，米中貿易摩擦</p> <p>第6回：国際収支と為替レート①：国際収支について</p> <p>第7回：国際収支と為替レート②：為替相場の決まり方</p> <p>第8回：国際通貨制度：制度変遷の歴史、変動相場制について</p> <p>第9回：海外直接投資①：多国籍企業の海外展開，日系企業の動向</p> <p>第10回：海外直接投資②：直接投資の基礎理論，直接投資の効果</p> <p>第11回：国際労働移動：外国人労働者の動向</p> <p>第12回：グローバル化の諸問題①：貧困・格差、経済協力</p> <p>第13回：グローバル化の諸問題②：新興国の台頭，「中所得国の罌」</p> <p>第14回：グローバル化の諸問題③：環境問題</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

なし
参考書・参考資料等 ・池部亮(2022)『グローバルビジネスとトレード』同文館出版。 ・浦田秀次郎・小川栄治・澤田康幸(2010)『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣アルマ ・高橋信弘(2009)『「国際経済学入門」ナカニシヤ出版
学生に対する評価 ・期末のテストないしはレポート(60%)、課題(30%)、平常点(10%)

授業科目名： 女性と文化	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：森谷裕美子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ：現代社会におけるジェンダー			
到達目標			
1 ジェンダーに関する基礎的な概念や問題を理解し、これを言語化して人に伝えられるようになる。			
2 日常生活のあらゆる場面においてジェンダーセンシティブになることで、現代社会における偏見や差別を批判的に検討することができるようになる。			
授業の概要			
ジェンダー研究の歴史や性をめぐる基礎的な概念、人間が作り出した文化的ルールとしての「婚姻」、婚姻によって形成される家族のあり方の多様性、女性の穢れと宗教の関係を文化人類学的アプローチから学ぶことで現代社会におけるさまざまなジェンダーの問題を考える。			
授業計画（授業時間：1回100分）			
第1回：イントロダクション：日常生活の場面から「ジェンダー」とは何か考える			
第2回：1 文化人類学におけるジェンダー研究：マーガレット・ミード			
第3回：2 性（1）性とは何か：性的カテゴリー			
第4回：2 性（2）男になる・女になる：ジェンダー儀礼			
第5回：2 性（3）第3のジェンダー：第3のジェンダーの多様性			
第6回：3 家族の結びつき（1）婚姻の多様性			
第7回：3 家族の結びつき（2）性と生殖			
第8回：3 家族の結びつき（3）家族内関係と性別役割分業			
第9回：3 家族の結びつき（4）現代社会における家族と家族内関係			
第10回：4 宗教と女性（1）宗教における女性の地位			
第11回：4 宗教と女性（2）宗教における差別・1 日本の宗教と女性			
第12回：4 宗教と女性（2）宗教における差別・2 イスラームと女性			
第13回：4 宗教と女性（2）宗教における差別・3 ヒンドゥー教と女性			
第14回：4 宗教と女性（3）穢れの観念			
定期試験			
テキスト			
独自に作成した資料を授業時間内に配布する。			
参考書・参考資料等			
・ミード『男性と女性』上下、東京創元社、1973年			

・DVD 『母たちの村』

・原ひろ子 『ヘヤー・インディアンとその世界』 平凡社、1989年

学生に対する評価

定期試験（60%）、小テスト（20%）、授業中の課題の提出（20%）

授業科目名： 現代日本社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井慎一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
授業のテーマ及び到達目標 現代日本社会を歴史的な視点から分析し、その特質と問題点を認識して説明できるようになる。			
授業の概要 戦後80年が経過し、日本の社会において戦争の記憶が急速に失われつつある。300万人以上もの犠牲者を出してしまったアジア・太平洋戦争とはいかなる戦争であったのか。広大な中国を相手にしながら、産業力において圧倒されていたアメリカとの戦争に踏み切れたのはなぜか。また、戦後、戦争を否定する日本国憲法を受け入れて、平和国家を維持することができたのはなぜか。戦争と平和を軸として現代の日本社会を分析する。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：オリエンテーション—本講義の目的と概要 第2回：第一次大戦後の日本とベルサイユ・ワシントン体制 第3回：満洲事変と「満洲国」 第4回：日中全面戦争 第5回：アジア・太平洋戦争 第6回：「大東亜共栄圏」 第7回：敗戦と占領 第8回：日本国憲法と戦争放棄 第9回：朝鮮戦争と特需景気 第10回：講和と安保条約 第11回：ベトナム戦争と沖縄 第12回：湾岸戦争とPKO 第13回：第3次世界大戦の危機と現代日本—ウクライナ支援をめぐって 第14回：総括			
テキスト 毎回プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 古川隆久『昭和史』（ちくま新書、2016年）、吉見俊哉編『平成史講義』（ちくま新書、2019）、加藤陽子『満洲事変から日中戦争へ』（岩波新書、2007）、吉田裕『アジア・太平洋戦争』（岩波新書、2007）、雨宮昭一『占領と改革』（岩波新書、2008）、武田晴人『高度成長』			

(岩波新書、2008)、吉見俊哉『ポスト戦後社会』(岩波新書、2009)

学生に対する評価

レポート試験(70%)、授業参加(30%)

授業科目名： 現代アジア社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小川忠 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>講義テーマは「ネット動画から読み解くアジア各国の『自分探し』」とする。</p> <p>到達目標は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア各国の社会・歴史・言語・宗教・文化等の特徴を説明できるようになる。 ・アジア各国の国民意識がいかに形成されてきたか説明できるようになる。 ・アジアが多様で、活力に満ちた魅力的な地域であることを実感できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>各回、テキストで取り上げている一つの国に焦点をあてて、国土・人口・民族・経済などの基本データをふまえた上で、その国民意識はいかなる土台の上に築かれ、形成されてきたのか、現在どのような変化が起きているのか説明する。</p> <p>そこでは、国民意識の源泉となる文化的要素を、「インドネシアのイスラーム・ファッションショー」「K-POPの多国籍性」「モンゴルの社会批判ヒップホップ」等インターネットで視聴できる動画を題材にとりあげて検討する。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：講義全体の概要、計画、成績評価等のガイダンス</p> <p>第2回：インドネシア 「想像の共同体」を育む言語・文化と「イスラーム化」現象</p> <p>第3回：シンガポール 「シンガポール人とは誰？」 ポップスの問いかけ</p> <p>第4回：マレーシア 漫画が語る多民族国家の苦悩</p> <p>第5回：フィリピン 大河ミュージカルに描かれたフィリピン国民意識の形成</p> <p>第6回：ベトナム 日本留学運動を提唱したベトナム 独立志士と日本人医師の交流</p> <p>第7回：タイ 映画に学ぶタイの経済発展とタイ人の心の旅路</p> <p>第8回：インド 知られざるソフトパワー大国</p> <p>第9回：バングラデシュ 言語から宗教へと変わる国民意識の源</p> <p>第10回：スリランカ 仏教近代化とナショナリズム</p> <p>第11回：韓国 韓流、K-POPと国家ブランド政策</p> <p>第12回：中国・台湾 多民族国家の中での中華アイデンティティの多重性</p> <p>第13回：モンゴル・ヒップホップにみる遊牧民族の意識変化</p> <p>第14回：講義全体のまとめ、ふりかえり</p> <p>定期試験は実施しない</p>			
<p>テキスト 小川忠『自分探しするアジアの国々 揺らぐ国民意識をネット動画から見る』明石</p>			

書店

参考書・参考資料等

『東南アジア文化事典』他、授業中に適宜提示する

学生に対する評価

学期末小論文（30%）、毎回講義後のレスポンスシート記述ぶり・授業内での討議等授業参加（70%）

授業科目名： 現代ヨーロッパ社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：香坂直樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>環境・エネルギー政策あるいは「移民」や「難民」への対応などヨーロッパ諸国ないしEU（欧州連合）が直面する課題や政策は日本でも注目を受ける。また、21世紀前半の現在は日本もヨーロッパも「グローバル化」の流れのただ中にあること考慮すると、ヨーロッパ社会の状況や課題は決してヨーロッパ固有の課題ではなく、日本が向き合う課題ともいえる。この点を踏まえるならば、ヨーロッパ社会の状況理解は、今後の日本社会を考える際にも有用な視座となる。以上の問題関心に基づき、現代ヨーロッパの政治と社会、経済の状況と課題に関して、他者に説明できるだけの知識を獲得することをこの授業の目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、21世紀前半のヨーロッパ政治や経済、社会に関する13のテーマ（課題・論点）を選び、各回授業で1つずつ紹介する。その際、ヨーロッパ地域内部のみの事情だけでなく、ヨーロッパと世界の他の地域との関係にも目を向ける。初回授業ではヨーロッパないしEU（欧州連合）の基礎情報と課題を紹介する。第2～4回授業ではEUの制度や外交などの政治に関するテーマ、第5～9回では経済に関するテーマ、第10～14回では多文化主義や移民への対応などの社会的課題に関するテーマを取り上げる。以上の政治・経済・社会の各分野に関する知識を基に現代のヨーロッパ社会を複合的に把握する。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：『現代ヨーロッパの概略と課題』：現在のヨーロッパ社会の課題整理と問題関心の共有。 第2回：『EU（欧州連合）の沿革と現況』：EUの組織拡大の過程と現在のEU機構を理解する。 第3回：『EUの外交・防衛政策』：EUの外交関係及びNATOと併せた安全保障の状況を理解する。 第4回：『EU拡大と近隣国政策』：2000年代の第五次拡大の過程と現在の近隣国政策を理解する。 第5回：『EUの単一市場の理念と機能』：EUが掲げる単一市場理念の実際の運用状況を把握する。 第6回：『欧州共通通貨「ユーロ」』：「ユーロ」の意義とユーロ危機が提起した課題を理解する。 第7回：『EUの環境・エネルギー政策』：気候変動への対応や環境政策、原子力政策を理解する。 第8回：『EUの交通政策』：域内自由移動を支える交通インフラ整備と競争政策の状況を理解する。 第9回：『世界経済とヨーロッパ』：EPA/FTAの締結状況を通じEUと諸外国との関係を把握する。 第10回：『ヨーロッパ社会の多様性』：統計データを基にヨーロッパの住民の多様性を把握する。 第11回：『多文化主義の実践と限界』：多様性に対応した多文化主義政策の展開状況を理解する。 第12回：『移民・難民とヨーロッパ』：「移民」への対応状況が社会に及ぼす影響を理解する。 第13回：『欧州懐疑論』：EUの政策に対する異議申し立てである欧州懐疑論の拡大を把握する。</p>			

第14回：『ブレクジット』：欧州懐疑論の実例ともいえる英国のEU離脱の背景と影響を理解する。

定期試験：期末レポートとして実施する

テキスト

使用しない

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料及び参考文献リストを配布する。

学生に対する評価

期末レポート（50%）、毎回の授業後のリアクションペーパー（50%）

授業科目名： 現代アメリカ社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：笹島雅彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：分断国家・アメリカの社会分析</p> <p>現代アメリカ社会が抱える人種、少数派、宗教、貧富の格差、移民、銃社会、保守とリベラルの対立など社会の分断状況を理解し、説明できるようにする。そのために、米国関連記事の熟読を習慣化し、メディア・リテラシー（情報を読み解く力）を高める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>第2次大戦後のアメリカ外交の特徴をつかんでいく。そのうえで、トランプ政権誕生後の米国の外交、内政問題を概観し、日本人社会とは大きく異なる米国内の保守派とリベラル派の対立点を理解していく。ポピュリズムの浸透とアメリカ民主主義の分断状況を考察していく。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：授業の概要説明と担当振り分けーアメリカの主導性</p> <p>第2回：戦後アメリカ外交の始まり：トルーマン政権と冷戦の起源</p> <p>第3回：冷戦時代の抑止と封じ込め政策</p> <p>第4回：冷戦後の米外交の展開：湾岸戦争から同時多発テロ事件</p> <p>第5回：対テロ戦争とイラク戦争：平和構築活動と挫折</p> <p>第6回：「実験国家」としてのアメリカ：ピルグリム・ファーザーズと社会契約</p> <p>第7回：アメリカ独立革命と合衆国憲法の誕生</p> <p>第8回：BLM運動と人種差別をめぐる発想の転換：南北戦争と公民権運動を振り返る</p> <p>第9回：女性参政権を巡る運動と現代の「ガラスの天井」</p> <p>第10回：少数派（マイノリティ）と多様性（ダイバーシティ）の未来：移民社会と不法移民</p> <p>第11回：銃社会は生まれ変わるか</p> <p>第12回：白人貧困・中間層の社会不満と格差社会</p> <p>第13回：言論の自由とは何か：キャンセル・カルチャーとポリティカル・コレクトネスの最前線</p> <p>第14回：ポピュリズム（大衆迎合主義）と民主主義モデルの危機</p> <p>定期試験 実施しない</p>			
<p>テキスト</p> <p>読売新聞調査研究本部編著「対テロリズム戦争」（中央公論新社、2001年）720円。ISBN4-12-150024-5</p> <p>川上高司・石澤靖治編「トランプ後の世界秩序」（東洋経済新報社、2017年）のうち、笹島雅彦著「第2章日中関係【政治】」</p>			

佐橋亮、鈴木一人編「バイデンのアメリカ」（東京大学出版会、2022年）

参考書・参考資料等

ジャレド・ダイヤモンド「銃・病原菌・鉄 1万3000年にわたる人類史の謎」上・下（草思社文庫）

斎藤眞「アメリカとは何か」（平凡社ライブラリー、2005年）

村田晃嗣「アメリカ外交ー苦悩と希望」（講談社現代新書、2005年）

村田晃嗣「トランプvsバイデン」（PHP新書、2021年）

渡辺靖「アメリカのジレンマ」（NHK出版新書、2015年）

渡辺靖「白人ナショナリズム」（中公新書、2020年）

渡辺靖「アメリカとは何か」（岩波新書、2022年）

待鳥聡史「アメリカ大統領制の現在」（NHKブックス、2016年）

久保文明「アメリカ政治史」（有斐閣、2018年）

佐橋亮著「米中対立」（中公新書、2021年）

中山俊宏「理念の国がきしむとき」（千倉書房、2023年）

上村剛「アメリカ革命」（中公新書、2024年）

学生に対する評価

中間、期末レポート（60%）、積極的な授業参加態度（国際ニュース報告と質問、意見表明、毎回の授業後のリアクション・ペーパー記載など）（40%）

授業科目名： 哲学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：神山伸弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>存在への問いとその解明に至るべく認識の限界と超越の議論を交えながら、哲学固有の思考対象、思考方法の吟味を行う。もって、学生は、説明する悟性が批判されるべきことを説明することができ、理性の限界の指摘が克服されることを指摘することができ、哲学を実施することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>哲学とは何かという根本問題のメカニズムを解明することを出発点に、存在の相貌と認識の確信が相即的でありながらかつ離反することについて、理論から実践へ、さらには絶対的なものへの進展をたどりながら体系的に講述する。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回： 序 哲学の「はじまり」とその存立地盤について（導入）。 第1節 学問とはなにか。哲学と他の学問の同一と差異。</p> <p>第2回： 第2節 哲学の人間論的基盤。人間の自然的基盤と人間観。</p> <p>第3回： 第1章 理論的なものについて。確信と真理の同一と差異。 第1節 感性—その限界存在（時間性と場所性）と限界超越。</p> <p>第4回： 第2節 悟性—その法則化の限界存在（全体の一面的理解）と限界超越。</p> <p>第5回： （承前）法則化する主体の把握について。</p> <p>第6回： 第3節 自己意識—その主観性の限界存在（個性性）と限界超越。 （承前）自由な存在の自覚。</p> <p>第7回： 第4節 理性—その限界存在（理論限界）と限界超越。</p> <p>第8回： 第2章 実践的なものについて。正しさと善さの同一と差異。</p> <p>第9回： 第1節 正しさ（権利・法）—その限界存在（不法の正当化）と限界超越。</p> <p>第10回： 第2節 善さ—その限界存在（偽善）と限界超越。</p> <p>第11回： 第3節 人道—正しさと善さの統一の限界存在（歴史性）と限界超越。</p> <p>第12回： 第3章 理論と実践の統一としての絶対的なものとその人間論的限界 第1節 絶対的なものの表現—芸術について。</p> <p>第13回： 第2節 絶対的なものへの希求—宗教について。</p> <p>第14回： 第3節 絶対的なものを対話的・論理的に探究すること—哲学について。</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p>			

各回の講義でその概要を資料として配布する。

参考書・参考資料等

プラトン『ソクラテスの弁明』、光文社古典新訳文庫。

デカルト『省察』、ちくま学芸文庫。

カント『純粋理性批判』、岩波文庫。

ヘーゲル『精神の現象学』、岩波書店。

『哲学事典』、平凡社。

『哲学・思想事典』、廣松渉他編、岩波書店。

学生に対する評価

小論文（60％）、教師の指定する古典的図書に関する小レポート（40％）

授業科目名： 倫理学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：神山伸弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
授業のテーマ及び到達目標 人間の行為実践の原理を探求する。学生がこの原理を説明し、今日の倫理的課題を指摘し、それを自主的に探究・思索し、もってまっとうに判断できるようにする。			
授業の概要 人間の行為実践の原理を探求する。出発点は人間の自由の意志論的な解明におく。このさい「善」を意志の動因及び目的とする意味を考察する。そうした倫理的拘束性を、法規範と道徳規範の同一性と差異を明確にしながらか解明する。個人の主体的行為にかかわる倫理的課題を、その発生場面の社会的実践——家族、教育、労働、集団、政治など——に即して自由と善の関係として追究する。このさい、現代の応用倫理問題も俎上に載せる。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回： 序 倫理学の原理を探求すること（導入） 第2回： 第1章 意志の自由について 第1節 自由のとらえ方の諸相。その倫理的なものについて。 第3回： 第2節 自由を実現する諸相。所有、交換・契約、逸脱、持続可能について。 第4回： 第3節 行為実践の主体性と客体性。 第5回： 第2章 自由の責任について 第1節 法と倫理の関係。「正しい」こと（公正・正義）について。 第6回： 第2節 意図と責任。「幸せ」と「善いこと」について。 第7回： 第3節 良識の諸相。個人的なものと社会的なもの、「徳」について。 第8回： 第3章 倫理が問われる場面について 第1節 生命の尊厳。（生命倫理を含む。） 第9回： 第2節 愛と家族。（ジェンダー倫理を含む。） 第10回： 第3節 教育と労働。能力獲得の倫理性について。（企業倫理を含む。） 第11回： 第4節 協働・連帯。個人と社会の関係、社会参画について。 第12回： 第4章 善を実現することについて 第1節 倫理と政治の関係。民主主義の倫理について。 第13回： 第2節 みずからが立法者であること。公共性の自覚的実現について。 第14回： 第3節 平和を実現するプロセス。 定期試験 テキスト			

各回の講義でその概要を資料として配布する。

参考書・参考資料等

アリストテレス『ニコマコス倫理学』、岩波文庫。

カント『実践理性批判』、岩波文庫。

ヘーゲル『法の哲学』、中公クラシクス。

『新倫理学事典』、金子武蔵編、弘文堂。

『現代倫理学事典』、大庭健編、弘文堂。

『応用倫理学辞典』、加藤尚武編、丸善。

学生に対する評価

小論文（60％）、教師の指定する古典的図書に関する小レポート（40％）

授業科目名： 世界の宗教	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮崎修二 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>世界の様々な宗教を扱うので、個々の宗教について基本的な内容を理解することは重要だが、宗教がそれぞれの社会、文化において、どのような意味をもっているかがある集団の精神文化としてだけでなく、個人の人生など、人間の個としての視点からも考察を進められるようになることが望まれる。宗教を避けておくことを無難とする日本社会においても、宗教をどのように理解しておくべきなのかと不意に問いかげられることがある。そうしたことに備える意味でも、宗教について考え、必要なときには自分なりの意見を展開できるようになることが求められる。そのための材料を備えておくことも本講義の目的と言える。また、個別の宗教とは無関係に、人間にとっての宗教とは何であるのかを考える基本的な姿勢の醸成を目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近年、人類の歴史を深いところで動かしつづける「宗教」という現象への理解がますます必要とされている。日々の生活の中で見え隠れする宗教、世界情勢の中で時に重要な要素として語られる宗教とはいったいどういったものなのだろうか。それとどう向き合ったらいいのだろうか。本講義はさまざまな状況の中で漠然と扱われている宗教について、世界のさまざまな宗教に目を向けながら、自らの視線でそれを整理していくきっかけを提供する時間にしたい。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：はじめに ～宗教をどう考えるか～ 履修に関する説明の後、宗教をめぐる議論についての基本的な前提などを確認する。</p> <p>第2回：宗教と道徳、日本人の宗教意識 宗教の周辺に位置する道徳、倫理、哲学などの概念との関係において、宗教はどのように捉えられるのか。また、日本人の「無宗教」などの宗教意識について考える。</p> <p>第3回：宗教の起源を探る 宗教研究の歴史を辿りながら、宗教の起源がどのように考えられてきたのか、また、宗教はどのように定義されてきたのかについて考える。</p> <p>第4回：ヒンドゥー教 ヒンドゥー教について、その構成内容、歴史的な変遷などを辿り、仏教に繋がっていくインドの宗教思想の基本構造を探求する。</p> <p>第5回：古代宗教とゾロアスター教</p>			

古代宗教を概観しつつ、後の主要な宗教思想に大きな影響を与えたゾロアスター教の役割について考える。

第6回：アブラハムの宗教（1）イスラム教とその教え

イスラム教成立の経緯などを中心に、その基本的な教えを見ていく。

第7回：アブラハムの宗教（2）イスラム教の歴史

イスラム教の時代ごとの変遷、近代以降の西洋との関係など。

第8回：東洋の思想と宗教（1）原始仏教とその後の展開

仏教の基本的な構造と、その後、東アジアなどに広がっていくに際しての変化について述べていく。

第9回：東洋の思想と宗教（2）道教と儒教

道教と儒教の成立と展開を中国の歴史の流れの中で確認しながら、東アジア全体における位置づけを考える。

第10回：東洋の思想と宗教（3）神道と日本の仏教

神道と日本における仏教の展開を辿りながら、日本人の宗教心について考えていく。

第11回：さまざまな宗教

通常、世界の宗教という文脈では取り上げられないことのない宗教について、アフリカの宗教などについて概観してみる。

第12回：アブラハムの宗教（3）ユダヤ教の世界

キリスト教、イスラム教の先駆的存在であるユダヤ教について、聖書の歴史、また、その後のユダヤ人の歴史を辿りながら、その思想上の根本を探っていく。

第13回：アブラハムの宗教（4）キリスト教

キリスト教の宗教として基本構造を概観した後、西洋の歴史において、キリスト教が果たしてきた役割について考える。

第14回：宗教と近代

キリスト教の近代以降における社会的位置づけの変化の意味、科学思想との関係、また、西洋における無神論、スピリチュアルなものに対する興味の拡大などの現象について。

定期試験

テキスト

特に指定しない。スライドなどの打ち出しを多数配布。

参考書・参考資料等

「宗教の世界史」シリーズ(山川出版社)、中村圭志『面白くて眠れなくなる宗教学』(PHP研究所)

学生に対する評価

理解度を確認する課題を学期中に少なくとも2度課す。また、期末にレポートを提出させる。

授業科目名： 日本思想史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松井慎一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
授業のテーマ及び到達目標 近現代日本における社会・経済の変遷を思想という観点から説明できるようになる。			
授業の概要 幕末に西洋列強の圧力により国際社会の扉を開いた日本を待ち受けていたのは、「帝国主義」と呼ばれる国際情勢であった。近現代日本における社会・経済は、その弱肉強食の激しい競争場裡にいかんして生き残れるのかということを中心に展開されてきたといえる。本講義では、明治から昭和初期にかけて、「生存競争」「優勝劣敗」の問題に取り組もうとした思想家たちの言説を取り上げ、それを解明していくことにより近現代日本の社会・経済の変遷を辿っていくことにしたい。それは、今日におけるグローバル化の問題に我々がどう立ち向かうべきかを考える上でも少なからず参考になるであろう。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：オリエンテーション（本講義の目的と概要） 第2回：福沢諭吉の「独立自尊」 第3回：福沢諭吉の富国強兵論 第4回：加藤弘之の社会進化論 第5回：内村鑑三の「日本の天職」論 第6回：「七博士」の帝国主義と社会政策 第7回：浮田和民の倫理的帝国主義 第8回：牧口常三郎の人生地理学 第9回：吉野作造の国際民主主義 第10回：土田杏村の文化主義 第11回：河合栄治郎の理想主義的社会主義 第12回：石橋湛山の小日本主義 第13回：「大東亜共栄圏」の思想 第14回：総括			
テキスト 松井慎一郎『近代日本における功利と道義—福沢諭吉から石橋湛山まで』（北樹出版、2018年）			
参考書・参考資料等 山口輝臣・福家崇洋編『思想史講義』全4巻（ちくま新書、2022～2023年）			

和田博文・山辺春彦編『近現代日本思想史 「知の巨人 100人の200冊」 (平凡社新書、2023年)

日本思想史事典編集委員会編『日本思想史事典』 (丸善出版、2020年)

学生に対する評価

レポート試験 (70%)、授業参加 (30%)

授業科目名： 中国哲学史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：井ノ口哲也 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（１）履修者は、夏王朝から中華人民共和国までの中国の思想や文化の流れを把握し、各時代の思想・文化の特徴を説明することができるようになる。</p> <p>（２）履修者は、中国（人）の「ものの考え方」の様々な事例を知ることによって、日本にも大きな影響をもたらした中国の思想や文化がどのように形成されていったのかを理解することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>われわれが生活する日本の思想や文化を理解するためには、歴史的に長い付き合いのある隣国である中国の思想と文化について知っておく必要がある。この授業では、通史的に中国の思想と文化について概観する。その際、できる限り、点と線による中国思想史から脱却し、面的にあるいは立体的に捉え得る中国思想史の授業を試みたい。全般的に、中国（人）の「ものの考え方」を知りたい初学者向けの内容である。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：中国思想史の時代区分</p> <p>第2回：伝説から思想史へー夏・殷・西周一</p> <p>第3回：掲げる理想、とびかう言説ー春秋・戦国ー</p> <p>第4回：国家統一のための政治思想ー秦・前漢ー</p> <p>第5回：出土資料研究の影響</p> <p>第6回：経学の隆盛と正しさの希求ー新・後漢ー</p> <p>第7回：新しい人間観と世界観ー魏・晋・南北朝ー</p> <p>第8回：三教の交渉ー隋・唐ー</p> <p>第9回：印刷技術と水路交通網の恩恵ー北宋・南宋ー</p> <p>第10回：朱子学の伝播と変容ー元・明ー</p> <p>第11回：思想上の鎖国と開国ー清ー</p> <p>第12回：学術の分類と目録学</p> <p>第13回：儒教のない世界をもとめてー中華民国ー</p> <p>第14回：失脚と復活ー中華人民共和国ー</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>井ノ口哲也著『入門 中国思想史』、勁草書房、2012年4月刊。</p>			

参考書・参考資料等

津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』、ミネルヴァ書房、2018年8月刊。

井ノ口哲也著『道德教育と中国思想』、勁草書房、2022年1月刊。

学生に対する評価

3回の小レポート（10点×3回）と定期試験（70点）の合計得点で評価する。

授業科目名： 社会科教育法A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高皇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領等に示された社会科の目標・意義・課題を理解することができる。また、社会科の教材研究の方法、学習指導の工夫、学習指導案の作成、授業実践の分析といった基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業づくりを行う方法を身に付けることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>社会科における教材研究の方法、学習指導要領、カリキュラム構成原理等を検討し、社会科の目的、意義、課題を学ぶ。また、社会科における教材研究の方法、指導上の留意点について理解した上で、学習指導案の作成や、授業実践の分析を行うことで、社会科の授業づくりのための基礎的な知識・技能を習得する。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：オリエンテーション：教育実習・教育現場のための実践的指導力</p> <p>第2回：学習指導要領にみる社会科のカリキュラム① 構成と目標</p> <p>第3回：学習指導要領にみる社会科のカリキュラム② 内容と方法</p> <p>第4回：社会科における授業分析</p> <p>第5回：社会科における教材研究</p> <p>第6回：社会科における教育方法</p> <p>第7回：社会科におけるICT機器活用</p> <p>第8回：社会科の学習指導案</p> <p>第9回：社会科における授業実践（新採教員）</p> <p>第10回：社会科における学習評価</p> <p>第11回：社会科の模擬授業（地理的分野）</p> <p>第12回：社会科の模擬授業（歴史的分野）</p> <p>第13回：社会科の模擬授業（公民的分野）</p> <p>第14回：社会科の発展的な学習内容</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>池下誠（編著）『中学校地理 ワークシートで見る全単元・全時間の授業のすべて 社会』（東洋館出版社、2022年）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』

学生に対する評価

受講態度20%、学習指導案および模擬授業20%、試験60%の割合で評価する。授業態度は回収したファイルの他、私語・姿勢・発言などでも評価を行う。

授業科目名： 社会科教育法B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高皇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「社会科教育法A」で学んだ社会科教育の理論的・実践的基礎の上にたち、学習指導要領等に示された社会系教科の目標・意義・課題を理解し、授業実践に反映することができる。また、社会科の教材研究の方法、学習指導の工夫、学習指導案の作成、授業実践の分析といった学習指導理論を応用し、具体的な授業場面を想定した授業づくりを行う方法を身に付け、実践的指導力を習得できる。			
授業の概要 「社会科教育法A」で学んだ社会科教育の理論的・実践的基礎の上にたち、社会科における教材研究の方法、学習指導要領、カリキュラム構成原理等を検討し、社会科の目的、意義、課題を授業実践に反映する。また、社会科における教材研究の方法、指導上の留意点について理解した上で、学習指導案の作成や、授業実践の分析を行うことで、社会科の授業づくりのための知識・技能を習得し実践的指導力を身につける。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：オリエンテーション：良い授業から優れた授業へ 第2回：社会科における優れた授業実践① 加曾利の犬 第3回：社会科における優れた授業実践② 備前福岡市 第4回：社会科における優れた授業実践③ 参勤交代 第5回：社会科における優れた授業実践④ VRを活用したフィールドワーク 第6回：社会系教科の成立 第7回：初期社会科 第8回：社会系教科の学習指導要領の変遷 第9回：日本の歴史教育と歴史教科書 第10回：海外の歴史教育と歴史教科書 第11回：社会科の模擬授業（地理的分野） 第12回：社会科の模擬授業（歴史的分野） 第13回：社会科の模擬授業（公民的分野） 第14回：総括 定期試験 テキスト			

関裕幸（編著）『中学校歴史 ワークシートで見る全単元・全時間の授業のすべて 社会』（東洋館出版社、2022年）

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』

学生に対する評価

受講態度20%、学習指導案および模擬授業20%、試験60%の割合で評価する。授業態度は回収したファイルの他、私語・姿勢・発言などでも評価を行う。

授業科目名： 社会科教材論A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高皇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 社会科の教材に関する理論を理解すると共に、教育内容に対する生徒の興味・関心を喚起し、生徒の学習に対する主体性を持たせるための教材研究（教材選択・教材作成）と、それに紐づいた授業づくりに必要な知識・技能を身につけ、授業内での教材の提示・活用方法を理解する。			
授業の概要 社会科の教材に関する理論と事例を取り上げ、自ら体験しながら解説すると共に、教育内容に対する生徒の興味・関心を喚起し、生徒の社会科学習に対する主体性を持たせるための教材研究（教材選択・教材作成）と、それに紐づいた授業づくり、教材の提示・活用方法を実際に教材や指導案を作りながら体得する。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：学習指導要領にみる社会科の教育内容と教材 第2回：参加型学習と教材①（地球家族 ポスターセッション） 第3回：参加型学習と教材②（地球家族 動画教材） 第4回：参加型学習と教材③（貿易ゲーム） 第5回：フィールドワーク①（計画） 第6回：フィールドワーク②（巡検） 第7回：フィールドワーク③（地図づくり） 第8回：オーラルヒストリー①（教科書における戦争の扱い） 第9回：オーラルヒストリー②（戦争証言動画） 第10回：オーラルヒストリー③（発問・指導案づくり） 第11回：模擬授業（公民的分野） 第12回：模擬授業（地理的分野） 第13回：模擬授業（歴史的分野） 第14回：総括 定期試験			
テキスト 清水美憲・小山正孝（監修）國分麻里・川口広美（編著）『新・教職課程演習 第17巻 中等社会系教育』（協同出版、2021年）			

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』

学生に対する評価

受講態度20%、学習指導案および模擬授業20%、試験60%の割合で評価する。授業態度は回収したファイルの他、私語・姿勢・発言などでも評価を行う。

授業科目名： 社会科教材論B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高皇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「社会科教材論A」で学んだ社会科教材の理論的・実践的基礎の上にたち、社会科の教育内容に関する理論と歴史の変遷を理解すると共に、教育内容に対する生徒の興味・関心を喚起し、生徒の学習に対する主体性を持たせるための教材研究（教材選択・教材作成）と、それに紐づいた授業づくりに必要な知識・技能を身につけ、授業内での教材の提示・活用方法を理解する。			
授業の概要 「社会科教材論A」で学んだ社会科教材の理論的・実践的基礎の上にたち、社会科の教育内容に関する理論と歴史の変遷を解説すると共に、教育内容に対する生徒の興味・関心を喚起し、生徒の社会科学習に対する主体性を持たせるための教材研究（教材選択・教材作成）と、それに紐づいた授業づくり、教材の提示・活用方法を実際に指導案や教材を作りながら体得する。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：学習指導要領にみる社会科の教育内容とその歴史の変遷 第2回：いのちの教育①（日本と海外の動向） 第3回：いのちの教育②（動画教材） 第4回：防災教育①（釜石の奇跡） 第5回：防災教育②（ハザードマップづくり） 第6回：歴史新聞づくり①（事例研究） 第7回：歴史新聞づくり②（ポスターセッション） 第8回：メディアリテラシー教育（事例研究） 第9回：モビリティ・マネジメント教育①（湊線すぐろく） 第10回：モビリティ・マネジメント教育②（事例研究） 第11回：模擬授業（公民的分野） 第12回：模擬授業（地理的分野） 第13回：模擬授業（歴史的分野） 第14回：総括 定期試験			
テキスト 清水美憲・小山正孝（監修）國分麻里・川口広美（編著）『新・教職課程演習 第17巻 中等			

社会系教育』（協同出版、2021年）

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』

学生に対する評価

受講態度20%、学習指導案および模擬授業20%、試験60%の割合で評価する。授業態度は回収したファイルの他、私語・姿勢・発言などでも評価を行う。

授業科目名： 伝承文化論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：森谷裕美子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地誌		
授業のテーマ：現代社会と伝承文化			
到達目標			
1 日常の「当りまえの出来事」の持つ意味に関心を持ち、これを説明できるようになる。			
2 現代的な問題と日本の伝承文化との関係を理解し、これを他者に伝えられるようになる。			
授業の概要			
<p>伝承文化とは前世代から継承された文化遺産を意味するが、これらの時代を超えて伝承される文化はその民族文化の中核をなすものであり、その多くが日常繰り返される行動様式のなかに包含されている。こうした伝承文化の研究は、その民族的特性を理解する上で我々に重要な手掛りを与えてくれるが、そのいっぽうで、若い世代からすれば見たことも聞いたこともないような内容であることが多い。しかし実際は、こうした現代的な事象も古くから伝承されてきた文化と密接につながっているのであって、本講義では、そうした日本社会の変化と共に新しく登場してきた現代的な事象と、これまでの民俗や過去からの歴史過程との関係を明らかにし、その意味を考察する。</p>			
授業計画（授業時間：1回100分）			
第1回：イントロダクション：「伝承文化」とは何かを考える			
第2回：Ⅰ 人の繋がりと暮らし 1 血縁関係 (1) 家族・親族の繋がり			
第3回：1 血縁関係 (2) 死者とのつながり			
第4回：2 地縁関係 (1) 村落の暮らし			
第5回：2 地縁関係 (2) 都市の暮らし			
第6回：3 自然とのかかわり方 (1) 食文化			
第7回：3 自然とのかかわり方 (2) コモンズ			
第8回：3 自然とのかかわり方 (3) 自然破壊と『もののけ姫』のメッセージ			
第9回：Ⅱ 信仰の世界 1 カミと自然 (1) カミと信仰			
第10回：1 カミと自然 (2) 日々の宗教とのかかわり			
第11回：1 カミと自然 (3) 生業と信仰			
第12回：2 信心と信仰 (1) 妖怪・お化け			
第13回：2 信心と信仰 (2) まじないと呪い			
第14回：2 信心と信仰 (3) 霊的職能者			
定期試験			
テキスト			

独自に作成した資料を授業時間内に配布する。

参考書・参考資料等

- ・岸上伸啓編『捕鯨と反捕鯨のあいだに』臨川書店、2020年
- ・DVD『もののけ姫』
- ・波平恵美子『ケガレ』講談社学術文庫、2009年

学生に対する評価

定期試験（60%）、小テスト（20%）、授業中の課題の提出（20%）

授業科目名： 地理歴史科教育法A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高皇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領等に示された地理歴史科の目標・意義・課題を理解することができる。また、地理歴史科の教材研究の方法、学習指導の工夫、学習指導案の作成、授業実践の分析といった基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業づくりを行う方法を身に付けることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領、カリキュラム構成原理等を検討し、地理歴史科の目的、意義、課題を学ぶ。また、地理歴史科における教材研究の方法、指導上の留意点について理解した上で、学習指導案の作成や、授業実践の分析を行うことで、社会科の授業づくりのための基礎的な知識・技能を習得する。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：オリエンテーション：教育実習・教育現場のための実践的指導力</p> <p>第2回：学習指導要領にみる地理歴史科のカリキュラム① 構成と目標</p> <p>第3回：学習指導要領にみる地理歴史科のカリキュラム② 内容と方法</p> <p>第4回：地理歴史科における授業分析</p> <p>第5回：地理歴史科における教材研究</p> <p>第6回：地理歴史科における教育方法</p> <p>第7回：地理歴史科におけるICT機器活用</p> <p>第8回：地理歴史科の学習指導案</p> <p>第9回：地理歴史科における授業実践（新採教員）</p> <p>第10回：地理歴史科における学習評価</p> <p>第11回：地理歴史科の模擬授業（地理総合）</p> <p>第12回：地理歴史科の模擬授業（歴史総合）</p> <p>第13回：地理歴史科の発展的な学習内容（地理総合）</p> <p>第14回：地理歴史科の発展的な学習内容（歴史総合）</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>清水美憲・小山正孝（監修）國分麻里・川口広美（編著）『新・教職課程演習 第17巻 中等社会系教育』（協同出版、2021年）</p>			

参考書・参考資料等

文部科学省『高等学校学習指導要領』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』

学生に対する評価

受講態度20%、学習指導案および模擬授業20%、試験60%の割合で評価する。授業態度は回収したファイルの他、私語・姿勢・発言などでも評価を行う。

授業科目名： 地理歴史科教育法B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高皇 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「地理歴史科教育法A」で学んだ地理歴史科教育の理論的・実践的基礎の上にたち、学習指導要領等に示された社会系教科の目標・意義・課題を理解し、授業実践に反映することができる。また、地理歴史科の教材研究の方法、学習指導の工夫、学習指導案の作成、授業実践の分析といった学習指導理論を応用し、具体的な授業場面を想定した授業づくりを行う方法を身に付け、実践的指導力を習得できる。			
授業の概要 「地理歴史科教育法A」で学んだ地理歴史科教育の理論的・実践的基礎の上にたち、地理歴史科における教材研究の方法、学習指導要領、科カリキュラム構成原理等を検討し、地理歴史科の目的、意義、課題を授業実践に反映する。また、地理歴史科における教材研究の方法、指導上の留意点について理解した上で、学習指導案の作成や、授業実践の分析を行うことで、地理歴史科の授業づくりのための知識・技能を習得し実践的指導力を身につける。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：オリエンテーション：良い授業から優れた授業へ 第2回：地理歴史科における優れた授業実践① 加曽利の犬 第3回：地理歴史科における優れた授業実践② 備前福岡市 第4回：地理歴史科における優れた授業実践③ 参勤交代 第5回：地理歴史科における優れた授業実践④ VRを活用したフィールドワーク 第6回：社会系教科の成立 第7回：初期社会科 第8回：社会系教科の学習指導要領の変遷 第9回：日本の歴史教育と歴史教科書 第10回：海外の歴史教育と歴史教科書 第11回：地理歴史科の模擬授業（地理探求） 第12回：地理歴史科の模擬授業（日本史探求） 第13回：地理歴史科の模擬授業（世界史探求） 第14回：総括 定期試験 テキスト			

清水美憲・小山正孝（監修）國分麻里・川口広美（編著）『新・教職課程演習 第17巻 中等社会系教育』（協同出版、2021年）

参考書・参考資料等

文部科学省『高等学校学習指導要領』、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』

学生に対する評価

受講態度20%、学習指導案および模擬授業20%、試験60%の割合で評価する。授業態度は回収したファイルの他、私語・姿勢・発言などでも評価を行う。

授業科目名：図書館概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岩崎れい 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育機関である図書館の機能と役割の基本を学ぶ科目である。到達目標は、図書館の基本機能、図書館に関する法律や宣言、学校や博物館などの他機関との連携、図書館サービスの国際動向などを知ること、図書館の役割と同時に、図書館が社会の中でどのような役割を果たすのかを理解することである。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：図書館の現状と動向 第2回：図書館の機能と関連法 第3回：図書館の社会的意義 第4回：公立図書館の成立と展開 第5回：公立図書館の役割と利用者のニーズ 第6回：学校図書館の役割と教育的機能 第7回：大学図書館の役割と研究・教育的機能 第8回：国立国会図書館の位置づけと役割 第9回：専門図書館の役割 第10回：図書館職員の役割と専門性 第11回：知的自由と図書館 第12回：図書館と類縁機関 第13回：図書館の国際動向 第14回：図書館の課題と展望</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>『現代図書館情報学シリーズ 1 改訂 図書館概論』（高山 正也・岸田 和明 編著 樹村房 2017）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

『図書館情報学事典』（日本図書館情報学会編 丸善 2023）

学生に対する評価

授業中の課題40%、筆記試験60%で評価する。

授業科目名： 生涯学習概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：牧野修也 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：生涯学習及び社会教育の理念と現代的実践</p> <p>到達目標：①学校外での教育実践の歴史と成果を理解する。 ②学校と学校以外の教育機関の連携の現代的意義を理解する。 ③コミュニティ形成における教育の役割を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>① 学校教育と社会教育の関係を歴史的及び制度的に講述する ② 生涯学習の意義と現代的意味を現代人のライフコースを踏まえて講述する ③ 社会教育機関と学校教育の連携の現状と課題を、事例を踏まえて講述するとともに、受講者の経験から事例を精査し整理する ④ 地域社会における学校教育以外の歴史を講述した上で、現在の取り組みを講述する。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：社会教育および生涯学習の意義と性格 第2回：「学ぶ」ことが、人の人生と生活に持つ意味 第3回：社会と学習の関係の歴史的变化 第4回：社会教育と生涯学習の法的関係と制度的関係 第5回：地域社会と学校教育の歴史的展開 第6回：地域社会と学校教育の現代的課題 第7回：図書館の持つ社会的意義 第8回：博物館の持つ社会的意義 第9回：生涯学習の観点から捉える子育てと地域社会 第10回：生涯学習から捉える高齢者と地域社会 第11回：生涯学習の観点から捉える「性」別の問題 第12回：生涯学習の観点から捉えるスポーツ 第13回：生涯学習の観点から捉えるグローバリゼーション 第14回：社会教育及び生涯学習が有する現代的意義と可能性 定期試験：レポート</p>			
テキスト：田中他 2020『テキスト生涯学習－新訂2版－学びがつむぐ新しい社会』学文社			
参考書・参考資料等			

講義時に適宜提示する

学生に対する評価

期末レポート：70%、中間レポート30%

授業科目名： 博物館概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：栗田秀法 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標 履修者が、博物館に関する基礎的知識を習得し、あわせて現代における博物館の果たす役割について理解したうえで、これを第三者に明快に解説できるようになる。			
授業の概要 博物館の機能、博物館の歴史、博物館をめぐる法体系等を学ぶ。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：「博物館」とは何か？ 第2回：西洋における博物館の成立（1）：驚異の部屋 第3回：西洋における博物館の成立（2）：博物学の誕生 第4回：西洋における博物館の成立（3）：公共博物館の誕生 第5回：西洋における博物館の成立（4）：近代美術館の特質 第6回：西洋における博物館の成立（5）：現代の博物館の動向 第7回：博物館の日本への導入と発展（1）：殖産興業と博物館 第8回：博物館の日本への導入と発展（2）：国粹主義と博物館 第9回：博物館の日本への導入と発展（3）：戦後の博物館 第10回：博物館の日本への導入と発展（4）：現代の博物館 第11回：博物館法の課題と展望（1）：博物館法の成立 第12回：博物館法の課題と展望（2）：博物館の設置及び運営上望ましい基準 第13回：博物館法の課題と展望（3）：博物館法の改正 第14回：博物館法の課題と展望（4）：博物館をめぐる国際的動向			
定期試験			
テキスト 栗田秀法編著『現代博物館学入門』ミネルヴァ書房、2019年			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 定期試験（70%）、毎回の授業の終わりに行うミニテスト（30%）			

授業科目名： 博物館情報・メディア論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：新井久代 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>博物館における情報・メディアの意義と活用方法、また情報発信の現状と課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用などに関する基礎的能力を養うようにする。その上で、特に博物館ではどのような情報を、どのように管理し発信しているのかを説明できるようにする。また現代社会において、理想的な情報発信について、自分なりの考えを述べることができる力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>博物館は情報を提供する為の施設である。その為には、適切な情報活動と良質な情報発信を行わなければならない。本講義では博物館における情報・メディアの意義や歴史を理解した上で、現代における博物館の様々な活動と情報・メディアのあり方を具体的な例を示しながら考察していく。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：博物館における情報およびメディアの意義・情報活動と情報発信 最初に授業のガイダンスを行う。博物館における情報およびメディアの意義について基本的な考え方を伝え、情報活動と情報発信について解説をする。</p> <p>第2回：博物館における情報技術の歴史と発展1 アナログ時代から1990年代半ば頃までそれぞれの時代において、情報技術が博物館活動にどのような影響を与えてきたか、実例を挙げながら解説をする。</p> <p>第3回：博物館における情報技術の歴史と発展2 1990年代半ば以降から現代までそれぞれの時代において、情報技術が博物館活動にどのような影響を与えてきたか、実例を挙げながらが解説をする。</p> <p>第4回：インターネットの活用 ウェブサイトによる情報発信について、様々な博物館の公式サイトを事例に、その内容及び発信の意義について考える。</p>			

第5回：デジタルアーカイブの現状と課題

デジタルアーカイブとは何か、博物館におけるデジタルアーカイブの現状と課題について説明をする。

第6回：第6回：博物館と知的財産

様々な事例より、博物館における知的財産に関する基礎知識を学習する。

第7回：博物館のドキュメンテーションとデータベース化1

博物館における「ドキュメンテーション」及び現場で用いられるデータベースについて概説する。

第8回：博物館のドキュメンテーションとデータベース化2

インターネットを使って、各博物館の収蔵品データベースを閲覧することにより、その現状を知る。それと共に、非公開、公開用収蔵品データベースの相違について解説をする。

第9回：メディアとしての博物館

博物館で使われる視聴覚メディアの種類について概説し、メディアとは何かを考える。また梅棹忠夫『メディアとしての博物館』を通じて、博物館をメディアとして捉えた意味について解説をする。

第10回：展示における情報発信

展示で用いられる情報メディア全般について解説をする。

第11回：展示における情報メディアの分類と手法1

展示室で用いられる「視聴覚系情報メディア」の分類と手法について紹介する。

第12回：展示における情報メディアの分類と手法2

展示室以外で用いられる視聴覚情報メディアの分類と手法について紹介する。

第13回：教育普及における情報発信1

従来から行われているアナログ的な活動を中心に概説する。

第14回：教育普及における情報発信2

前回の内容を踏まえ、デジタル技術を用いた活動事例を紹介、その意義について考える。

定期試験 定期試験は実施しない。
テキスト
参考書・参考資料等 大堀哲・水島英治『博物館学Ⅲ』（学文社 2012） 山根啓史『博物館情報学を考える』（デザインエッグ株式会社 2019）等
学生に対する評価 小論文・レポート 60% 最終授業時に課題もしくはレポートを課す。 授業参加 40% 授業態度や授業期間内に数回実施する、小課題等の提出状況や内容によって判断する。

授業科目名： 博物館教育論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：降旗千賀子 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標： 市民とともにある博物館・美術館が行うべき教育活動とは何かを考える。博物館の教育活動の重要性が理解できるようになり、問題意識が持てるようになる。			
授業の概要： 今の世の中に必要な人間性の回復にも寄与するものであることを、美術館博物館のさまざまな事例から紹介し、学生が積極的に発言する場を設ける。			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：イントロダクション 身近な美術館・博物館について。基本的なしくみとその使命。</p> <p>第2回：美術館・博物館における展示活動について</p> <p>第3回：美術館・博物館における教育活動について</p> <p>第4回：博物館・美術館が扱う「資料」の収集と保存（教育的視点から）</p> <p>第5回：校外学習-都内の区立美術館見学</p> <p>第6回：博物館・美術館「資料アーカイブ」（教育的視点から）</p> <p>第7回：美術館における教育活動の歴史（日本）</p> <p>第8回：[画材と素材の引き出し博物館]の企画制作活用</p> <p>第9回：展覧会+教育活動 『色の博物誌展』美術館の新しいアプローチ</p> <p>第10回：博物館・美術館「ボランティア」の重要性</p> <p>第11回：「モノを視る」作品鑑賞に関するトライアル1（発表）</p> <p>第12回：「モノを視る」作品鑑賞に関するトライアル2（発表）</p> <p>第13回：外部講師の話し 美術館の教育活動の事例</p> <p>第14回：授業の総括-博物館・美術館における教育の可能性</p> <p>最終小論文の提出</p>			
<p>テキスト</p> <p>その都度、配布する資料。</p>			
<p>参考書・参考資料等 『改訂新版 博物館教育論』大高幸、寺島洋子著／放送大学教育振興会／2022年、『こどもとおとなのためのミュージアム思考』稲庭彩和子編著／左右社／2022年</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への出席30%、授業態度（感想レポート）20%、発表20%、最終小論文30%</p>			

授業科目名： 教育学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：谷戸玲子 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育の意義や目的、人間の成長・発達について、基本的な内容を理解し、説明できるようになる。また、教育の理念や思想の歴史的変遷を踏まえ、現在の教育について多様な観点から考察したことを、自分の言葉で表現することができるようになる。学校教育及び社会教育の在り方や今後の課題について、個人の考えを伝え、グループで話し合うことで、新しい視点を発見したり、相手に伝わるように論述したりできるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>人間社会において教育の果たすべき役割と世界の教育の現状と課題、生涯学び続ける社会における学校教育及び社会教育の役割について専門的な視点で学ぶ。教育の基本的概念はどのようなもので、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶ。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回 ・ガイダンス～自己紹介、本授業のねらい、授業の進め方、評価の方法の説明 ・第1章 教育とは何か</p> <p>第2回 ・第2章 学校教育の制度的展開 学校制度の歴史 公教育と義務教育</p> <p>第3回 ・第3章 教育思想家たちの紹介（古代・中世・近世から近代・現代まで）</p> <p>第4回 ・第4章 子ども観の変遷 現代の子どもたちをどう観るか</p> <p>第5回 ・第5章 第6章 カリキュラム・マネジメントと求められる学力 学力観の変遷</p> <p>第6回 ・第7章 探究としての学びの意味 探究型の学習の効果と課題</p> <p>第7回 ・第8章 道徳教育と道徳授業 「特別の教科 道徳」成立の背景とこれからの道徳教育</p> <p>第8回 ・第9章 生徒指導の意義と原理</p> <p>第9回 ・第10章 学級経営 学級経営の定義と学級経営の方法</p> <p>第10回 ・第11章 第12章 学校経営 学校経営組織 教育行政 教育行政の役割</p> <p>第11回 ・第13章 生涯教育 キャリア教育 キャリア形成</p> <p>第12回 ・第14章 保育と幼児教育 歴史 幼児教育の特徴</p> <p>第13回 ・第15章 第16章 多様性と教育 教育改革の動向</p> <p>第14回 ・まとめ 小レポート作成 現代の教育改革 教育の課題 教育の意義と目的と時代の変化</p>			
<p>テキスト ・金 龍哲・深沢和彦編著『教育の原理と実践』2024 2,420円 三恵社 ISBN978-4-86693-915-5</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

- ・文部科学省『小学校学習指導要領』
- ・文部科学省『生徒指導提要（改訂版）』
- ・白井 俊（2020）． OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来 ミネルヴァ書房
- ・河村茂雄著（2019）『アクティブラーナーを育てる自律教育カウンセリング』図書文化

学生に対する評価

授業感想シート（リフレクションシート）（50%）毎回提出（その授業の目標の達成度合いで評価を行う）

授業参加（30%）グループワークへの参加，発表

第14回の授業中に小レポートを作成（20%）目標の達成度で，S, A, B, Cと4段階評価を行う

授業科目名： 学校経営と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：横谷弘美 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標 学校図書館の役割や意義について学び、学校図書館運営のありかたについて考察すること、および説明することができるようになる。			
授業の概要 学校経営における学校図書館の位置付けと学校図書館運営の実際についての講義を中心とし、司書教諭科目学修の基盤形成をはかる。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：学校図書館と司書教諭 第2回：学校図書館の理念 第3回：学校の中の「図書館」 第4回：学校図書館の歴史 第5回：学校経営と学校図書館、教育行政 第6回：日本における学校図書館の現状 第7回：学校の教育課程と学校図書館 第8回：学校図書館の目的と機能 第9回：学校図書館の教育活動 第10回：学校図書館の担当者 第11回：学校図書館のマネジメント 第12回：学校図書館の設計 第13回：学校図書館の連携と協力 第14回：学校図書館活動のありかた 定期試験は実施しない。			
テキスト 『改訂 学校経営と学校図書館（司書教諭テキストシリーズⅡ）』（中村百合子編、樹村房）			
参考書・参考資料等 参考文献を適宜紹介するほか、参考となる資料を授業中に適宜配付する。			
学生に対する評価 授業関連課題（50%）、学期末課題（50%）			

授業科目名： 学習指導と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：横谷弘美 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校における教育活動全般と学校図書館の関わり方の中でも、学習指導という面から司書教諭の果たすべき役割を学ぶ。具体的な学校図書館の活用方法について考察すること、および説明することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学習指導における学校図書館活用や情報活用能力育成について、その意義・方法をどのように教育課程に位置付けて展開していくかを検討することを中心に授業を行う。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：学校教育と学校図書館 第2回：教育課程と学校図書館 第3回：学習指導要領と学校図書館 第4回：学校図書館における情報活用能力の育成 第5回：情報活用能力等の育成と評価1（課題の設定） 第6回：情報活用能力等の育成と評価2（情報の収集） 第7回：情報活用能力等の育成と評価3（整理・分析・まとめ） 第8回：学校図書館と情報サービス 第9回：学校図書館メディアの選択 第10回：学校図書館コレクションと環境整備 第11回：教科等の学習指導と学校図書館1（各教科との連携） 第12回：教科等の学習指導と学校図書館2（総合的な学習・探求の時間） 第13回：教科等の学習指導と学校図書館3（検討発表） 第14回：特別な教育的ニーズと学校図書館</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>学習指導要領及び解説の抜粋等、参考となる資料を授業中に適宜配付する。</p>			
<p>学生に対する評価</p>			

授業関連課題 (50%)、学期末課題 (50%)

授業科目名：情報メディアの活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岩崎れい 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	大学が独自に設定する科目		
授業のテーマ及び到達目標 学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図ることを目的とする科目であり、到達目標は、学校教育における情報資源となる多様なメディアを知り、またそれに関わる児童生徒に対するメディア情報リテラシー教育や著作権についても基本的な知識を身に着けることである。			
授業の概要 学校教育を支える機関としての学校図書館が準備すべき情報メディアの特性、メディア情報リテラシー教育、著作権、データベースやインターネットを利用した情報検索について解説する。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：教育・学校における情報メディアの活用と学校図書館 第2回：児童生徒の日常生活における情報メディア活用の現状 第3回：多様化する情報メディアの特性と選択 第4回：教育の情報化と学校図書館の役割 第5回：データベース等を利用する情報検索の指導方法 第6回：動画コンテンツなどによる教材の多様化 第7回：教育現場における著作権 第8回：児童生徒に対する著作権教育 第9回：情報モラルと情報セキュリティ 第10回：メディア情報リテラシーの概念 第11回：学習指導要領とメディア情報リテラシー教育（1） 講義 第12回：学習指導要領とメディア情報リテラシー教育（2） 演習 第13回：バーチャルライブラリーとしての学校図書館の可能性 第14回：多様化する情報環境において司書教諭に求められる専門性 定期試験			
テキスト 『情報メディアと教育』（新地 辰朗 編著 樹村房 2023）			
参考書・参考資料等 『情報リテラシーのための図書館——日本の教育制度と図書館の改革』（根本彰著 みすず			

書房 2017)

学生に対する評価

授業中の課題40%、筆記試験60%で評価する。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山口哲史 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 この授業のテーマは、日本国憲法の基礎を習得することである。到達目標は、日本国憲法の基本的人権及び統治の仕組みと基本原則を理解して、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得することにある。			
授業の概要 主に法学の初学者、入門者、教職を目指す学生を対象に、日本国憲法の基礎に関する講義を行う。内容は、主に日本国憲法における統治（国会・内閣・裁判所）と基本的人権である。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：導入 第2回：憲法とは何か、憲法の歴史、立憲主義 第3回：国会 第4回：内閣 第5回：裁判所と違憲審査権 第6回：基本的人権総論 第7回：幸福追求権（包括的基本権） 第8回：法の下での平等 第9回：精神的自由権（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離） 第10回：精神的自由権（表現の自由） 1 第11回：精神的自由権（表現の自由） 2 第12回：経済的自由権、人身の自由および刑事手続上の権利 第13回：参政権・国務請求権・社会権 第14回：象徴天皇制・平和主義 定期試験			
テキスト 上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50!〔第3版〕』（有斐閣、2023） ISBN-13 : 978-4641228467			
参考書・参考資料等 長谷部恭男『憲法講話 24の入門講義 第2版』（有斐閣、2022） 毛利透『グラフィック 憲法入門 第2版』（新世社、2021）			

学生に対する評価

定期試験100%

授業科目名： 体育実技（球技）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：山本夏生 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツの実践を通して、自身と他者の心身への理解を深め、生涯にわたってスポーツと自身がどのように関わっていくのかを考え、実践に繋げてほしい。</p> <p>この授業で実施する球技スポーツでは、用具を扱う能力・技能のみでなく、チームメイトとのコミュニケーションが求められます。練習の過程の中でコミュニケーション力を高め、チームとしての戦術を工夫し、試合の実践では自身の力を発揮するとともに、互いのプレーをカバーし合う動きも重要です。声を掛け合い、チームで考えた戦術を活かしたゲームの組み立てとプレーができるようになることを到達目標とします。すべての授業を通して、自分自身だけでなく、他者が健康をどのように捉えているのか、スポーツにどう取り組むとより楽しめるようになるのか、考えながら参加し、実践してほしい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>球技種目（バレーボール、バスケットボール、ミニサッカー、シッティングバレー、ボッチャ等）を中心に行う。ボールを使うスポーツの場合、ボールの扱い方（技術）と敵・味方という人とのコミュニケーションを身に着ける必要があります。どちらも難しそうですが、これが面白さでもあり、スポーツの醍醐味です。プレーを楽しむためのルールやマナーを参加者全員で設定し、理解したうえで、各種目ごとにチームを編成して練習や試合を行います。各スポーツ種目の経験の有無、技能スキル（上手、下手）は問いません。種目にこだわらず、チームプレーを通して、コミュニケーションをとる難しさや面白さを味わうことを目標とします。ただし、段階的に技能を修得してゆきますので、欠席をしないようにしてください。球技スポーツを通して運動中の身体の変化、食生活と健康についても考えるきっかけとしてほしいです。運動強度は高めのクラスです。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：ガイダンス、活動ノートの書き方、自身の身体を知る</p> <p>第2回：バレーボール 円陣バレーボール、オーバーハンドパス、アンダーハンドパスの基本</p> <p>第3回：バレーボール ボール操作（サーブ、レシーブ、アタック）の練習</p> <p>第4回：バレーボール ルールの詳細、チーム戦術、実践試合</p> <p>第5回：バレーボール トーナメント戦</p> <p>第6回：バスケットボール シュート、パス、ドリブル、リバウンドの基本</p> <p>第7回：バスケットボール オフェンス、ディフェンス練習、3on3</p>			

第8回：バスケットボール ルールの詳細、チーム戦術、実践試合

第9回：バスケットボール トーナメント戦

第10回：ミニサッカー パス、ドリブル、シュートの基本、ルールの詳細

第11回：ミニサッカー ボールの操作（パス、シュート）練習、実践試合

第12回：ミニサッカー トーナメント戦

第13回：シッティングバレー パラ競技を知る、ルールの詳細、実践試合

第14回：ポッチャ パラ競技を知る、ルールの詳細、実践試合

定期試験 なし

テキスト

授業内で提供の映像・資料などを参考とする

参考書・参考資料等

講義のなかで適宜紹介する

学生に対する評価

授業参加・活動ノート 60%、最終レポート 40%で評価する。

授業参加については、学習態度、積極性や協調性、授業貢献度などを総合的に評価します。活動ノートとは、毎回の授業で記入してもらう課題のことです。実践する球技スポーツのルールや競技に関する知識が理解できていること、目的をもった練習方法を意識できていること、グループでたてた戦略を元に試合を行いその実践について記述できていること等を総合的に判断します。最終レポートについては授業内で別途示します。

授業科目名： 体育実技（球技）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：熊澤拓也 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各スポーツ種目の基本的なルールや戦術を理解し、他者に説明することができる。 2. 各スポーツ種目の基礎的な技術を習得し、試合に参加することができる。 3. チームメイトや相手チーム、審判らと関わり、コミュニケーションをとりながら、安全に各スポーツ種目を楽しむことができる。 			
授業の概要			
<p>球技種目（バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、サッカー等）を中心に行う。ボールを使うスポーツの場合、ボールの扱い方（技術）と敵・味方という人との関わり方（コミュニケーション）を身につける必要がある。どちらも難しそうであるが、これが面白さでもある。各スポーツ種目の経験や上手、下手は問わない。種目にこだわらず、チームプレーを通して、コミュニケーションをとる難しさや面白さを味わうことを目標とする。運動強度は高めのクラスである。</p>			
授業計画（授業時間：1回100分）			
第1回：【ガイダンス】本授業の進め方に関する説明、スポーツ歴に関するアンケートなど			
第2回：【ソフトボール】ルールの説明と基本的技術の練習			
第3回：【ソフトボール】試合の進め方や審判の方法に関する説明とチーム練習			
第4回：【ソフトボール】試合の実践			
第5回：【サッカー】ルールの説明と基本的技術の練習			
第6回：【サッカー】試合の進め方や審判の方法に関する説明とチーム練習			
第7回：【サッカー】試合の実践			
第8回：【バレーボール】ルールの説明と基本的技術の練習			
第9回：【バレーボール】試合の進め方や審判の方法に関する説明とチーム練習			
第10回：【バレーボール】試合の実践			
第11回：【バスケットボール】ルールの説明と基本的技術の練習			
第12回：【バスケットボール】試合の進め方や審判の方法に関する説明とチーム練習			
第13回：【バスケットボール】試合の実践			
第14回：基本的なルールや戦術・技術に関する確認テストと解説、本科目の振り返りと総括 定期試験は実施しない。			
テキスト			

公益財団法人日本ソフトボール協会公式ホームページ「学校体育推進関連ページ一覧」

<http://www.softball.or.jp/school/>

公益財団法人日本サッカー協会公式ホームページ「ルールを知ろう！」

<https://www.jfa.jp/rule/>

公益財団法人日本バレーボール協会公式ホームページ「はじめてのバレーボール」

https://www.jva.or.jp/for_begginers/

公益財団法人日本バスケットボール協会公式ホームページ「学びの情報コンテンツ」

http://www.japanbasketball.jp/coach/contents/?doing_wp_cron=1737129080.0515890121459960937500

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜資料を配布します。

学生に対する評価

【1】授業への参加度：1回6%×14回=84%

【2】基本的なルールや戦術・技術に関する確認テスト：16%

授業科目名：体育実技 (ダンス・体操)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：南明恵美 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>「話す」「書く」と同様に、自己の体を使って自己表現を行う手段として「ダンス」がある。また、自分の身体を見つめ直し、身体を充分に使って自己表現を行う。体を「作る」「操（あやつ）る」方法・手段として「体操」がある。身近な音楽や手具を使った動きにチャレンジする。日常生活のストレスの解消に役立てて欲しい。グループでの創作活動では身近なダンスの動きの情報を収集し、実現可能なダンスの技法をもちいて、自分たちの作品を完成させ発表する。動くことに慣れ親しむことが出来るようにする。技術向上を目指すものではない。中程度を目指してすすめるクラスである。</p>			
授業の概要			
<p>グループで作品を完成させるために、まずは、健康的で良く動ける身体づくりの方法を理論と実践を通じて学ぶ。具体的には、毎回ストレッチング、体幹トレーニングプログラムとしてのダンスを実践する。簡単なダンステクニックでできるダンスを実践し、動くことに慣れ、楽しみながら体力やダンスの技術向上に発展させる。グループの作品作りでは、身近な音楽を選択し、好みの動き・興味のある振り付け・既成のダンスの振り付けを模倣して構成し踊れるようにする。他のスポーツ同様、自己の努力と他者や指導者の励まし等でグループの作品を完成させ発表し合う。</p>			
授業計画（授業時間：1回100分）			
第1回：【授業ガイダンス】			
<ol style="list-style-type: none"> 1、運動の必要性、体の衰え、運動の効果 2、授業の進め方、準備物の確認 3、体幹トレーニングプログラムの必要性 「理想的なボディコンディション作りを目指して鍛える」 			
第2回：【自己の運動強度の決定】			
<ol style="list-style-type: none"> 1、目標心拍数の算出方法 2、運動記録の見方と検証 3、筋トレを日課とするための工夫 筋力トレーニングを意識したエクササイズ・ダンス 4、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「ステップや部位の動き強化」1日目 			
第3回：1、筋トレを日課とするための工夫 筋力トレーニングを意識したエクササイズ・ダンス			
2、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「ステップや部位の動き強化」2日目			

第4回：1、ストレッチの効用とストレッチの種類と方法

2、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「ステップと全身の動き」1回目

3、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「リズムと部位の動き強化」1日目

第5回：1、ストレッチの効用とストレッチの種類と方法

2、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「ステップと全身の動き」2回目

3、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「リズムと部位の動き強化」2日目

第6回：1、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「脚力向上」1回目

2、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「バレエ的な動き」1日目

3、自由課題のダンスⅠの作品の構成1日目

興味のあるジャンルのダンスから動きをグループで模倣する

第7回：1、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「脚力向上」2回目

2、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「バレエ的な動き」2日目

3、自由課題のダンス作品Ⅰの構成2日目

興味のあるジャンルのダンスから動きをグループで模倣する

第8回：1、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「ラテン的なリズムで動く」1回目

2、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「身近なダンス曲で動く」1日目

3、自由課題のダンス作品Ⅰの構成3日目

発表し合い、互いのダンスから構成や技術的な工夫を考察する

第9回：1、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「ラテン的なリズムで動く」2回目

2、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「身近なダンス曲で動く」2日目

3、自由課題のダンス作品Ⅱの構成1日目

興味のあるジャンルのダンスから動きをグループで模倣する

第10回：1、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「全身体力向上」1回目

2、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「速いスピードの動き」1日目

3、自由課題のダンス作品Ⅱの構成2日目

興味のあるジャンルのダンスから動きをグループで模倣する

第11回：1、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「全身体力向上」2回目

2、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「速いスピードの動き」2日目

3、自由課題のダンス作品Ⅱの構成3日目

発表し合い、互いのダンスから構成や技術的な工夫を考察する

第12回：1、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「脚力・バランス向上」1回目

2、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「アイソレーション技術を高める」1日目

3、自由課題のダンス作品Ⅲの構成1日目

興味のあるジャンルのダンスから動きをグループで模倣する

第13回：1、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「脚力・バランス向上」2回目

2、体幹トレーニングプログラムとしてのダンス「アイソレーション技術を高める」2日目

3、自由課題のダンス作品Ⅲの構成2日目

興味のあるジャンルのダンスから動きをグループで模倣する

第14回：1、自由課題のダンス作品Ⅲの構成3日目

発表し合い、互いのダンスから構成や技術的な工夫を考察する

2、自己のダンスに対するイメージが変化した部分を考え、ダンスを日常的に実践し、運動習慣の一助となるか考察する。

テキスト

授業内で映像・資料等参考とする

参考書・参考資料等

1、「きれい」への医学 海原純子 著 発行所 講談社

2、ストレッチングと筋の解剖 ブラッド・ウォーカー 著 川島敏生 訳 発行所 南江堂

3、女子の自重筋トレ 比嘉一雄 著 発行所 主婦の友社

4、医者いらずの体の整え方 中村格子 著 発行所 講談社

学生に対する評価

定期試験はせず、運動記録 と自他に対するダンスへのコメントの評価 30%

内容の理解、安全かつ必要な運動の準備行動、前向きな運動の実践 60%

他者への助言、励まし、協調性 10%

授業科目名： 体育実技（ラケット種 目）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：熊澤拓也 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び 高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 各スポーツ種目の基本的なルールや戦術を理解し、他者に説明することができる。</p> <p>2. 各スポーツ種目の基礎的な技術を習得し、試合に参加することができる。</p> <p>3. チームメイトや相手チーム、審判らと関わり、コミュニケーションをとりながら、安全に各スポーツ種目を楽しむことができる。</p>			
授業の概要			
<p>ラケット種目（テニス、バドミントン、卓球等）を行う。道具を使うスポーツは技術習得の面白さがある。また、シングルスやダブルスといったゲームを行うにあたっての面白さと難しさがある。生涯スポーツとしてもポピュラーな種目であるので、授業では、生涯スポーツとしてこれらのスポーツが楽しめるようになることを目的とする。各種目ともダブルスのゲームが出来るようになることを中心に授業を展開する。各種目の経験の有無は問わない。運動強度は中程度のクラスである。</p>			
授業計画（授業時間：1回100分）			
第1回：【ガイダンス】本授業の進め方に関する説明、スポーツ歴に関するアンケートなど			
第2回：【テニス】ルールの説明と基本的技術の練習			
第3回：【テニス】試合の進め方や審判の方法に関する説明とチーム練習			
第4回：【テニス】試合（シングルス）の実践			
第5回：【テニス】試合（ダブルス）の実践			
第6回：【バドミントン】ルールの説明と基本的技術の練習			
第7回：【バドミントン】試合の進め方や審判の方法に関する説明とチーム練習			
第8回：【バドミントン】試合（シングルス）の実践			
第9回：【バドミントン】試合（ダブルス）の実践			
第10回：【卓球】ルールの説明と基本的技術の練習			
第11回：【卓球】試合の進め方や審判の方法に関する説明とチーム練習			
第12回：【卓球】試合（シングルス）の実践			
第13回：【卓球】試合（ダブルス）の実践			
第14回：基本的なルールや戦術・技術に関する確認テストと解説、本科目の振り返りと総括 定期試験は実施しない。			

テキスト

公益財団法人日本テニス協会公式ホームページ「中学校部活動『テニス』指導の手引き」

<https://www.jta-tennis.or.jp/tabid/876/Default.aspx>

公益財団法人日本バドミントン協会公式ホームページ「競技ルール」

<https://www.badminton.or.jp/rule/>

公益財団法人日本卓球協会公式ホームページ「卓球の基本的なルール」

<https://jtta.or.jp/rule>

参考書・参考資料等

必要に応じて適宜資料を配布します。

学生に対する評価

【1】授業への参加度：1回6%×14回=84%

【2】基本的なルールや戦術・技術に関する確認テスト：16%

授業科目名： 体育実技（ラケット種 目）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：山本夏生 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び 高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツの実践を通して、自身と他者の心身への理解を深め、生涯にわたってスポーツと自身 がどのように関わっていくのかを考え、実践に繋げてほしい。</p> <p>この授業で実施するラケットスポーツでは、用具を扱う能力・技能習得の面白さがあります。 また、ダブルスではチームメイトとのコミュニケーションが求められ、チームで行う面白さと 難しさがあります。練習の過程の中でコミュニケーション力を高め、チームとしての戦術を工 夫し、試合の実践では自身の力を発揮するとともに、互いのプレーをカバーし合う動きも重要 です。声を掛け合い、個人やチームで考えた戦術を活かしたゲームの組み立てとプレーができ ようになることを到達目標とします。すべての授業を通して、自分自身だけでなく、他者が 健康をどのように捉えているのか、スポーツにどう取り組むとより楽しめるようになるのか、 考えながら参加し、実践してほしい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ラケット種目（バドミントン、テニス、卓球、卓球バレー等）を行う。道具を使うスポーツに は、技術習得の面白さと難しさがあります。また、シングルスとダブルスといったように、他 者と協力してプレーするうえでの面白さと難しさもあります。プレーを楽しむためのルールや マナーを参加者全員で理解したうえで、各種目ごとにチームを編成して練習や試合を行います 。各種目ともダブルスのゲームができるようになることを中心に授業を展開します。各スポー ツ種目の経験の有無、技能スキル（上手、下手）は問いません。生涯スポーツとしてこれらの スポーツが楽しめるようになることを目的とします。ただし、段階的に技能を修得してゆきま すので、欠席をしないようにしてください。ラケットスポーツを通して運動中の身体の変化、 食生活と健康についても考えるきっかけとしてほしいです。 運動強度は中程度のクラスです。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：ガイダンス、活動ノートの手書き方、自身の身体を知る</p> <p>第2回：バドミントン グリップの握り方、フォアハンドとバックハンドおよびサーブの基本</p> <p>第3回：バドミントン 発展練習（ドライブ、クリアー、ヘアピン、基本的な打ち方）</p> <p>第4回：バドミントン ルールの詳細、シングルスの実践試合、ダブルスの戦術</p> <p>第5回：バドミントン ダブルス、トーナメント戦</p>			

第6回：テニス グリップの握り方、フォアハンドとバックハンドおよびサービスの基本
 第7回：テニス 発展練習（ボレー、スマッシュの基本的な打ち方）
 第8回：テニス ルールの詳細、実践試合（ミニテニス）、ダブルスの戦術
 第9回：テニス ダブルス、トーナメント戦（硬式テニス）
 第10回：卓球 グリップの握り方、フォアハンドとバックハンドに基本
 第11回：卓球 パラ競技を知り実践する（卓球バレー）
 第12回：卓球 ルールの詳細、実践試合（シングルス）、ダブルスの戦術
 第13回：卓球 ダブルス、トーナメント戦
 第14回：ラケット種目総合実践試合
 定期試験 なし

テキスト

授業内で提供の映像・資料などを参考とする

参考書・参考資料等

講義のなかで適宜紹介する

学生に対する評価

授業参加・活動ノート 60%、最終レポート 40%で評価する。

授業参加については、学習態度、積極性や協調性、授業貢献度などを総合的に評価します。活動ノートとは、毎回の授業で記入してもらう課題のことです。実践するラケットスポーツのルールや競技に関する知識が理解できていること、目的をもった練習方法を意識できていること、グループでたてた戦略を元に試合を行いその実践について記述できていること等を総合的に判断します。最終レポートについては授業内で別途示します。

授業科目名： 体育実技（ゲーム・レクリエーション）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：南明恵美 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>ゲーム・レクリエーションは、子供の頃の遊びや小学校で親しんだ遊びや運動経験を生かし、「遊び」から「運動」や「スポーツ」へと身体活動が広げる方法を学ぶ。受講者は肉体的に自然に体力がつくばかりでなく、自己の認識が深まり、リフレッシュでき、気力がみなぎる経験を通し、「運動の良さや効果」を説明できる。また、レクリエーションの観点からスポーツの種目を無理なく、面白い遊びの基本的な要素を再認識し、実践できる、そして、説明できる方法を身につけられる。スポーツ種目の技術向上のみを目的にする授業ではない。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>各種身近な手具で運動(体操的)や用具を使った室内運動ゲーム(スポーツ種目)を実践する。運動する際に、子供の頃の遊びや、小学校で親しんだ遊びや運動を思い出してから身近なスポーツを実践してみると、無理無く、楽しく運動が捉えられる。安全で楽しくゲームが続くようにルールを相談で決めたりもする。楽しく実践できるためにも基礎運動能力や体力作りとして、ストレッチやコーディネーション・トレーニングや筋力トレーニングを毎回少しずつ実施する。運動強度は低めである。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：</p> <p>【授業ガイダンス】</p> <p>1、年齢に応じた均整の取れた良い美しいからだ</p> <p>1、大学時代に運動の意味、運動の効果</p> <p>1、授業の進め方、準備物の確認</p> <p>第2回：</p> <p>【自己の運動強度の決定】</p> <p>1、目標心拍数の求め方</p> <p>2、教師より提案された有酸素運動プログラム前後の心拍数の計測、運動記録記入</p> <p>【コーディネーション・トレーニング】</p> <p>ボール等を用いたコーディネーション・トレーニング</p> <p>【ソフトバレーボール】</p> <p>技術の見直し</p>			

第3回：

【自己の運動強度の決定】

教師より提案された有酸素運動プログラム前後の心拍数の計測、自己に必要な運動量を検証する

【コーディネーション・トレーニング】

「フープ・ボールで動く」等をテーマに、バランスの取れた巧緻性やリズムカルな動き

【ソフトバレーボール】

技術の見直し・試合の仕方を理解し、試合を実践する

第4回：

【筋力トレーニング】

筋トレの必要性と体幹トレーニング・エクササイズについて

【コーディネーション・トレーニングでからだ作り】

ボールを使った運動でタイミングよく動く

【バドミントン】

バドミントンの打ち方や簡単な試合の方法で、基本的な技術を体験し、運動を実践する

第5回：

【ストレッチ】

ストレッチの効用を理解し、自己に必要なストレッチングが実践できるようにする

【コーディネーション・トレーニングでからだ作り】

ジムソフトボールを使って動く

【筋力トレーニング】

ジムソフトボールを使って

【バドミントンの試合】

基本動作の向上をさせ、試合を実践する

第6回：

【運動遊びと伝承遊びから運動を見直す1回目】

運動になる遊びをグループごとに見直し、全員で実践してみる

【バドミントン】

バドミントンが楽しめる技術の見直しと実践力を向上させる

第7回：

【運動遊びと伝承遊びから運動を見直す2回目】

運動になる遊びをグループごとに見直し、全員で実践してみる

【ポートボールから3 on 3】

ルールを理解し、試合が楽しめる技術の確認と見直し、実践力を向上させる

第8回：

【運動遊びと伝承遊びから運動を見直す3回目】

運動になる遊びをグループごとに見直し、全員で実践してみる

【3on3】

楽しめる技術の見直しと実践力を向上させる

第9回：

【コーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

「ボール運動」でバランスの取れた巧緻性やリズムカルな動きで試合の感覚を取り戻し、試合に参加し続ける体力を向上させる

【ユニバーサル・ホッケー】

ホッケーのスティック動作の技術習得とパス・ドリブル・シュートの実践

第10回：

【コーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

「ダブルダッチ跳び」や「フープやロープを使った運動」で基本的な動作を実践する

【ユニバーサル・ホッケー】

試合が楽しめる技術の習得と実践

第11回：

【コーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

卓球やテニスのボールで遊ぶ、運動の前に体験トレーニングの為のダンスを踊る

【卓球】

試合が楽しめる技術の見直しと実践力を向上させる

第12回：

【コーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

「タグ・ラグビーやミニ・テニス」で遊ぶ、運動の前に体験トレーニングの為のダンスを踊る

【卓球】

試合が楽しめる技術の見直しと実践力を向上させる

第13回：

【コーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

バレーボールのボールで遊ぶように運動し、キックベースボールの基本的な動作に慣れる

【キックベースボール】

技術習得と試合の実践

第14回：

【コーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

バレーボールのボールで遊ぶように運動し、キックベースボールの基本的な動作に慣れる

【キックベースボール】

技術習得と試合の実践

<p>【授業のまとめ】</p> <p>経験の遊びから運動となるものを考える</p>
<p>テキスト</p> <p>授業内で映像・資料等参考とする</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <ol style="list-style-type: none">1、「きれい」への医学 海原純子 著 発行所 講談社2、ストレッチングと筋の解剖 ブラッド・ウォーカー 著 川島敏生 訳 発行所 南江堂3、女子の自重筋トレ 比嘉一雄 著 発行所 主婦の友社4、医者いらずの体の整え方 中村格子 著 発行所 講談社
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験はせず、授業内容が確認される内容をレポートにまとめ提出 30%</p> <p>内容の理解、安全かつ必要な運動の準備行動、前向きな運動の実践 60%</p> <p>他者への助言、励まし、協調性 10%</p>

授業科目名： 体育実技（水泳）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：山本夏生 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツの実践を通して、自身と他者の心身への理解を深め、生涯にわたってスポーツと自身がどのように関わっていくのかを考え、実践に繋げてほしい。</p> <p>この授業で実施するのは水泳である。水泳を通して心身の鍛錬をするとともに、生涯スポーツとして水泳が実践できるように、正確な泳ぎを修得し、水の楽しさを学ぶことを目的とします。泳げる受講生は、正しいフォームで綺麗に長く泳ぐための泳法を身に着けることを到達目標とします。綺麗に長く泳ぐ泳法の修得は、競技力の向上にも繋がります。泳ぐのが苦手な受講生は、クロールまたは平泳ぎの泳法を修得し、続けて長く泳げるようなフォームと体力を身に着けることを到達目標とします。すべての授業を通して、自分自身だけでなく、他者が健康をどのように捉えているのか、スポーツにどう取り組むとより楽しめるようになるのか、考えながら参加し、実践してほしい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>水泳中心のクラスである。水泳を通して身体の鍛錬をするとともに、生涯スポーツとして水泳が実践できるように正確な泳ぎを修得することを目標とします。泳げるものは泳法のフォーミングとさらにもうひと種目の修得を、泳げないものはクロールまたは平泳ぎの修得を目指します。授業は、泳力別班編成を行い、班別での泳法練習を中心に進めます。水泳経験の有無、技能スキル（上手、下手）は問いませんが、水に恐怖心がないことを前提とした授業です。着衣泳や水球、フィンスイミングにも挑戦してみます。水中スポーツを通して運動中の身体の変化、食生活と健康についても考えるきっかけとしてほしい。</p> <p>運動強度は高めです。集中講義で行います。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：ガイダンス、プール使用上の注意事項および安全方式の確認</p> <p>第2回：運動実践の前のストレッチ、トレーニング</p> <p>第3回：泳力別班編成（クロール）</p> <p>第4回：クロールの基本技術（基本姿勢、呼吸法、キック、プル）</p> <p>第5回：クロールの総合練習（50m泳の反復練習、泳力チェック）</p> <p>第6回：安全な水中運動、命を守るための泳法の取得</p> <p>第7回：背浮き、着衣泳の実践</p> <p>第8回：泳力別班編成（平泳ぎ）</p>			

第9回：平泳ぎの基本技術（基本姿勢、呼吸法、キック、プル）
 第10回：平泳ぎの総合練習（50m泳の反復練習、泳力チェック）
 第11回：バタフライ、背泳ぎの基本技術（基本姿勢）
 第12回：4泳法を続けて泳ぐ
 第13回：足に道具をつけて泳ぐ（フィンスイミング）、水球への挑戦
 第14回：個人総合練習（泳力チェック）、チーム戦術（リレー）
 定期試験 なし

テキスト

授業内で提供の映像・資料などを参考とする

参考書・参考資料等

講義のなかで適宜紹介する

学生に対する評価

授業参加・活動ノート 70%、最終レポート 30%で評価する。

授業参加については、学習態度、積極性や協調性、授業貢献度などを総合的に評価します。活動ノートとは、各授業後に記入してもらう課題のことです。水泳のルールや競技に関する知識が理解できていること、泳法を取得するうえで自身が気を配ったことや、着衣泳の重要性を意識し実践できたのか、水球やリレーなどのチーム競技の実践について、などを振り返り自らの言葉で「水泳」を通して学んだことを記述できているのかを総合的に判断します。最終レポートについては授業内で別途示します。

授業科目名： 体育実技（水中運動）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：山本夏生 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目（中学校及び 高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツの実践を通して、自身と他者の心身への理解を深め、生涯にわたってスポーツと自身がどのように関わっていくのかを考え、実践に繋げてほしい。</p> <p>水中運動を中心としたクラスです。幅広い層の健康づくりに有用とされている水中運動を経験し、その楽しさを学ぶことを目的とします。水の特性を十分理解した上で、水中での基本動作のバリエーションを増やし、それらを組み合わせる楽しい水中運動の考案や実施ができるようになること、タイムにこだわらずに楽なフォームで続けて泳ぐことができるようになることを到達目標とします。すべての授業を通して、自分自身だけでなく、他者が健康をどのように捉えているのか、スポーツにどう取り組むとより楽しめるようになるのか、考えながら参加し、実践してほしい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業では、水中運動を経験することで、水中運動全般の楽しさを体験、修得することを目的とします。具体的には、リズム水泳、水中エクササイズダンス、水中ウォーキング、着衣泳などを行います。また、タイムにこだわらず、楽なフォームで続けて泳ぐという健康のための水泳も身に着けることを目指します。泳法はクロールと平泳ぎを中心としますが、同時にバタフライ、背泳ぎの基本技能修得も目指してゆきます。また、チームで水中エクササイズダンスを創作し、共に楽しむ水中運動をつくりあげてゆきます。最後の授業で、リズム水泳の発表会、水中運動会を開催します。水泳経験の有無、技能スキル（上手、下手）は問いませんが、水に恐怖心がないことを前提とした授業です。着衣泳や水球にも挑戦してみます。水中スポーツを通して運動中の身体の変化、食生活と健康についても考えるきっかけとしてほしい。</p> <p>運動強度は高めです。集中講義で行います。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：ガイダンス、プール使用上の注意事項および安全方式の確認</p> <p>第2回：運動実践の前のストレッチ、トレーニング</p> <p>第3回：水中ウォーキング、泳力別班編成（クロール、平泳ぎ）</p> <p>第4回：クロール、平泳ぎの基本技術（基本姿勢、呼吸法、キック、プル）</p> <p>第5回：水中エクササイズダンス（実践、創作演技の作成にむけて）</p> <p>第6回：水中エクササイズダンス（創作演技の作成）</p> <p>第7回：水中エクササイズダンス（水中練習）</p>			

第8回：背浮き、着衣泳の実践
第9回：クロール、平泳ぎの総合練習（泳力チェック）
第10回：健康づくり運動としての水中運動
第11回：バタフライ、背泳ぎの基本技術（基本姿勢）
第12回：4泳法を続けて泳ぐ
第13回：水中運動会、水球への挑戦
第14回：水中エクササイズダンス（創作演技の発表）
定期試験 なし

テキスト

授業内で提供の映像・資料などを参考とする

参考書・参考資料等

講義のなかで適宜紹介する

学生に対する評価

授業参加・活動ノート 70%、最終レポート 30%で評価する。

授業参加については、学習態度、積極性や協調性、授業貢献度などを総合的に評価します。活動ノートとは、各授業後に記入してもらう課題のことです。水泳のルールや競技に関する知識が理解できていること、泳法を取得するうえで自身が気を配ったことや、着衣泳の重要性を意識し実践できたのか、水球などのチーム競技の実践について、水中エクササイズダンスの創作過程、実践などを振り返り自らの言葉で「水中運動」を通して学んだことを記述できているのかを総合的に判断します。最終レポートについては授業内で別途示します。

授業科目名： 体育実技（フィット ネス）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：堀田文郎 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び 高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 本授業のテーマは、自分のからだに対する実践的な理解を深め、自分なりの「フィットネス」を探究することにあります。また、本授業では、自身のからだとライフスタイルに合った「フィットネス」を自分で作り上げ、実践することをその到達目標とします。			
授業の概要 本授業は主に体育館にて対面で実施します。また、体育館での実技は「フィットネス」に対する実践的で身体的な理解を深めることを目的に、エクササイズの指導と実践、及び、スポーツレクリエーションを実施します。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：ガイダンス 第2回：フィットネスとは 第3回：からだについて考える 第4回：脚を鍛えるエクササイズとスポーツレクリエーションの実施 第5回：臀部を鍛えるエクササイズとスポーツレクリエーションの実施 第6回：下半身を鍛えるサーキットトレーニングとスポーツレクリエーションの実施 第7回：腹部を鍛えるエクササイズとスポーツレクリエーションの実施 第8回：背中を鍛えるエクササイズとスポーツレクリエーションの実施 第9回：体幹を鍛えるサーキットトレーニングとスポーツレクリエーションの実施 第10回：胸を鍛えるエクササイズとスポーツレクリエーションの実施 第11回：肩を鍛えるエクササイズとスポーツレクリエーションの実施 第12回：腕を鍛えるエクササイズとスポーツレクリエーションの実施 第13回：上半身を鍛えるサーキットトレーニングとスポーツレクリエーションの実施 第14回：本講義のまとめ			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 授業内でプリントを作成・配布して参考資料とする			
学生に対する評価 最終レポート（60%）、授業内レポート（40%）			

授業科目名： 体育実技（基礎運動）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：南明恵美 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>いつの頃からか運動が苦手になったり、嫌いになったりしてしまうことがある。その理由の一つに「出来ないから」がある。運動の楽しさを感じたことが無かったり、運動不足で運動の楽しさを忘れてしまうこともある。基礎運動は基礎運動能力(走・跳・投)を高め、からだの使い方 の基礎を再確認し、生活の中で、また、将来的に身体活動を拡大し、運動を実践できる能力 (運動習慣)を身に付ける。この授業での運動種目はコーディネーションを高める手段であって、 技術向上が目的ではない。運動が苦手、嫌いな人も歓迎する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>体力を向上させる方法を実践することで、様々なスポーツがより楽しめるようになる。そこでコ ーデネーション(運動の神経支配、調整力)を高める運動を中心に行う。具体的には、各種身近 な手具や用具で体操的に運動し、ストレッチやコーディネーション・トレーニングや筋力トレ ーニングを毎回少しずつ実施し、実践力を高める。仲間との実践を通じて、運動が身近なも のとなることに役立つ。 運動強度は低めである。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：</p> <p>【授業ガイダンス】</p> <p>1、大学時代に運動の意味、運動の効果、体の衰え</p> <p>1、運動が作る年齢に応じた均整の取れた良い美しいからだ</p> <p>1、授業の進め方、準備物の確認</p> <p>第2回：</p> <p>【自己の運動強度の決定】</p> <p>1、目標心拍数の求め方</p> <p>2、教師より提案された有酸素運動プログラム前後の心拍数の計測、運動記録記入</p> <p>【コーディネーション・トレーニング】</p> <p>ボール等を用いたコーディネーション・トレーニング</p> <p>【ソフトバレーボール】</p> <p>技術の見直し</p> <p>第3回：</p>			

【自己の運動強度の決定】

教師より提案された有酸素運動プログラム前後の心拍数の計測、自己に必要な運動量を検証する

【コーディネーション・トレーニング】

ボール等を用いたコーディネーション・トレーニング

【ソフトバレーボール】

技術の見直し・実践力の向上

第4回：

【筋力トレーニング】

筋トレの必要性と体幹トレーニング・エクササイズについて

【コーディネーション・トレーニングでからだ作り】

ロープやフープを使った運動でタイミングよく動く

【ソフトバレーボールの試合】

バレーボールのゲームに必要な技術の見直し

第5回：

【ストレッチ】

ストレッチの効用について

【コーディネーション・トレーニングでからだ作り】

ジムソフトボールを使って動く

【筋力トレーニング】

ジムソフトボールを使って

【ソフトバレーボールの試合】

実践力を高め試合を楽しむ

第6回：

【からだづくり運動とコーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

はずむ・リズムカルに動き、試合に参加し続ける体力の向上の為の筋力トレーニング

ダブルダッチ運動、ミニ・テニス等 運動遊び

【ラケット種目バドミントン】

技術の見直し

第7回：

【からだづくり運動とコーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

はずむ・リズムカルに動き、試合に参加し続ける体力の向上の為の筋力トレーニング

ダブルダッチ運動、ミニ・テニス等 運動遊び

【ラケット種目バドミントン】

技術の見直しと実践力の向上

第8回：

【からだづくり運動とコーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

ボールのパス練習・シュート練習等で試合に参加し続ける体力の向上の為に筋力トレーニング

【ラケット種目バドミントン】

試合が楽しめる技術の確認と見直し・実践力の向上

第9回：

【からだづくり運動とコーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

ボールのパス練習・シュート練習等で試合に参加し続ける体力の向上の為に筋力トレーニング

【ラケット種目バドミントン】

試合が楽しめる技術の確認と見直し・実践力の向上

第10回：

【からだづくり運動とコーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

ボールのパス練習・シュート練習で、体力的に技術的にコートゲームに備える

【ポートボールや3 on 3】

試合が楽しめる技術の見直しと実践

第11回：

【からだづくり運動とコーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

卓球やテニスのボールで遊び、運動の前に基本的な動きを実践する

【卓球や3 on 3】

試合が楽しめる技術の見直しと実践力の向上

第12回：

【からだづくり運動とコーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

卓球やテニスのボールで遊び、運動の前に基本的な動きを実践する

【卓球や3 on 3】

試合が楽しめる技術の見直しと実践力の向上

第13回：

【からだづくり運動とコーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

卓球やテニスのボールで遊び、運動の前にキックベースボールの基本的な動作に慣れる

【キックベースボールの実践】

身体の基本となる動きが要求されるキックベースボールのルールを理解して楽しむ

第14回：

【からだづくり運動とコーディネーション・トレーニング、筋力トレーニング】

バレーボールのボールで遊ぶように運動し、キックベースボールの基本的な動作に慣れる

【キックベースボールの実践】

身体の基本となる動きが要求されるキックベースボールのルールを理解して楽しむ

【自粛期間中の心身の状態と必要な運動量】

自己の運動習慣を見直す

テキスト

授業内で映像・資料等参考とする

参考書・参考資料等

- 1、「きれい」への医学 海原純子 著 発行所 講談社
- 2、ストレッチングと筋の解剖 ブラッド・ウォーカー 著 川島敏生 訳 発行所 南江堂
- 3、女子の自重筋トレ 比嘉一雄 著 発行所 主婦の友社
- 4、医者いらずの体の整え方 中村格子 著 発行所 講談社

学生に対する評価

定期試験はせず、授業内容が確認される内容をレポートにまとめ提出 30%

内容の理解、安全かつ必要な運動の準備行動、前向きな運動の実践 60%

他者への助言、励まし、協調性 10%

授業科目名： 英語A I a	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： アダム・クリストファー、P. レイツ、峰松和子、岡田真弓 、小平昌子、陸田絵里子、阿 部陽子、井上真理、梶山秀雄 、本多幸七郎、香山はるの、 鈴木武生、田村菜穂子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び 高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 初歩的な英語で会話のやり取りや英語で自分の考えを簡潔に表現できるようにする。日常的な 話題について、自身の考えや感想を基本的な語句を用いて伝えることができるようにする。また ペアやグループなどで、自分自身のことに関して英語で発表できるようにすることを目標と する。			
授業の概要 演習。この授業では、初歩的な英語で会話のやり取りや英語で自分の考えを簡潔に表現する力 を養う。まずは、視聴覚教材等を活用し英語の音声上の特徴や英語特有のリズムを習得する。 ごく身近な話題であれば、基本的な表現を用いて簡単な会話のやり取りをすることができるよ うにする。また日常的な話題について、自身の考えや感想を基本的な語句を用いて伝えること ができるようにする。さらに自己紹介や自分の趣味についてペアやグループなどで英語で発表 を行うことができるようにする。加えて、インターネットにおける英語コミュニケーションにも 対応出来るようにする。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：Unit1 Daily activities (1) 第2回：Unit1 Daily activities (2) 第3回：Unit2 Work and study (1) 第4回：Unit2 Work and study (2) 第5回：Unit3 At the moment (1) 第6回：Unit3 At the moment (2) 第7回：Unit4 Feelings (1) 第8回：Unit4 Feelings (2) 第9回：Review 1 (Unit 1-3)			

第10回：Unit 5 On the weekend (1)

第11回：Unit 5 On the weekend (2)

第12回：Unit 6 Places around town (1)

第13回：Unit 6 Places around town (2)

第14回：Review 2 (Unit 4-6)

テキスト

Stretch 1 (2nd ed.), Oxford University Press (ISBN 9780194135931)

参考書・参考資料等

学生に対する評価

授業参加 30%：授業に積極的に参加しているかを評価します。

その他 70%：課題等の提出物、筆記テスト／リスニング・テスト／口頭テスト等の総合

授業科目名： 英語A I b	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：アダム・クリストファー、J.ウイット、高井美紀子、小池知之、村越麻子、野上文子、兼利琢也、古田島綾子、清水雅夫、菅沼文子、大澤美穂子、鈴木武生、水野稚、小暮正人 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 この授業では「聞く」「話す」「読む」「書く」の初歩的な4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。英語で読んだり聞いた情報や考えなどを的確に理解し、それに対する自身の考えや感想を基本的な語句を用いて簡単に英文で書いたり話して表現できるようにする。			
授業の概要 演習。この授業では「聞く」「話す」「読む」「書く」の初歩的な4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。そのために視聴覚教材等を活用し基本的な4技能をバランス良く育成するとともに、複数の領域を統合的に活用し総合的英語コミュニケーション能力の向上を図る。英語で読んだり聞いた情報や考えなどを的確に理解し、それに対する自身の考えや感想を基本的な語句を用いて簡単に英文で書いたり話して表現できるようにする。加えて、メールのやり取りをはじめとする、インターネットにおける英語コミュニケーションにも対応出来るようにする。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：Unit 1 Introductions (1) 第2回：Unit 1 Introductions (2) 第3回：Unit 2 What a life! (1) 第4回：Unit 2 What a life! (2) 第5回：Unit 3 Free time (1) 第6回：Unit 3 Free time (2) 第7回：Review 1 第8回：Unit 4 Places (1) 第9回：Unit 4 Places (2)			

第10回：Unit 5 Getting around (1)

第11回：Unit 5 Getting around (2)

第12回：Unit 6 Shopping (1)

第13回：Unit 6 Shopping (2)

第14回：Review 2

テキスト

Breakthrough plus 1 (2nd ed.), Macmillan, ISBN:9781380003089

参考書・参考資料等

学生に対する評価

授業参加 30%：授業に積極的に参加しているかを評価します。

その他 70%：課題等の提出物、筆記テスト／リスニング・テスト／口頭テスト等の総合

授業科目名： 英語B I a	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：Tammy Yu 担当形態：クラス分け・単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・様々なシチュエーションでの英会話練習を通じ、基本的な英会話のための英単語と文法を学ぶ。 ・実際の会話で英語を使う自信をつける。 			
授業の概要			
ネイティブ・スピーカーによる全編英語の授業で、大学生活や日常会話に必要な英語を学びます。ロールプレイやスピーキング・アクティビティを通じ、実践的に英語を学びます。リーディングやライティングもサポートしつつ、スピーキングとリスニングに重点を置きます。			
授業計画（授業時間：1回100分）			
第1回：Course Orientation / Unit 1: Introducing yourself			
第2回：Unit 2: Exchanging information			
第3回：Unit 3: Talking about food			
第4回：Unit 4: Ordering in a restaurant			
第5回：Unit 5: Talking about a typical day			
第6回：Unit 6: Talking about activities			
第7回：Review and Mini-test 1			
第8回：Unit 8: Describing what you're wearing			
第9回：Unit 9: Shopping for clothes			
第10回：Unit 10: Talking about the weather			
第11回：Unit 11: Making travel plans			
第12回：Unit 12: Describing a place			
第13回：Unit 13: Asking for & giving directions			
第14回：Final test			
定期試験は実施しない。			
テキスト Berlitz English for University Students 1 4th Edition Alain Bellicha著/ Berlitz Japan, Inc / 2019年刊行 / 2,310円(税抜)			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価			
Participation (30%)、Homework (20%) / Mini-tests in class (20%) / Final test (30%)			

授業科目名： 英語B I b	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：Mark Bissonra 1 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び 高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 ・アカデミック・ライティングの基礎となる英単語と文法を学び、自信をつける。 ・文章を読みながら、言語を認識し理解する練習をする。			
授業の概要 ネイティブ・スピーカーによる全編英語の授業で、ライティングの基礎を学びます。教師から 習った単語やフレーズを、ペアやグループワークで読解やライティングのアクティビティを通 して使いこなす練習をします。スピーキングやリスニングもサポートしつつ、リーディングと ライティングに重点を置きます。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：Course Orientation / Unit：People：Reading 1 & 2 第2回：Unit：People：Writing 第3回：Unit：Seasons：Reading 1 第4回：Unit：Seasons：Reading 2 第5回：Unit：Seasons：Writing 第6回：Unit：Lifestyle：Reading 1 第7回：Unit：Lifestyle：Reading 2 第8回：Unit：Lifestyle：Writing 第9回：Mini-test 1 第10回：Unit：Places：Reading 1 & 2 第11回：Unit：Places：Writing 第12回：Unit：Jobs：Reading 1 第13回：Unit：Jobs：Reading 2 第14回：Final test 定期試験は実施しない。			
テキスト Unlock Level 1 Reading, Writing and Critical Thinking Student's Book with Digital Pack Sabina Ostrowska, Kate Adams, with Chris Sowton著/ Cambridge ISBN: 978-1009031387			
参考書・参考資料等			

学生に対する評価

Participation (30%) 、 Homework (20%) / Mini-tests in class (20%) / Final test (30%)

授業科目名： フランス語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石井 珠江、高尾 歩、 伊藤 敬佑
			担当形態： クラス分け・オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び 高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>フランス語の「読む・書く・聞く・話す」といった総合的・実用的なコミュニケーション能力に力点をおき、フランス語の基礎を身につけることを目標とします。【文法】では、基礎となる文法事項を中心に学び、総合的なフランス語力を身につけます。【会話】では、フランスの生活の様々な場面において必要となるフランス語の表現を学びます。春学期の学習を通じて、仏検5級程度の実力を養います。また授業では視聴覚教材（CD・DVD・Youtubeなど）を取り入れます。楽しみながらフランスの文化・社会の魅力を発見していきましょう！</p>			
<p>授業の概要</p> <p>週2回（【文法】と【会話】が週1回ずつ）の授業です。</p> <p>【文法】（火曜）の授業では、基礎的な文法と読解を中心に学習します。</p> <p>【会話】（金曜）の授業では、基本的な会話表現を学習します。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：【会話】 Leçon 1 挨拶をする 名前を言う 名前のスペルを言う 数1-6</p> <p>第2回：【文法】 フランス語の文字と発音（1） アルファベ 綴り字記号 綴りと発音</p> <p>第3回：【会話】 Leçon 2 国籍を言う 職業を言う</p> <p>第4回：【文法】 フランス語の文字と発音（2） リエゾン・アンシェヌマン・エリジョン Leçon 1 1. 国籍を表す形容詞 2. 主語人称代名詞</p> <p>第5回：【会話】 Leçon 2 出身地を言う 数字1-10</p> <p>第6回：【文法】 Leçon 1 3. 動詞の活用：être Leçon 2 1. 名詞の性・数 2. 不定冠詞</p> <p>第7回：【会話】 Leçon 3 話せる言語を言う 専攻を言う</p> <p>第8回：【文法】 Leçon 2 3. 定冠詞 4. 場所の前置詞</p> <p>第9回：【会話】 Leçon 3 好きなことを言う</p> <p>第10回：【文法】 Leçon 3 1. 動詞の活用：avoir 2. 疑問文</p> <p>第11回：【会話】 Leçon 1-3 までの復習</p> <p>第12回：【文法】 Leçon 3 3. 否定文 4. 応答文</p> <p>第13回：【会話】 Leçon 4 住んでいる国や都市を言う 数字11-20</p>			

- 第14回：【文法】 Leçon 4 1. 動詞の活用：第一群規則動詞 (-er動詞) 2. 形容詞
- 第15回：【会話】 Leçon 4 否定する
- 第16回：【文法】 Leçon 4 3. 指示形容詞 4. 疑問形容詞 5. 所有形容詞
- 第17回：【会話】 Leçon 5 持ち物を言う 年齢を言う 数字20-60
- 第18回：【文法】 Leçon 5 1. 動詞の活用：vouloir, acheter 2. 部分冠詞 3. 量の表現
4. 中性代名詞 en
- 第19回：【会話】 Leçon 5 授業について話す
- 第20回：【文法】 Leçon 5 5. 指示代名詞 ceci, cela Leçon 6 1. 動詞の活用：aller, venir
2. 前置詞+定冠詞の縮約
- 第21回：【会話】 Leçon 4-5までの復習
- 第22回：【文法】 Leçon 6 3. 強勢形人称代名詞 5. 疑問副詞のまとめ
- 第23回：【会話】 Leçon 6 行き先を言う 家事について話す
- 第24回：【文法】 Leçon 7 1. 動詞の活用：pouvoir, voir, finir, faire
2. 不定代名詞と不定形容詞
- 第25回：【会話】 Leçon 6 普段することを語る
- 第26回：【文法】 非人称構文
- 第27回：【会話】 「Quiz、練習問題」を使ってこれまでの復習、総括
- 第28回：【文法】 文法のまとめ、復習、総括

テキスト

【文法】大久保政憲、木島愛「きみはな——きみと話したい！フランス語 スマート版——」朝日出版社、ISBN：978-4-255-35299-2

【会話】北村亜矢子、ヴァンサン・デュランベルジェ「プチ・マエストロ 1」朝日出版社、ISBN：978-4-255-35372-2

参考書・参考資料等

〈表現〉

・伊藤敬佑（アテネ・フランセ責任編集）『うっかりペネロペ 楽しく♡かんたん フランス語会話 すぐに使えるひとことフレーズ120』Jリサーチ出版、2023年。

<https://www.jresearch.co.jp/book/b619210.html>

〈文法〉

・島崎貴則（アテネ・フランセ責任編集）『新ゼロからスタート フランス語 文法編』Jリサーチ出版、2020年。

<https://www.jresearch.co.jp/book/b527850.html>

・大塚陽子『これからはじめる フランス語入門』NHK出版、2021年。※ Kindle版もあり。
<https://www.nhk-book.co.jp/detail/000000351702021.html>

〈単語集〉

・ジョルジュ・ヴェスィエール『仏検4級・5級対応 クラウン フランス語単語 入門』三省堂、2020年。
<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/dict/ssd36570>

〈フランス文化〉フランスの文化を知るには

・田村毅監修、鈴木雅生、福島勲『フランス文化読本 フランスを知るための16の窓』丸善出版、2014年。
https://www.maruzen-publishing.co.jp/item/?book_no=294480

・朝比奈美知子、横山安由美『フランス文化55のキーワード(世界文化シリーズ2)』ミネルバ書房、2011年。
<https://www.minervashobo.co.jp/book/b82302.html>

学生に対する評価

授業活動への参加度：30%、その他（課題提出、授業内の筆記テスト・口頭テスト・聞き取りテストなど）：70%

授業科目名： ドイツ語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部一哉、R.ヘニング、フィッシャー大澤ユディット、長谷川 悦朗
			担当形態：クラス分け・オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
ドイツ語を初めて学ぶ人のための授業です。本授業の目的は、ドイツ語の「ことばの仕組み」と「ことばを取り巻く文化」について学習することです。本授業の目標は、学習したドイツ語知識に基づいて、簡単なドイツ語を「読む・書く・聞く・話す」ことができるようになることです。			
授業の概要			
火曜日と金曜日の週に2回行なわれる授業です。			
ひとつは「文法練習」を中心とした授業で、ドイツ語の文法について学び、それを実際に活用し、基本的な表現をするための基礎力を身につけます。教科書は「プロムナード やさしいドイツ語文法 [三訂版]」を使います。			
もうひとつは「コミュニケーション練習」を中心とした授業で、ドイツ語による日常的なコミュニケーションで使われる語彙と表現を学び、実際の練習を行います。			
授業計画（授業時間：1回100分）			
第1回 【文法】 1. ドイツ語の発音 1			
第2回 【コミュニケーション】 1. Orientierung 1 オリエンテーション 1			
第3回 【文法】 2. ドイツ語の発音 2			
第4回 【コミュニケーション】 2. Orientierung 2 オリエンテーション 2			
第5回 【文法】 3. 人称代名詞と動詞の現在人称変化 1			
第6回 【コミュニケーション】 3. Begrüßungen 1 挨拶 1			
第7回 【文法】 4. 人称代名詞と動詞の現在人称変化 2			
第8回 【コミュニケーション】 4. Begrüßungen 2 挨拶 2			
第9回 【文法】 5. 人称代名詞と動詞の現在人称変化 3			
第10回 【コミュニケーション】 5. Begrüßungen 3 挨拶 3			
第11回 【文法】 6. 名詞の性と格 1			
第12回 【コミュニケーション】 6. Meine Familie 1 私の家族 1			

- 第13回 【文法】 7. 名詞の性と格 2
- 第14回 【コミュニケーション】 7. Meine Familie 2 私の家族 2
- 第15回 【文法】 8. 名詞の性と格 3
- 第16回 【コミュニケーション】 8. Meine Familie 3 私の家族 3
- 第17回 【文法】 9. 定冠詞類と不定冠詞類 1
- 第18回 【コミュニケーション】 9. Herkunft 1 出身 1
- 第19回 【文法】 10. 定冠詞類と不定冠詞類 2
- 第20回 【コミュニケーション】 10. Herkunft 2 出身 2
- 第21回 【文法】 11. 定冠詞類と不定冠詞類 3
- 第22回 【コミュニケーション】 11. Herkunft 3 出身 3
- 第23回 【文法】 12. 人称代名詞 1
- 第24回 【コミュニケーション】 12. Im Deutschkurs 1 ドイツ語の教室で 1
- 第25回 【文法】 13. 人称代名詞 2
- 第26回 【コミュニケーション】 13. Im Deutschkurs 2 ドイツ語の教室で 2
- 第27回 【文法】 14. 人称代名詞 3
- 第28回 【コミュニケーション】 14. Im Deutschkurs 3 ドイツ語の教室で 3

定期試験

テキスト

【コミュニケーション】

書名：Erste Schritte plus neu (エアステ・シュリッテ・プルス・ノイ)

出版社：Hueber

ISBN：978-3-19-371911-9

参考URL：<https://shop.hueber.de/de/erste-schritte-plus-neu-einstiegskurs-978-3-19-371911-9.html>

定価：14,50 € (輸入元の設定により、日本円での価格は変動します。)

【文法】

書名：プロムナード やさしいドイツ語文法 [三訂版]

出版社：白水社

ISBN：9784560064399

参考URL：<https://www.hakusuisha.co.jp/book/b634452.html>

定価：2,640円 (本体2,400円+税)

※初回授業に2冊とも持ってくるようにしてください。

参考書・参考資料等

<独和辞典>

新キャンパス独和辞典／在間進著／郁文堂 /3,300円（本体 3,000円 + 税） / <https://www.ikubundo.com/book/9784261073065/>

アポロン独和辞典／根本他著／4,620円（本体4,200円+税） / <https://www.dogakusha.co.jp/1dokuwajiten.html>

アクセス独和辞典／在間他著／4,620円（本体 4,200円+税） / <https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384060003/>

クラウン独和辞典／新田他著／定価 4,620 円(本体4200+税) / <https://www.sanseido-publ.co.jp/np/detail/12011/>

※いずれか1冊を入手して、毎回授業時に持ってきてください。それ以外の辞書については一度授業に持ってきて、先生に見てもらってください。

学生に対する評価

定期試験・0%・なし

小論文・レポート・0%・なし

授業参加・30%・授業活動への参加度

その他 70%・課題提出、授業時間内の筆記テスト・口頭テスト・聞き取りテストなど

授業科目名： 中国語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安本真弓、張国璐、石黒ひさ子、和田和子、塚越千史、小路口ゆみ、陸偉栄、佐和田成美 担当形態：クラス分け・オムニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：中国語の初歩（基礎）</p> <p>授業の到達目標：中国語を初めて学ぶため、まず「ピンイン」という、一つ一つの漢字の中国語読みをわかるのに必要不可欠な発音表記法をマスターし、次に基本的な文法項目や、簡単な日常会話などが身に付き、さらに多様な練習を積み重ねて自分の話したい短い中国語文が言えることを目指す。</p>			
<p>授業の概要：最初は中国語の発音表記法を中心に、正しい発音ができるように指導する。そして、単語の発音を繰り返して練習する、ごく基本的な文型や表現に関する文法事項を説明する、実用的な会話と言えるよう作文するなど授業を進める。さらに、授業では、担当教員自身のさまざまな中国にまつわる体験談や、視聴覚教材などを活用して中国の文化や中国人の生活習慣、ものの見方なども随時紹介する。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回： ガイダンス 発音編1（声調と母音）</p> <p>第2回： 発音編2（子音と鼻母音）</p> <p>第3回： 発音編3（軽声と声調変化）</p> <p>第4回： 発音復習と第4課（基本の数など）</p> <p>第5回： 第5課 本文と文法のポイント（代名詞 「～は…である」など）</p> <p>第6回： 第5課 本文と文法のポイント（疑問詞疑問文など） 練習問題</p> <p>第7回： 第6課 本文と文法のポイント（省略疑問文 副詞の文中位置）</p> <p>第8回： 第6課 本文と文法のポイント（疑問文など） 練習問題</p> <p>第9回： 視聴覚教材を活用 応用練習その1</p> <p>第10回： 第7課 本文と文法のポイント（場所を表す代名詞など）</p>			

- 第11回： 第7課 本文と文法のポイント（選択疑問文など） 練習問題
- 第12回： 第8課 本文と文法のポイント（反復疑問文など）
- 第13回： 第8課 本文と文法のポイント（名詞述語文など） 練習問題
- 第14回： 課題またはテスト
- 第15回： 総合復習（今まで学習した内容の復習）
- 第16回： 第9課 本文と文法のポイント（介詞 時刻と文中での位置）
- 第17回： 第9課 本文と文法のポイント（時間の長さ 連動文） 練習問題
- 第18回： 第10課 本文と文法のポイント（介詞“在” 二重目的語 数量補語）
- 第19回： 第10課 本文と文法のポイント（所在と存在を表す表現など） 練習問題
- 第20回： 第11課 本文と文法のポイント（動作の完了 結果補語など）
- 第21回： 第11課 本文と文法のポイント（進行を表す表現など） 練習問題
- 第22回： 視聴覚教材を活用 その2
- 第23回： 第12課 本文と文法のポイント（方位詞 持続を表す助詞など）
- 第24回： 第12課 本文と文法のポイント（文末で変化を表す “的”） 練習問題
- 第25回： 第13課 本文と文法のポイント（介詞“把” 方向補語など）
- 第26回： 第13課 本文と文法のポイント（使役表現 可能補語） 練習問題
- 第27回： 第14課 本文と文法のポイントなど
- 第28回： 課題またはテスト

テキスト：

奥村佳代子・塩山正純・張軼欧著 『初級中国語会話編～自分のことばで話す中国語～』 KINSEIDO

参考書・参考資料等

必要時に応じて指示する

学生に対する評価

(1) 授業活動への参加度 30%

(2) 課題提出、授業時間内の筆記テスト、口頭テスト、聞き取りテストなど 70%

上記2点を総合的に判断して評価する

授業科目名： 朝鮮・韓国語 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金秀美、家永祐子、魏聖銓 、柳慧政、金順任、辛大基 、朴惠美 担当形態：クラス分け・オム ニバス
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び 高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：朝鮮・韓国語入門</p> <p>到達目標：朝鮮・韓国語を初めて学ぶ学生が、朝鮮・韓国語の基礎固めを行うことを目的とする。初級朝鮮・韓国語学習の要であるハングル（文字）および発音を身につけるとともに、ごく基本的な文法や表現に関する知識を得て、実際に運用できるようになることを目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>週2回、授業が行われる。「文法」を扱う授業、および、「コミュニケーション」を扱う授業が週1回ずつ行われる。「文法」を扱う授業では、文法の基礎的な事項を中心に学習する。「コミュニケーション」を扱う授業では、主にコミュニケーションで用いられる基本的な表現を中心に学習する。どちらの授業でも、視聴覚教材などを用いて、朝鮮半島の文化や社会についての理解も深める。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：ガイダンス、イントロダクション―「朝鮮・韓国語」とはどんな言語か―（1）</p> <p>第2回：ガイダンス、イントロダクション―「朝鮮・韓国語」とはどんな言語か―（2）</p> <p>第3回：第1課 文字と発音（1）単母音、初声・その1（鼻音・流音）</p> <p>第4回：第1課 文字と発音（1）半母音 [j]+単母音、終声・その1</p> <p>第5回：第2課 文字と発音（2）初声・その2（平音）、発音の規則：有声音化</p> <p>第6回：第2課 文字と発音（2）半母音 [w]+単母音、二重母音 ㅟ、発音の規則：連音化</p> <p>第7回：第3課 文字と発音（3）初声・その3（激音）、初声・その4（濃音）</p> <p>第8回：第3課 文字と発音（3）終声・その2、発音の規則：濃音化</p> <p>第9回：文字と発音の復習（1）</p> <p>第10回：文字と発音の復習（2）</p> <p>第11回：第4課 韓国人です。《文法の解説》</p> <p>第12回：第4課 韓国人です。《会話の解説、基礎練習》</p> <p>第13回：第4課 韓国人です。《文法の確認問題》</p>			

第14回：第4課 韓国人です。《会話の実践練習》、まとめ4
 第15回：第5課 韓国語は専攻ではありません。《文法の解説》
 第16回：第5課 韓国語は専攻ではありません。《会話の解説、基礎練習》
 第17回：第5課 韓国語は専攻ではありません。《文法の確認問題》
 第18回：第5課 韓国語は専攻ではありません。《会話の実践練習》
 第19回：第5課までの復習（1）《文法》、文化体験等
 第20回：第5課までの復習（2）《会話》、文化体験等
 第21回：第6課 教室は階段の横にあります。《文法の解説》
 第22回：第6課 教室は階段の横にあります。《会話の解説、基礎練習》
 第23回：第6課 教室は階段の横にあります。《文法の確認問題》
 第24回：第6課 教室は階段の横にあります。《会話の実践練習》まとめ5、6
 第25回：第7課 午後、時間大丈夫ですか。《文法の解説》
 第26回：第7課 午後、時間大丈夫ですか。《会話の解説、基礎練習》
 第27回：春学期の復習（1）《文法》、文化体験等
 第28回：春学期の復習（2）《会話》、文化体験等
 定期試験は実施しない。

テキスト

李潤玉 / 酒勾康裕 / 須賀井義教 / 睦宗均 / 山田恭子（2024）『四訂版・韓国語の世界へ 入門編』朝日出版社，ISBN：978-4-255-55710-6

参考書・参考資料等

「韓国語の世界へ」ワールド

(<https://text.asahipress.com/text-web/korean/sekainyumon4/index.html>)

その他、適宜紹介します。

学生に対する評価

授業参加：30%（授業活動への参加度）

その他：70%（課題提出、授業時間内の筆記テスト・口頭テスト・聞き取りテストなど）

授業科目名： データサイエンス基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山澤成康 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>データサイエンスの知識やスキルを学び、デジタル社会の素養を身に着ける。 社会で活用されているデータAI活用の事例について説明できるようになる。 データの扱い方について理解し、説明できるようになる。 データ・AIを扱う腕での留意事項を説明できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>社会におけるデータ・AI活用（導入）、データリテラシー（基礎）、データ・AI利活用における留意事項（心得）について、概観する。 毎回小テストを課すことで理解力を測る。質問は随時受け付けるが、わかりやすい動画、チャットボットなどのAIを利用して、理解度を上げる。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：社会で起きている変化 （データリテラシー）データリテラシーとは</p> <p>第2回：社会で活用されているデータ（政府統計） （データリテラシー）データを説明する</p> <p>第3回：社会で活用されているデータ（構造化データと非構造化データ） （データリテラシー）データを扱う</p> <p>第4回：データとAIの活用領域（事業への応用） （データリテラシー）ヒストグラムと代表値</p> <p>第5回：データとAI利活用のための技術（データ解析） （データリテラシー）散布図と相関係数</p> <p>第6回：データとAI利活用のための技術（自然言語処理） （データリテラシー）確率分布</p> <p>第7回：データとAI利活用のための技術（画像処理） （データリテラシー）推定</p> <p>第8回：データとAI利活用のための技術（音声処理） （データリテラシー）検定</p> <p>第9回：データとAI利活用のための技術（データ可視化とパターン分析）</p>			

<p>(データリテラシー) 回帰分析</p> <p>第10回：データとAI利活用のための技術（人口知能） (データリテラシー) 回帰分析：式の工夫</p> <p>第11回：データAI活用の現場（ビジネス） (データリテラシー) 回帰分析：変数の工夫</p> <p>第12回：データ・AI活用の最新動向 (データリテラシー) 時系列分析</p> <p>第13回：データAIを扱ううえでの留意事項 (データリテラシー) 機械学習</p> <p>第14回：データを守るうえでの留意事項 (データリテラシー) 因果推論</p>
<p>テキスト</p> <p>山澤成康『回帰分析から学ぶ計量経済学』オーム社</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>北川源四郎、竹村彰通編『教養としてのデータサイエンス』講談社</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回行う確認テストと最終テストで評価する。</p>

授業科目名： 情報リテラシー基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 川端正弘、北久保茂、倉橋節也、小久保秀之、福澤保裕、柴田徹、近藤佐保子、高瀬浩史、松田洋、黒田涼 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>パーソナルコンピュータの基本的な使用方法や、インターネットを安全に利用するための技術や知識を身につけ、資料や文献を検索し活用する能力を養う。また、レポートの作成を円滑に行えるように、文書作成アプリケーションの操作方法を学ぶ。さらに、訓練によりブラインドタッチを身につける。これらにより、大学において学んでゆくうえでの基礎的な情報リテラシーの獲得を目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>Microsoft Windowsを用いて、メールやウェブ、オフィスソフトなどの基本的な操作方法について練習問題を用いた実践的な訓練を行う。また、ブラインドタッチを身につけるため、一定の基準をクリアすることを成績評価に加える。さらに、情報倫理や、情報セキュリティについて、グループワークを通して議論する中で確かな知識を身につける。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回： 授業の進め方についての説明、Nドライブの説明、「Atomi Information Portal」の利用方法、シラバスの閲覧、タイピングの基本、ウインドウの操作（移動、サイズの変更、最大化、最小化など）、ファイルの種類と拡張子、フォルダの階層構造についての理解、ファイルの操作（フォルダーの作成、ファイルの移動、削除、名前の変更、ショートカットの作成）、ファイルの検索</p> <p>第2回： Microsoft PowerPointの基礎、DEEP Mailを用いたメールの操作、電子メールのマナー（適切な件名をつける、署名をつける、本文には必ず挨拶文や用件を明記する等）、パスワードの変更、メールの送受信、ファイルの添付、同報（Cc：、Bcc：）、各種設定</p> <p>第3回： ブラウザを用いたWebサイトの閲覧（URLの指定、検索、ファイル、画像のダウンロード、セキュリティの設定）、インターネット上での資料や文献の検索方法、図書館OPACシステムの使用法、書誌情報の検索、就職活動関連Webサイトの閲覧、タイピング</p>			

第4回：

情報倫理（1）情報セキュリティについての基礎知識（ウイルス、スパイウェア対策、迷惑メール、ネット上の詐欺、不正侵入対策、加害防止、暗号化など）、タイピング

第5回：

Word(1)基本的な使用方法（画面の各部分の説明、文書の新規作成、文字列の移動・コピー・貼り付け、元に戻す操作、リボンやタブの使用方法、書式設定、書式のコピーと貼り付け、スタイルやテーマの利用、ファイルの保存、日付の入力）

第6回：

Word(2)ページ設定と印刷（改ページ、ページ設定、ヘッダーとフッターの編集、日付やページ番号の挿入、印刷プレビュー、印刷設定）、箇条書き、段落番号、段落の設定（インデント、字下げ、行間・段落間の設定、罫線）、タブの設定

第7回：

Word(3)描画オブジェクトの利用（図形描画ツールバー、ワードアート、クリップアート、オートシェイプ、テキストボックス、画像ファイルの挿入、図形の調整、順序、グループ化など）

第8回：

Word(4)段組の設定（2段組、段区切り）、改ページ、セクション区切り、見出しの設定、脚注機能、図表番号、目次の生成、索引、表示モード

第9回：

Word(5)罫線の使い方（表の挿入、行や列の挿入と削除、セルの大きさの設定、罫線の種類、網掛け、配置）

第10回：

Word(6)文書のスタイル、背景の設定、表紙の挿入、作品の登録と挿入、ブックマーク/ハイパーリンク、文書のプロパティ

第11回：

情報倫理（2）インターネット上の情報を批判的に読み、理解する（情報を読み解くうえで留意すべき事柄の理解、具体的な訓練、読み解いた内容のまとめ）

第12回：

情報倫理（3）情報発信の留意点を学ぶ 前編（インターネットの仕組み、ネット炎上、個人情報の重要性などについて、グループワークを行う）

第13回：

情報倫理（4）情報発信の留意点を学ぶ 後編（知的財産権、情報発信において留意すべきこと、などについてグループワークを行う）

第14回：

画像処理ソフトウェア（ペイント、Photoshop Elements、irfanView等）の操作方法

定期試験

テキスト

参考書・参考資料等

『イチからしっかり学ぶ！Office基礎と情報モラル』（noa出版）

学生に対する評価

定期試験（50％）、小論文・レポート（30％）、授業参加（20％）

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木芳明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標：(1)授業のテーマ＝教育の意義・目的・内容・方法・歴史等について学び理解を深める。(2)到達目標＝①教育の意義、目的、内容など教育の基本的概念を理解し説明することができる。②教育の思想や理念、教育史など教育学の基礎的な内容について理解し説明することができる。③近・現代の教育制度について理解し説明することができる。④教育の方法と現代の教育課題、教育改革等について理解し説明することができる。			
授業の概要：教育についての基礎的な理念や概念を学ぶ。教育の思想や歴史を学び、近・現代の教育制度など教育学の基礎的な内容を身につける。現代の教育的課題とどのような関連性があるかについて主体的に探究し、対話や議論を通して考察を深めて行く。			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：オリエンテーション。教育の目的と意義。教育の語義。学校教育の目的。</p> <p>第2回：諸外国の教育史：教育の始まり、古代国家の教育制度、中世の教育</p> <p>第3回：ヨーロッパの教育史1：ルネサンス期から産業革命まで</p> <p>第4回：ヨーロッパの教育史2：近代以降</p> <p>第5回：諸外国の教育思想史1：コメニウス、ロック</p> <p>第6回：諸外国の教育思想史2：ルソー、コンドルセ、ペスタロッチ</p> <p>第7回：諸外国の教育思想史3：オーベルリーン、オーウェン、フレーベル</p> <p>第8回：諸外国の教育思想史4：ヘルバルト、モンテッソーリ</p> <p>第9回：諸外国の教育思想史5：エレン・ケイ、デューイ</p> <p>第10回：日本の教育史1：古代社会、中世社会、近世社会</p> <p>第11回：日本の教育史2：明治期、大正期、昭和前期</p> <p>第12回：日本の教育史3：戦後教育の再建、教育の質の改善、令和の日本型学校教育</p> <p>第13回：教育の内容：教育課程、学習指導要領、教育の制度（公教育、教育行政、今後の課題）</p> <p>第14回：教育の方法と教育指導の原理：古代から近現代までの教育方法。教育指導の原理。</p> <p>定期試験：実施しない</p>			
テキスト：『教育原理』汐見稔幸（監修，編集），奈須正裕（監修），木村 元（編集）2020年			
参考書・参考資料等：国立教育政策研究所『我が国の学校教育制度の歴史について』 文部科学省ホームページ「学制百年史」			
学生に対する評価：毎回講義後にテーマに基づき討論をして、その結果を課題として提出。毎回その課題にコメントと評価をつけてフィードバックし、14回分の合計で最終的な評価を出す。			

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大高皇 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現在の我が国の学校教育や教職の社会的意義とその重要性の高まりを理解するとともに、教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解することができる。また、教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解すると共に、学校の担う役割の拡大・多様化と、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性（チーム学校運営）について理解することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育を支える立場にある教職について、教職の意義や役割、教員の身分や服務、教師に求められる資質等についての基礎的な内容を、具体例を取り上げながら理解を深め、教育の現代的課題について、対話や議論を通して検討しながら問題意識を高めていく。また、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：オリエンテーション：教職という仕事とその魅力</p> <p>第2回：教職の意義① 今日の学校教育と公教育の目的</p> <p>第3回：教職の意義② 教職の社会的意義</p> <p>第4回：教職の意義③ 教職の職業的特徴</p> <p>第5回：教員の役割① フィクションにみる教職観の変遷</p> <p>第6回：教員の役割② 調査にみる教職観の変遷</p> <p>第7回：教員の役割③ 教員に求められる基礎的な資質と能力</p> <p>第8回：教員の職務内容① 教員の職務の全体像</p> <p>第9回：教員の職務内容② 教員研修の意義と位置づけ</p> <p>第10回：教員の職務内容③ 教員の服務・身分上の義務と身分保障</p> <p>第11回：チーム学校への対応① 学校の担う役割の拡大・多様化</p> <p>第12回：チーム学校への対応② 校内の教職員との連携</p> <p>第13回：チーム学校への対応③ 学校外の専門家等との連携</p> <p>第14回：総括</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

秋田喜代美・佐藤学（編著）『新しい時代の教職入門〔第3版〕』（有斐閣、2024年）

参考書・参考資料等

文部科学省『中学校学習指導要領』、文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』

学生に対する評価

受講態度20%、提出物20%、試験60%の割合で評価する。授業態度は回収したファイルの他、私語・姿勢・発言などでも評価を行う。

授業科目名： 教育制度及び教育法規	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木廣志 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標：(1) 授業のテーマ=教育制度及び教育法規の基礎的理解と教育改革の動向の把握 (2) 到達目標=①わが国の教育制度及び教育法規の動向について理解し説明することができる ②学校教育及び社会教育において、どのように制度や法規が位置付けられているか、また課題は何かについて理解し説明することができる。③これからの時代の教育制度について、現状と課題をふまえて分析・考察し、自分の考えをまとめ説明することができる。			
授業の概要：(1) 学校における教育活動のサイクルを視野に、教育行政や教育制度、教育にかかわる法律を学ぶ。(2) 学校教育等で起こる事柄について、教育法規に基づき分析・考察し、事例研究をする。(3) 新聞記事を活用しながら「教育制度に関する課題」について考え議論する。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：オリエンテーション。教育制度の動向と教育法規の体系についての概要を理解する。 第2回：日本国憲法・教育基本法と学校教育、公教育の基本原理。「義務教育」制度について討議。 第3回：教育制度の変遷と学校教育（1945年まで、戦前の教育制度）。近代教育制度の成立。 第4回：教育制度の変遷と学校教育（1945年から現在）。教育制度の成立と教育改革の動向。 第5回：学習指導要領・指導要録。教育改革の動向と学習指導要領の変遷。 第6回：「教育制度及び教育法規について」（教育時事をテーマに）課題学習。グループワーク。 第7回：学校経営をめぐる法と制度。学校経営に関する法制度の基本的事項と学校組織改革の意義。 第8回：子どもをめぐる法と制度。学校と子どもの人権。子どもの権利に関する条約、制度。 第9回：教職員をめぐる法と制度。教員養成・免許制度、教員採用制度、研修制度。働き方改革。 第10回：判例から学ぶ「教育法規」（学校安全への対応を含む）【事例研究を中心に】 第11回：社会教育をめぐる法と制度。社会教育の権利保障の理念、現代的な課題。生涯学習。 第12回：教育行政をめぐる法と制度。「教育の地方自治」の原理。教育委員会・文部科学省の役割 第13回：教育財政、教育費をめぐる法と制度。教育財政の基本法則、課題等。教育の機会均等。 第14回：学校と家庭・地域の連携。家庭教育の現状と地域の多様な学び。 定期試験：実施しない			
テキスト：『新・教育の制度と経営』[四訂版]本図愛実・末富芳編著 学事出版2023年			
参考書・参考資料等：教育六法。中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編			
学生に対する評価：(1)教育制度に関する「課題レポート」（40%） (2)「課題シート」提出率及び内容、討議活動の参加状況（60%）			

授業科目名：教育心理学	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井口 武俊 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>幼児、児童生徒に対する教育活動を効果的に進める上で必要な心理学的知見の学修と心理学的技術の習得を目標とする。授業では教育心理学に関する以下の5点の達成を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解し説明できるようになる。 2) 青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解し解説できるようになる。 3) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し説明できるようになる。 4) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解し実践できるようになる。 5) 生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解し実践できるようになる。 			
<p>授業の概要</p> <p>生徒のさまざまな問題行動の背景には、発達の問題も関連した心理的要因が介在している。その発生メカニズムを理解し支援していく上で必要な基礎知識と技法を、学校心理学、主要なカウンセリング理論を通して習得する機会を提供するものである。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：イントロダクション 教育を支える心理学 テキスト第1章 教職課程における教育心理学の位置づけや、教育心理学の扱う内容や概要と歴史について理解する。</p> <p>第2回：発達とは テキスト第2章 教員が子どもたちの発達を理解する上で、人が生まれてから死に至るまでの変化を理解する。</p> <p>第3回：子どもたちの発達1-乳幼児期の発達過程- テキスト第3章 子どもたちの発達2-児童期の発達過程- テキスト第4章 見通しを持った適切な支援をするために、乳幼児期・児童期の発達過程に関する一般的な傾向を理解する。</p> <p>第4回：子どもたちの発達3-思春期・青年期の発達過程- テキスト第5章 見通しを持った適切な支援をするために、思春期・青年期の発達過程に関する一般的な傾向を理解する。</p>			

る。

第5回：発達的变化 テキスト第6章

面接授業

次の段階への移行がスムーズになるように、見通しをもった適切な支援をするために身体や心理、対人関係の形成の仕方など、人間の発達の変化について理解する。

第6回：性格 テキスト第7章

教育実践において個人特性に応じた適切な支援を可能にするために、子どもたちの個々の性格特性を理解する。

第7回：欲求 テキスト第8章

その人の行動を引き起こす欲求や動機のあり方を捉えるために、子どもたちの生活に関連する心理特性を理解する。

第8回：知能 テキスト第9章

見通しをもって、子どものタイプに合った教育を可能にするために、子どもの知能の発達に関する一般的な傾向を理解する。

第9回：学習とは テキスト第10章

期待される行動の変容をもたらす教育のあり方や支援の指針をもつことができるように、学習のメカニズムを理解する。

第10回：動機づけ テキスト第11章

期待される行動の変容をもたらす授業のあり方や支援の指針をもつことができるように、学習と動機づけとのメカニズムを理解する。

第11回：学習の方法・形態 テキスト第12章

教育効果の向上が期待できる、学習の目的にそった、さまざまな学習の方法・形態を理解する。

第12回：学級集団づくり テキスト第13章

子どもたちの学習の成果も左右する、建設的で相互作用が活性化するような状態の学級集団づくりを理解する。

第13回：学習評価 テキスト第14章

子どもの実態に関する調査や各種データなどにもとづき、子どもたちの主体的学習を支える学習評価のあり方について考えていく。

第14回：教員の指導行動 テキスト第15章

子どもたちの資質・能力を獲得していくために必要な、主体的学習を促す、教員の指導行動のあり方について考えていく。

最終レポート

テキスト

教育心理学の理論と実際／河村茂雄・武蔵由佳(編著)／図書文化／2019

ISBN 978-4-8100-9722-1

参考書・参考資料等 中学校学習指導要領解説総則編 高等学校学習指導要領解説総則編
やさしい教育心理学 第5版／鎌原雅彦・竹網誠一郎(著)／有斐閣アルマ／2019年
よくわかる教育心理学／中澤潤(編著)／ミネルヴァ書房／2008年

学生に対する評価

定期試験 0% 実施しない

小論文・レポート 60% 最終授業にレポートを課し、その内容を評価する

授業参加 40% 積極的(能動的)な講義への参加と予習状況、ディスカッション時の態度、各授業後に課す感想レポートにて評価

授業科目名： 特別支援を必要とする 生徒理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小島道生 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標：(1) 授業のテーマ=特別支援を必要とする生徒理解 (2) 到達目標=特別支援を必要とする生徒の特性についてそれぞれの障害特性などを踏まえて理解し説明することができる。また、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援、特別支援を必要とする生徒への支援システムや連携の在り方、「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容などについて理解し説明することができる。</p>			
<p>授業の概要：(1) 特別支援教育の制度や理念、発達障害、知的障害、視覚障害など様々な障害の理解と支援。(2) 特別支援教育コーディネーターや関係諸機関との連携の在り方、特別な教育的ニーズのある幼児、児童の学習と生活の支援。(3) 教員の専門性、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な支援方法等について学ぶ。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：特別支援教育の理念と制度</p> <p>第2回：インクルーシブ教育と特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒</p> <p>第3回：特別支援教育の歴史と教育課程。「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を含む。</p> <p>第4回：障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援</p> <p>第5回：視覚障害の理解と支援</p> <p>第6回：聴覚障害の理解と支援</p> <p>第7回：知的障害の理解と支援</p> <p>第8回：肢体不自由の理解と支援</p> <p>第9回：病弱・身体虚弱の理解と支援</p> <p>第10回：自閉症・情緒障害の理解と支援</p> <p>第11回：言語障害の理解と支援</p> <p>第12回：学習障害の理解と支援</p> <p>第13回：ADHDの理解と支援</p> <p>第14回：教育と福祉・医療・労働との連携</p> <p>定期試験：実施しない</p>			
<p>テキスト：『はじめて学ぶ教職 特別支援教育-共生社会の実現に向けて-』吉田武男（監修）小林秀之ら（編著）ミネルヴァ書房 2018年</p>			

参考書・参考資料等：特別支援学校学習指導要領等（平成29年4月公示・平成31年2月公示）

学生に対する評価：(1)授業中の課題(45%) (2) 授業への積極的・協力的な参加態度(15%)
(3)最終レポート課題(40%)

授業科目名：教育課程 論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：金 瑠淑 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>テーマ：教育内容の仕組みへの理解を深める</p> <p>到達目標：教育課程はどこで決定されるのか。教育課程を編成し実施する際に、学習指導要領はどんな役割を果たしているのか。日本の近年の教育改革である「総合的学習の時間」、「カリキュラム・マネジメント」などの特色あるカリキュラム開発について考える。</p>			
授業の概要			
<p>学校の教育活動全般を規定している教育課程に関する基本概念の理解をふまえて、授業づくりの基礎を学び、戦後の教育課程について理解を深めることを目的とする。</p> <p>学習成果は以下の3つである。</p> <p>① 教育課程の基本概念を明確に説明することができる。</p> <p>② 戦後の学習指導要領の改訂を時代の変化と照らし合わせて説明することができる。</p> <p>③ 現在の日本の小学校・中学校・高等学校の教育課程の編成について説明することができる</p>			
<p>授業の方法と開講方法：①授業は対面授業で実施する。②毎時間4人グループで、アクティブラーニングを重視して授業を行う。③映像など視聴覚教材を積極的に活用し、内容理解を深める。④学習規律の定着を試みる。レポートのフィードバックは授業中に行い、授業内容の理解を深める。</p>			
授業計画（授業時間：1回100分）			
<p>第1回：ガイダンス 授業の目的、内容、進め方を知る。グループを決める。</p> <p>第2回：基本用語の関係 教育課程、カリキュラムの概念について学ぶ。</p> <p>第3回：教育課程と学習指導要領 教育課程と学習指導要領の関係について学ぶ。</p> <p>第4回：教育課程行政と編成 教育課程と関わる行政について学ぶ。</p> <p>第5回：教育課程の類型 教育課程の類型について学ぶ。</p> <p>第6回：アメリカのカリキュラム改革と動向 アメリカのカリキュラム改革について学ぶ。</p>			

第7回：学習指導要領の変遷①

戦後から1970年代までの教育改革に関するビデオを見て、グループごとに話し合い、まとめて発表する。

第8回：学習指導要領の変遷②

1980年代から2000年代までの教育改革に関するビデオを見て、グループごとに話し合い、まとめて発表する。

第9回：学習指導要領の変遷③

戦後の学習指導要領の改訂について学ぶ。

第10回：学習指導要領の変遷④

戦後の学習指導要領の改訂について学ぶ。

第11回：新学習指導要領と学力観

新学習指導要領の特徴および日本の学力の現状について学ぶ。

第12回：今日的課題への挑戦

今日直面する課題に対して、教育課程はどのように答えたらいいのか。理論と具体的実践から理解する。

第13回：カリキュラム・マネジメント

学習指導要領に規定されているカリキュラム・マネジメントについて学び、カリキュラム・マネジメントの進め方について理解する。

第14回：学習の総括

日本の教育の今後と課題を考察し、教育課程の理解を深める。

定期試験

テキスト

『改訂版 教育内容・方法』 根津朋実 編著 培風館 2024年 対面授業で実施する。

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領解説』（オンラインで閲覧可能） 文部科学省

学生に対する評価

レポート、試験、ビデオの感想などによる総合評価。出席の取り扱いは大学に規定に従う。
評価方法と採点基準：定期試験期間中の期末試験(70%)、レポート(20%)発表による小テスト(10%)

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：北村博 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標：(1) 授業のテーマ=道徳教育の基礎理論を学び、学校における道徳教育の目標と内容、生徒の道徳性を育成するための指導計画作成や道徳科の指導法等を身に付ける。(2) 到達目標=①道徳教育の基礎となる概念、理論、歴史について理解し説明することができる。②中学校の教育課程における道徳の位置づけと道徳教育の目標・内容を理解し説明することができる。③道徳教育の指導計画や指導内容、指導方法に関する基礎事項を理解し学習指導案を作成することができる。			
授業の概要：(1)道徳とは何か、学校で教育することの意味、日本における道徳教育の歴史等について、講義や演習を通して具体的に学ぶ。(2)現在道徳教育はどのように展開され、どのように指導されるべきかという視点から「特別の教科 道徳」の背景や内容を調べ、協議を通して、その指導の重要性を理解するとともに、道徳教育全体の在り方について探究する。			
授業計画（授業時間：1回100分）			
第1回：オリエンテーション。道徳教育とは何か(1)自分を振り返り生活を見直し道徳教育を考える			
第2回：道徳教育とは何か(2)「心」という言葉を通して、社会からみた道徳教育について考察する。			
第3回：心の発達と道徳教育。道徳性の発達。ピアジェ、コールバーグの心理学研究から考察する。			
第4回：諸外国の道徳教育。西洋や東洋における道徳教育の考え方や制度について比較し考察する。			
第5回：日本の道徳教育の歴史。近代日本の学校制度が始まってからの道徳教育の変遷を考察する。			
第6回：学習指導要領からみた道徳教育。学習指導要領の歴史の変遷。「特別の教科 道徳」への考察			
第7回：教科等の目標と道徳教育。道徳教育の教科等での展開に対して考察し協議する。			
第8回：特別活動と道徳教育の関わり。特別活動における道徳教育について考察し協議する。			
第9回：教育相談からみた道徳教育。生徒指導や教育相談からの道徳教育を考察、協議し実践する。			
第10回：道徳授業の実際(1)道徳の授業の様々な方法。伝統的アプローチの具体的な展開例の検討。			
第11回：道徳授業の実際(2)価値の教え込みでない道徳授業。モラルジレンマ等具体的展開例の検討			
第12回：道徳授業の展開(1)中学校「特別の教科 道徳」の学習指導案を作成する。模擬授業。			
第13回：道徳授業の展開(2)中学校の道徳科学習指導案を基に模擬授業。評価。グループ協議。			
第14回：これからの道徳教育の展望と課題。模擬授業の振り返り。「学修課題解決論文」作成。			
定期試験：実施しない			
テキスト：中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」平成27年7月 文部科学省			
参考書・参考資料等：「道徳教育アーカイブ～「特別の教科 道徳」の全面実施～」文部科学省HP			
学生に対する評価：(1)「シェアカード」12回分(60%) (2)「学修課題解決論文」(10%) (3)「各回の振り返りシート」2回分(10%) (4)学習指導案作成、模擬授業(20%)			

授業科目名： 特別活動の指導法及び総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木廣志 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習（探求）の時間の指導法 ・特別活動の指導法 		
授業のテーマ及び到達目標：(1) 授業のテーマ=特別活動と総合的な学習の教育的意義と指導方法についての理解を深める。(2) 到達目標=①学習指導要領における「総合的な学習の時間」「特別活動」の意義・目的・内容を理解し説明することができる。②「総合的な学習の時間」「特別活動」の指導の在り方を理解し説明することができる。③「総合的な学習の時間」「特別活動」の指導計画の作成及び指導と評価の考え方、実践上の留意点を理解し説明することができる。			
授業の概要：第8回～第14回は、「総合的な学習の時間」の意義・目標・内容に関する知識・技能に関して学ぶとともに、探究的な学びのイメージを具現化し、教師に求められる指導の在り方や評価について、アクティブ・ラーニングを視野に入れた学修を行う。			
授業計画（授業時間：1回100分）			
第1回：【特別活動・総合的な学習の時間 オリエンテーション】特別活動の目標及び主な内容			
第2回：【特別活動】教育課程における特別活動の位置付け、各教科等との関連。			
第3回：【特別活動】学級活動・ホームルーム活動の特質と実践。			
第4回：【特別活動】生徒会活動、学校行事の特質と実践。			
第5回：【特別活動】教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方。			
第6回：【特別活動】特別活動における取り組みの評価と活動の改善。			
第7回：【特別活動】話し合い活動、集団活動の意義、家庭や地域及び関係諸機関との連携等の在り方			
第8回：【総合的な学習の時間】意義、目標、教育課程において果たす役割、年間指導計画の作成。			
第9回：【総合的な学習の時間】探究的な見方・考え方を促す総合的な学習の時間の指導法。			
第10回：【総合的な学習の時間】総合的な学習の時間の単元計画の作成方法、評価と留意点。			
第11回：【総合的な学習の時間】主体的・対話的で深い学びを促す総合的な学習の時間の指導法。			
第12回：【総合的な学習の時間】協働的な学習活動を促す総合的な学習（探求）の時間の指導法。			
第13回：【総合的な学習の時間】自己の生き方を考える総合的な学習（探求）の時間の指導法。			
第14回：【総合的な学習の時間】授業のまとめ。「総合的な学習の時間」の指導法を考える。			
定期試験：実施しない			
テキスト：『特別活動の理論と実践』（神岡 学・林 尚示編）ミネルヴァ書房 「総合的な学習の時間の指導法」（村川 雅弘他編）日本文教出版 2021年			
参考書・参考資料等：「中学校 学習指導要領解説 特別活動編」（平成29年7月） 「高等学校 学習指導要領解説 特別活動編」（平成30年7月）			

「中学校 学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」(平成29年7月)

「高等学校 学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」(平成30年7月)

学生に対する評価：(1)「課題レポート」(40%) (2)「課題・リアクションシート」(60%)

授業科目名：教育の方法及び技術	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 横田 恭三
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ： 豊かな個性を育む主体的・対話的な教育の実践的方法と技術</p> <p>到達目標：</p> <p>教育方法についての基礎的な知識を学習し、教育技術の基礎を養うことを目標とする。</p> <p>(1) 教育方法の基本原理について説明できる。</p> <p>(2) 板書、発問等の授業における基礎的な指導技術を身に付けることができる。</p> <p>(3) 集団づくりの意義と方法について説明できる。</p> <p>(4) 情報機器の効果的な活用の仕方を身に付けることができる。</p> <p>(5) 学習評価の基礎的な考え方について説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業づくりに関わる知識・技能を習得し、実践現場に生かせるような効果的な教育方法について考察していく。アクティブラーニング方式を取り入れ、主体的・対話的な展開を構築する。</p>			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：ガイダンス ー授業の運営方法、評価方法、履修にあたっての心構え</p> <p>第2回：学校教育とは ー教育の歴史、教育方法に関する諸概念</p> <p>第3回：求められる教育方法とその技術 ー新学習指導要領で求められる教育方法</p> <p>第4回：資質・能力を育む教育と学習科学 ー深い学びを支える学習理論と授業の原則</p> <p>第5回：授業の効果と魅力を高めるために ーインストラクショナルデザインについて</p> <p>第6回：学習環境をデザインする ー学びを活性化するために</p> <p>第7回：学びを深める授業研究 ー授業研究の方法論と学校における授業研究</p> <p>第8回：アートとしての教育技術 ー教師の教育観と教育技術</p> <p>第9回：知識の理解と定着を図る授業作り ー理解を深める教育方法</p> <p>第10回：主体性を引き出す授業方法とは ー学習者主体の教育、知的好奇心を引き出す授業</p> <p>第11回：対話的な学びとは ー協調自律的な学習とその設計およびパフォーマンス評価</p> <p>第12回：ICTを活用した授業作り（1） ー発表会（A班。制作したものを各自発表）</p> <p>第13回：ICTを活用した授業作り（2） ー発表会（B班。制作したものを各自発表）</p> <p>第14回：教職における現代の課題 ー教師のバーンアウトと外国人生徒の現状と課題</p> <p>定期試験 実施しない</p>			

テキスト 篠原正典/荒木寿友『教育の方法と技術』（ミネルヴァ書房）

中学校学習指導要領解説総則編 高等学校学習指導要領解説総則編

参考書・参考資料等 田中耕治『よくわかる授業論』（ミネルヴァ書房）

学生に対する評価

小論文・レポート＝40%（最終レポート） 授業参加＝20%（授業内での積極的な取り組みとその姿勢） 確認ペーパーおよびICT教材作り＝40%

授業科目名： 教育とICT活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：大高皇、二宮 裕之 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標：(1) 授業のテーマ=ICTを活用した教育の理論及び方法 (2) 到達目標=情報通信技術を効果的に活用した学習指導や学校経営・学級経営について理解すると共に、生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導について理解し実践して説明することができる。			
授業の概要：(1) 学習指導におけるICT活用と学校・学級のマネジメントにおけるICT活用を具体的に理解する共に、生徒の情報活用能力や情報モラルの育成について理解し、グループ協議を行う。(2) コンピュータ・タブレットなどを各自で操作しながら、授業を進める。			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：オリエンテーション。ICT全般について考察する。</p> <p>第2回：教育におけるコンピュータ利用とGIGAスクール構想：情報通信技術の活用の意義と理論(1)</p> <p>第3回：コンピュータ・タブレットを使ってできること：情報通信技術の活用の意義と理論(2)</p> <p>第4回：コンピュータ・タブレットを活用した学校・学級のマネジメント：情報通信技術を効果的に活用した校務の推進</p> <p>第5回：コンピュータ・タブレットを活用した学習指導：情報通信技術を効果的に活用した学習指導の推進</p> <p>第6回：インターネットを活用した学校・学級のマネジメント：情報モラル・情報活用能力を生徒に育成する指導(1)</p> <p>第7回：インターネットを活用する学習指導：情報モラル・情報活用能力を生徒に育成する指導(2)</p> <p>定期試験：実施しない</p>			
テキスト：授業毎に適宜準備する。インターネット上の情報を多用する。			
参考書・参考資料等：『タブレットで変わる授業デザイン』西尾環著 小学館 2021年			
学生に対する評価：(1) 授業の最終レポート(50%) (2) 毎回の授業の振り返りレポート(50%)			

授業科目名： 生徒指導及び進路指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：東 宏行 担当形態：単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
授業のテーマ及び到達目標：(1) 授業のテーマ=生徒指導及び進路指導・キャリア教育の教育的意義と指導法・理念について理解を深める。(2) 到達目標=生徒指導や進路指導に関わる基礎理論を学ぶと共に、教師の立場で実践できる資質・能力を身に付ける。①生徒指導や進路指導の意義、理論、個別課題に向き合う指導方法等を理解し説明することができる。②学校組織や教員の役割、学級・学年・学校における生徒指導や進路指導の進め方を理解し説明発表することができる。③学校（学級）経営や各教科等の領域と教育課程との関連、外部の専門家、関係機関等との連携、「チーム学校」や現代の教育課題等に応じた生徒指導、進路指導について理解し協議することができる。			
授業の概要：第1回～第7回は「生徒指導」の意義や原理、指導方法を理解する。「生徒指導」を総合的、実践的に捉え、個別課題に向き合う指導方法を理解し実践できるようにグループ協議を行う。			
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：【生徒指導・進路指導】オリエンテーション。生徒指導・進路指導をめぐる諸概念の整理。</p> <p>第2回：【生徒指導】生徒指導の理論1（「生徒指導提要」の枠組みと内容）</p> <p>第3回：【生徒指導】生徒指導の理論2（個別の生徒指導、グループを対象とした生徒指導）</p> <p>第4回：【生徒指導】生徒指導の対象1（現代の児童生徒の現状と理解のための理論）</p> <p>第5回：【生徒指導】生徒指導の対象2（思春期や若者の心理を理解するための視点と理論）</p> <p>第6回：【生徒指導】現代の生徒指導上の諸問題（不登校、いじめ、暴力等の統計から分かる現状）</p> <p>第7回：【生徒指導】学校内の生徒指導体制と外部の専門家、関係機関等との連携。</p> <p>第8回：【進路指導】進路指導・キャリア教育の意義や原理、指導方法</p> <p>第9回：【進路指導】進路指導・キャリア教育の諸理論1（キャリア教育に関する歴史と基礎理論）</p> <p>第10回：【進路指導】進路指導・キャリア教育の諸理論2（教育課程との関連と体験活動の意義）</p> <p>第11回：【進路指導】進路指導・キャリア教育の諸問題1（進学を含んだ進路・職業選択の支援）</p> <p>第12回：【進路指導】進路指導・キャリア教育の諸問題2（家庭と学校の連携とキャリア形成）</p> <p>第13回：【進路指導】中等教育問題およびキャリア形成支援の実践（青少年行政と学校での指導）</p> <p>第14回：【進路指導】キャリア・カウンセリングの理論と実践（ポートフォリオの活用）</p> <p>定期試験：実施しない</p>			
テキスト：『生徒指導提要』文部科学省 東洋館出版社 2023年			
参考書・参考資料等：『生徒指導・キャリア教育』吉田浩之（著）北樹出版 2021年			
<p>学生に対する評価：(1) 期末レポート(40%)</p> <p>(2) 毎回の講義内リアクションペーパー(60%)</p>			

授業科目名： 教育相談及びカウンセリング	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高島英公子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校及び高等学校 社会・地理歴史）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標：(1) 授業のテーマ=児童生徒の心理的特質や発達状況、教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な教育相談及びカウンセリングについての理論と技法を身につける。(2) 到達目標=①学校における教育相談及びカウンセリングの意義や理論と方法について理解し、説明することができる。②基本的な教育相談的対応（受容、傾聴、共感的理解など）を理解し実践することができる。③学校内外の組織的な取組みや連携の必要性を理解し、説明することができる。			
授業の概要：社会生活を営む上で、自己理解や他者理解、コミュニケーションのあり方を学ぶことは必要不可欠なものである。そのため、教育相談はすべての教師がカウンセリング・マインドをもって実践すべきものである。その範囲は、児童・生徒個々の理解と援助の個別面接だけでなく、学級経営、授業や特別活動における指導のあり方、保護者との面談など多岐にわたる。授業では実際の事例に則して基本的な視点を提示し、カウンセリングの基本的な理論と技法を学修できるようにする。			
授業計画（授業時間：1回100分） 第1回：オリエンテーション。講義と演習を組み合わせ、教育相談について具体的に学修する。 第2回：教育相談とカウンセリング、心理療法の異同について。 第3回：自己理解と他者理解、そしてコミュニケーションのあり方について。 第4回：カウンセリングと教育相談について－DVDを通して学ぶ－ 第5回：児童・生徒指導と教育相談について 第6回：全体指導と個別指導について 第7回：学校における教育相談（1）；三次的援助サービスについて 第8回：学校における教育相談（2）；二次的援助サービスについて 第9回：学校における教育相談（3）；一次的援助サービスについて 第10回：「不登校」と「いじめ」の理解と対応について 第11回：非行問題の理解と対応について 第12回：育てるカウンセリングとは～SGEやSST 第13回：Q-Uをとおしての個人と学級の理解 第14回：保護者・地域・関係機関との連携 定期試験：実施しない			
テキスト：トピックに合わせて資料を配布する。			
参考書・参考資料等：『教育相談の理論と方法: コアカリキュラム対応』会沢信彦(著) 北樹出版 2019年			
学生に対する評価：(1) レポート(40%) (2) グループワークの参加発表(30%) (3) 小レポート(30%)			

シラバス：教職実践演習

教職実践演習（中・高）		単位数：2単位	担当教員名：鈴木芳明		
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	25人				
<p>教員の連携・協力体制：(1)学内：教職課程運営会議（定例年1回）及び教職課程会議（定例年2回）において、学長、副学長、学部長、学科主任、教務部長・文学部学務委員長・教職担当教員（3名）・教育実習提携校校長（2名）等と実施状況や教育内容等について報告審議。(2)学外：学校訪問授業見学実施校（小、中、高、特支）校長と教職課程主任が連携し計画実施。</p>					
<p>授業のテーマ及び到達目標：(1)教員としての使命感や責任感、教育的愛情等について自覚し、説明することができる。(2)社会性や教員としての対人関係を築く能力を身に付け、説明することができる。(3)生徒理解の深化を図ると共に学級経営を円滑にできる能力を見に付け、説明することができる。(4)教科及び領域（特別活動、道徳等）におけるICT教育を含む指導力の向上を図り、説明することができる。(5)Society5.0時代に対応したICT教育の在り方について学び、説明することができる。(6)令和の日本型学校教育について学び、説明することができる。</p>					
<p>授業の概要：実際の学校の視点を取り入れ、ICT教育を含む多様な演習型授業を通して、教員としての実践的な指導方法及び技能の向上を図る。そして、受講者が他者との討論を通して、各自の課題を見付け、教職として必要な資質能力、知識技能を身に付けたかを確認する。</p>					
<p>授業計画（授業時間：1回100分）</p> <p>第1回：オリエンテーション。履修カルテの振り返り。教職の意義と役割について。</p> <p>第2回：ICTを活用した模擬授業とグループ討論「道徳科の授業と評価」。</p> <p>第3回：ICTを活用した模擬授業とグループ討論「教科授業」。教育実習の振り返り</p> <p>第4回：ICTを活用した発表とグループ討論「平成29・30・31年改訂新学習指導要領の要点」。</p> <p>第5回：校外学習(1)「中学校の授業見学と調査」（文京区立音羽中学校）</p> <p>第6回：ICTを活用した発表とグループ討論「学級経営の工夫と特別活動の指導法」。</p> <p>第7回：校外学習(2)「中高の授業見学調査と校長先生ご講話」（私立京華女子中学高等学校）</p> <p>第8回：ICTを活用した模擬授業とグループ討論「総合的な学習（探求）の時間の指導法」。</p> <p>第9回：演習「教育相談の実際、ロールプレイ」とグループ討論。</p> <p>第10回：演習「SNSに関するマナー教育と指導」とグループ討論。</p> <p>第11回：校外学習(3)「小学校の授業見学調査と校長先生ご講話」（文京区立窪町小学校）</p> <p>第12回：ICTを活用した発表とグループ討論「教員の職務内容と働き方改革」。</p> <p>第13回：ICTを活用した発表とグループ討論「学校安全と防災教育」。／校外学習(4)「特別支援学校見学調査と体験学習」</p> <p>第14回：ICTを活用した発表とグループ討論「令和の日本型学校教育」。</p> <p>定期試験：実施しない</p>					
テキスト：教職実践演習記録簿／跡見学園女子大学「教職課程」					
参考書・参考資料等：石井英真・渡邊 洋子（著）『教育実習・教職実践演習・フィールドワーク（教職教養講座）』協同出版（2018年発行）					
学生に対する評価：(1)小論文・レポート(毎回の課題 合計90%) (2) 授業参加(10%)					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認

し、「○」と記載すること。

- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。